

相撲——縣出身幕下力士十年春場所成績——本縣出身東西幕內、十兩力士略歴——

Table listing sumo wrestlers by division (幕下, 十兩, 幕內) and their performance in the 10-year spring tournament. Columns include names, divisions, and win-loss records.

本縣出身東西幕內、十兩力士略歴 (十年春場所現在)

Table listing the current status of sumo wrestlers from the county in the 10-year spring tournament. Columns include names, divisions, and performance metrics.

關西相撲協會會番附

(十年七月六日 第六回本場所)

Table listing the schedule and participants for the Kansai Sumo Association tournament. Columns include dates, divisions, and names.

Main table of sumo tournament results, organized by day (初日 to 九日目). Columns include match numbers, names, and win-loss records.

關西本場所成績

(一月四日から關西場所)

Summary table of the Kansai tournament results, listing overall performance for various divisions and names.

相撲—三月東京場所

優勝者 大嶽 龍

三月東京場所

関西相撲協会第一回東京場所 三月十一日から八日間蔵前高工跡で擧行した。

長良川(突き落し)陸奥の里

優勝者 大嶽 龍

十三錦(上手投げ)汐ヶ濱

天龍2 能登海

相撲—三月東京場所

天龍2 能登海

二日目

武の里 1 陸奥の里

津輕嶽 0 汐ヶ濱

常盤野 0 陸奥の里

大高野 1 能登海

肥州山 0 陸奥の里

天龍2 能登海

天龍2 能登海

相撲—三月東京場所

天龍2 能登海

三日目

武の里 1 陸奥の里

駒嶽 0 汐ヶ濱

同準決勝

天龍2 能登海

同準決勝

天龍2 能登海

天龍2 能登海

相撲—三月東京場所

天龍2 能登海

四日目

武の里 1 陸奥の里

沙ヶ濱 0 上宮山

同準決勝

天龍2 能登海

同準決勝

天龍2 能登海

天龍2 能登海

相撲—三月東京場所

天龍2 能登海

五日目

武の里 1 陸奥の里

同準決勝

天龍2 能登海

同準決勝

天龍2 能登海

天龍2 能登海

相撲—三月東京場所

天龍2 能登海

六日目

武の里 1 陸奥の里

同準決勝

天龍2 能登海

同準決勝

天龍2 能登海

天龍2 能登海

相撲—三月東京場所

天龍2 能登海

七日目

武の里 1 陸奥の里

同準決勝

天龍2 能登海

同準決勝

天龍2 能登海

天龍2 能登海

天龍2 能登海

相撲—第四回相撲選士権大會武蔵山優勝

天龍2 能登海

天龍2 能登海

相撲—第四回相撲選士権大會武蔵山優勝

天龍2 能登海

天龍2 能登海

相撲—第四回相撲選士権大會武蔵山優勝

天龍2 能登海

天龍2 能登海

相撲—第四回相撲選士権大會武蔵山優勝

天龍2 能登海

相撲—本社主催第四回青森縣相撲大會—郡市豫選日—各郡市代表選手一覽

五五〇

第一部

Table listing names and locations for the first division of the sumo tournament, including participants like 武藏山, 岩波川, and 檜山.

△決勝

武藏山(送り出し)男女川
選士権挑戦試合
武藏山(寄り切り)玉錦

本社主催第四回青森縣相撲大會

Text describing the tournament details, including dates (June 24-29), location (Aomori), and the significance of the event.

郡市豫選日

岩木川君が優勝した、尙兩日の戦績は別記の通りである。

Table listing prefectural selection dates and venues for various municipalities like 青森市, 弘前市, and 八戸市.

各郡市代表選手一覽

(相撲名の上の●は第三回)
大會の選手、●は補缺

Main table listing representative sumo wrestlers from various districts, including names, birthplaces, and physical attributes like height and weight.

Large table listing representative sumo wrestlers from various districts (North, South, East, West, etc.), including names, birthplaces, and physical attributes.

相撲—各郡市代表選手一覽

五五一

相撲—大會戦績
補 高 登 龜 田 秀 逸 三 安 方 町 五・五・六 三三・六〇〇
駒 若 福 士 千 太 郎 三 長 島 町 五・四・〇 一八・五〇〇

大會戦績

第一日八月十一日 (郡市對抗戦)

第一回戦
西 郡二—三中 郡
鶴 渡 (吊り出し) 花の里
吉 野 (引き落し) 櫻の川
三 野 (引き落し) 藤の花
岩 木 (踏み越し) 柴田
岩 木 (押し出し) 三輪山
北 郡三—二弘 前
藤の川 (堀ひ投げ) 駒 勇
藤の川 (切り返し) 東 川
朝日嶽 (吊り出し) 千 年
鶴ヶ嶽 (押し出し) 朝 田
鬼の里 (突き出し) 八の里

第二回戦
青 森三—二中 郡
太 勝 (切り返し) 三輪山

北 郡三—二東 郡
朝日嶽 (突き膝) 上磯湯
藤の川 (寄り出し) 大の浪
藤の里 (突き出し) 勝の山
鶴ヶ嶽 (寄り出し) 朝 昇
鬼の里 (浴せ倒し) 陸奥錦

三 戸 郡三—一八 戸
小松山 (渡し込み) 千代の花
稲荷山 (足取り) 清水川
不動山 (踏み越し) 八甲山
伊達の里 (下手投げ) 太平洋

五五二
第二回戦
上北郡二—三北 郡
稲荷宮 (上手投げ) 藤の川
小武藏 (叩き込み) 朝日嶽
徳の川 (吊り出し) 藤の里
日の出山 (吊り出し) 陸奥錦
末の山 (押し出し) 鬼の里

優 勝 戦
青 森三—一中 郡
太 勝 (突き倒し) 花の里
日本海 (突き放し) 櫻の川
濱 嵐 (踏み越し) 三輪山
合浦ヶ濱 (突き倒し) 柴田
港 岩 藤の花

中 郡三—〇三 戸 郡
柴 田 (押し出し) 小松山
櫻 川 (突き出し) 宮の松
三輪山 (二枚蹴り) 不動山

決 勝 戦
三 戸 郡三—一八 戸
上磯湯 (腰砕け) 西の海
朝 昇 (外掛け) 鶴 渡
大の浪 (突き手) 岩 木
弘 前 (内掛け) 太平洋

決 勝 戦
北 郡一—三中 郡
藤の川 (押し出し) 柴 田
朝日嶽 (腰砕け) 櫻 川
鶴ヶ嶽 (切り返し) 三輪山
鬼の里 (押し出し) 花の里

第一日八月十二日 (個人優勝戦)
第一回戦
不動山 (寄り倒し) 高 負
大 原 (打棄り) 東 川
朝 昇 (吊り出し) 陸 奥
千 年 (堀ひ投げ) 港 岩
三 野 (引き落し) 柴 田
宮 橋 (引き落し) 大の浪
駒 勇 (吊り出し) 太平洋
藤の花 (打棄り) 太 勝
稲荷山 (三) (腰砕け) 四方山

第二回戦
不動山 (上手投げ) 合浦ヶ濱
稲荷山 (下) (外掛け) 大の浪
三輪山 (掛け投げ) 朝 昇
千 年 (押し出し) 徳の川
宮 橋 (堀ひ投げ) 藤の川
鶴 渡 (渡し込み) 藤の川
千 年 (踏み越し) 日 本
伊達の里 (突き出し) 千代の花

決 勝 戦
三 戸 郡三—一八 戸
上磯湯 (腰砕け) 西の海
朝 昇 (外掛け) 鶴 渡
大の浪 (突き手) 岩 木
弘 前 (内掛け) 太平洋

決 勝 戦
北 郡一—三中 郡
藤の川 (押し出し) 柴 田
朝日嶽 (腰砕け) 櫻 川
鶴ヶ嶽 (切り返し) 三輪山
鬼の里 (押し出し) 花の里

相撲—大會成績

五五三

Table of sumo match results for the West (西) side, listing names, ranks, and outcomes.

東京本場所五月成績

Table of sumo match results for the East (東) side, listing names, ranks, and outcomes.

太岩藤上藤湊藤岩駒藤太藤岩三... 勝木の磯のの木... 山川里湯川山里川勇川山里川山

決勝リーグの主なる勝負... 宮駒合上三藤湊太岩藤... 宮駒合上三藤湊太岩藤

決勝リーグ星取表

相撲—決勝リーグ星取表—青森縣相撲大會役員

青森縣相撲大會役員... 同副會長 同社社長 同取締役 同工務 同同務 同同務 同同務

太湊岩太岩駒宮岩太湊藤合湊藤岩... 勝木の磯のの木... 山川里湯川山里川勇川山里川山

選手監督 本同同青上八... 池大關藤菊細木岡水海原... 八戸市市市郡郡郡郡郡郡

相撲——縣出身幕下力士夏場所星取表——關西相撲協會大の里引退披露弘前本場所

縣出身幕下力士夏場所星取表

Table of star ratings for wrestlers from various prefectures. Columns include names like 津輕岳, 十三錦, 可愛岳, etc., and their performance records.

關西相撲協會大の里引退披露弘前本場所

Table showing the results of the first round (第一組) for the Kansai Sumo Association. Lists names like 津輕岳, 武の里, 松の里, etc., with their match outcomes.

Table showing the results of the second round (第二組) for the Kansai Sumo Association. Lists names like 長良川, 霞ヶ浦, 玄海, etc., with their match outcomes.

Table showing the results of the third round (第三組) for the Kansai Sumo Association. Lists names like 津輕岳, 武の里, 松の里, etc., with their match outcomes.

Table showing the results of the fourth round (第四組) for the Kansai Sumo Association. Lists names like 津輕岳, 武の里, 松の里, etc., with their match outcomes.

Table showing the results of the first round (第一組) for the Kanto Student Sumo Alliance. Lists names like 津輕岳, 武の里, 松の里, etc., with their match outcomes.

Table showing the results of the second round (第二組) for the Kanto Student Sumo Alliance. Lists names like 長良川, 霞ヶ浦, 玄海, etc., with their match outcomes.

Table showing the results of the third round (第三組) for the Kanto Student Sumo Alliance. Lists names like 津輕岳, 武の里, 松の里, etc., with their match outcomes.

Table showing the results of the fourth round (第四組) for the Kanto Student Sumo Alliance. Lists names like 津輕岳, 武の里, 松の里, etc., with their match outcomes.

Table showing the results of the first round (第一組) for the Kansai Sumo Association. Lists names like 津輕岳, 武の里, 松の里, etc., with their match outcomes.

Table showing the results of the second round (第二組) for the Kansai Sumo Association. Lists names like 長良川, 霞ヶ浦, 玄海, etc., with their match outcomes.

Table showing the results of the third round (第三組) for the Kansai Sumo Association. Lists names like 津輕岳, 武の里, 松の里, etc., with their match outcomes.

Table showing the results of the fourth round (第四組) for the Kansai Sumo Association. Lists names like 津輕岳, 武の里, 松の里, etc., with their match outcomes.

關東學生相撲聯盟

東都五大學の主將を首め十八名の最強豪を網羅した關東學生相撲聯盟對本縣相撲選手戦は七月十三日午前九時から青森市浦町成文製材所跡に於て、十四日弘前驛前に於て縣下相撲ファン熱狂裡に舉行された、對戦した本縣選手は岩木川を首め櫻川、藤ノ里、太勝山、日本海等

本縣側

の強豪を網羅し果して學生軍勝つか全青森軍勝つか非常な興味を持たれたが、來襲した聯盟軍及これと對戦する本縣選手は左の如くである。

大垣明大五、七 三 右四つ
齋藤立教五、五 三 押切
現主將、昭和八年全國大會にて第三位
中島東醫五、五 二 左四つ
副將、取口巧妙にて學生相撲界の曲者
仲戸早大五、六 三 押出し
彼の頭突は本相撲さへ受けられぬと云ふ強さで今年全國學生大會の個人優勝候補
日比野法政五、七 三 吊出し
副將、新人なるも其の強さ學生界に怖れられて居る
岡部明大五、五 三 左四つ
取口巧妙にて毎年個人優勝候補者
橋本法政五、七 二 吊出し
同校中堅選手
金子明大五、六 二 押切
學生相撲界彼の頭突を受けるものなく今年度の優勝(個人)候補
吉岡明大五、七 三 右四つ
同校中堅選手
奥村法政五、五 二 捻り
現主將
河原立教五、五 三 押出し
瀧澤明大五、六 三 左四つ
井大正大五、四 二 押出し
古郡日大五、六 二 はたき込

相撲——關西相撲協會大の里引退披露弘前本場所——關東學生相撲來襲

一年の主なる出来事

昭和九年五月から十年四月までの青森縣に於ける又は青森縣に關係ある主なる社會的出来事

遭難・椿事

◇**成田弘前市長奇禍**
弘前市長成田徳之進氏(七七)は名古屋の全國市長會議よりの歸途五月五日夜東京萬世橋附近で折から疾走してきた圓タクを避けんとして顛倒し右下腿部に治療二ヶ月の骨折を受けた。

◇**山崩れて六名埋没**
五月二十二日正午頃の大豪雨で西郡岩崎村大字大間越の炭焼小屋二棟が山崩れの下敷となり同小屋に避難休憩中の淺田宇吉(六三)外五名(何れも秋田縣人)が共に埋没され惨死した。

◇**落雷で四名即死**
五月二十二日正午頃縣下一帯を襲つた大豪雨に伴ふ落雷のため次の四名が即死した。南郡十二里村佐々木ミサ(三三)、南郡石川町淺利三吉(三三)、南郡女鹿澤村成田菊太郎(三三)、北郡梅澤村

鈴木くにえ(六)。
◇**軌道橋架替て人夫七名重傷**
七月二十六日午前大鰐營林署手平川軌道架替工事で取替が外れ、約四千貫の石材及石俵が崩れて弘前市謙田幸次郎(三八)外六名が重傷を負つた。

◇**トラツク崖から顛落**
八月三日八戸市小中野町山口正次郎がトラツクに薪を満載し他に六名の人を乗せて島守村より八戸へ進行中、三戸郡是川村山道路路で二丈餘の崖から顛落し八戸市大橋慶次郎(四〇)は即死他は奇蹟的に微傷だに負はなかつた。

◇**採石場で火薬爆発**
八戸市鮫崎町井工業所採石場で八月十八日午後火薬が爆発し大館村加賀新太郎(三四)、八戸市大館岩三(三八)の二重傷者を出した。

◇**電鐵、自動車と衝突**
九月十六日午後八戸市大島健次(三七)は乗客一名の乗つた自動車を運轉して三戸郡上長苗代村踏切で五戸電鐵に衝突し、運轉

手、助手、乗客は輕傷。
◇**碓ヶ關營林署ト脱線**
九月二十二日午後碓ヶ關營林署遠部澤事業所奥、古遠部澤でトローリ脱線顛覆し、碓ヶ關村北川與一(五五)、同村金崎和吉(四七)の兩名が即死し、他に重傷者四名を出した。

◇**女生徒トローリで惨死**
八戸尋常小學校生徒四百名が九月二十七日三戸郡大館村松館石灰砕石場に遠足に行つた際尋常四島静子(二〇)が落した帽子をとらうとしてトローリの間に顛落し、折から進行してきたトローリの下敷となつて惨死した。

◇**トローリ覆五名重傷**
十月二十九日午前東郡新城村姥名留吉(三三)外四名が青森營林署より天間内に通ずる軌道をトローリに乗つて進行中顛覆して六名は夫々治療二週間を要する傷を負つた。

◇**トラツク崖より顛落**
十月二十七日午後黒石町運轉手石岡廣己(三三)が田舎館村三橋重三郎(三八)外三名をトラツクに乗せて南郡山形村石名坂にかつた際約一丈の崖から顛落し三橋外一名は治療一月の重傷、石岡外二名は輕傷を負つた。

◇**和田田歸りの自動車顛覆惨事**
十一月四日夜三戸町久保田勇

(三〇)が運轉する十和田湖遊覽歸りの自動車に七名を乗せて三本木町山手街道にさしかかり、深き四間の用水堰に顛落して七戸町新谷ツマ(三三)、三戸町白木虎四郎(三三)が即死、他の六名も治療三週間を要する重傷を負つた。

◇**臨元海岸に露人漂着**
十一月二十二日北郡臨元海岸に解に乗つた露労働者ニコノロウイチチ(九)、アレササンドロウイチチ(二九)、ホロコフウイツチ(三〇)の三名が漂着し十月二十四日浦鹽港で就業中暴風のため流されてきたものと判明し、縣特高課では函館蘇聯領事館へ引渡した。

◇**大吹雪で校舎倒壊**
西郡柴田村柴田小學校で新築中の體操場、裁縫室の二階建が十一月二十八日夜の大吹雪で大音響と共に倒壊したが幸人畜に異状はなかつた。

◇**臨港倉庫で硫黄爆発**
一月十日午前八時半頃青森港岸壁にある青森臨港倉庫硫黄貯藏第十三番庫の硫黄が過失による自然發火で轟然と大爆発し同所で作業中の青森市旭町細川與作(三四)が窒息死、東郡油川町石田宇一郎(三七)外十八名の臨時人夫が夫々重傷を負つた。當時十三番庫には約一千トンの硫黄

が積まれ、碓泊中の英國船オウズブリツヂ號に積載すべく解積作業をなしてゐる中に崩れ出し摩擦の爲に自然發火したもので青森常備、水上各消防隊及歩五より防毒マスクを持つて葛西中尉外四十三名が赴き死傷者を收容し、責任者として現場監督四名が送検された。

◇**金芳丸沈没事件**
一月十三日午前零時七分頃青森市より北方十哩、夏泊半島より西方七哩、東郡蓬田村瀬邊地より東方三哩、水深五十四米の點で函館より青森市へ向けて航行中の青函連絡貨物船第一青函丸(二、三二六トン)がトローリ機船と衝突してこれを沈没せしめた事件あり、翌十四日青森水上署で鐵道側や青森トローリ船組合と協力して現場検査の結果沈没機船は青森市山田才吉所有船長以下十名乗組のトローリ船金芳丸(二八トン)と判明した。乗組員は

全部船體と共に海底にあるものとみられ、青森トローリ組合では組合船を總動員して引揚げに努めた海底があまりに深いため成功せず、鐵道側に依頼してサルベージの活動を乞ふたが、鐵道側の態度は荏苒として決せず世間に非難された。一月十七日正午頃船體引揚に出動中のトローリ船に沈没現場附近で水夫本間茂の死體が引きあげられ一月二十一日は現場で海底に眠る九つの靈のために涙の水葬を行ひ翌二月十九日より青森水上消防除若松部長の考案による引揚方法をもつて本作業を開始し、同月二十五日には約十尺引上げることに成功、三月二日には蓬田沖合一哩の點まで引き、同四日には沈没以來五十一日目をもちつて青森市蜷貝町片桐造船所沖合に曳船した、潜水夫の手で死體收容をなしたこの日は水夫渡邊萬一郎(三六)の死體を發見したきり、六日變り果てた船體を片桐造船所に陸揚げした、陸揚げと共に水夫徳田與之松(三〇)、同小倉忠五郎(三三)の死體を發見したが、他は發見出来ず、船體は右舷中腹よりぎつくり連絡船に食ひ込まれた跡あり、函館海事部よりは富永理事官が來青して

詳細檢證し、原因について目下函館海事部に於て審理中である尚青森水上署では殆ど不可能視された金芳丸引上げに種々研究の結果成功した水上消防隊若松部長外隊員十二名を表彰した。

◇**船員二名波に溺れる**
一月二十八日正午頃東郡龍飛を去る約七哩の海上で作業中の青森市渡邊廣治所有のトローリ船第八松丸より水夫秋田縣秋山長治(三三)、西郡十三村本莊義美(三三)が激浪に洩はれて海中へ顛落溺死した。

◇**碓ヶ關公會堂の椿事**
二月九日午後零時半頃西郡碓ヶ澤町公會堂で開催中の南洋巡回博覧會を見學中南海小學校尋五以上男女約三百名が主催者の説明を聞いてゐる最中同公會堂二階表海岸に面した約六坪が生徒等に乗せたまま、眞下のコンクリート玄關に墜落し重傷者尋五長谷川良一(二〇)外三名、輕傷者尋五新保リツ(二二)外二十二名を出し、長谷川良一は十三日遂に死亡した。

◇**電鐵、バスと衝突**
四月五日午後七時頃八戸五戸間の縣道踏切で小林運轉手操縦のバスガソリンカーと衝突し、運轉手及助手も輕傷を負つた。

◇**午砲臺の火薬庫爆発**
四月十一日午前五時半頃の青森市浦町操車ヤード南方の午砲臺火薬庫が爆発したが、これは同市沖館精神病者佐山元太郎(五二)が點火したものと判明、同人は黒焦となつて附近に倒れてゐた。

◇**弘前で花火工場爆発**
四月十八日午前九時十五分頃弘前市桔梗野無料宿泊所内工藤定吉(六六)方煙火工場の火薬庫が爆発し、主人の工藤は治療一ヶ月の重傷でその後死亡しその他四名は輕傷を負つた。

△船長青森市濱谷長太郎(三七)△機關長同天野宗一郎(三三)△水夫長函館市坂口重太郎(三六)△水夫蓬田村佐井武三(三四)△函館市徳田與之松(三三)△同中村一郎(三三)△新潟縣本間茂(三三)△同渡邊萬一郎(三六)△同渡邊萬次郎(三三)△一本木村小倉忠五郎(三三)の十名で、

一年中の主なる出来事——不穩・陰謀

◇**赤化教員事件判決**
昭和八年末コップ弘前地區結成のため暗躍してゐた弘前地方教員二十六名が檢舉されその中起訴されたのは相馬寒六郎(三三)唐牛進(三三)、菊池剛(三三)の三名だけであつたが、七月二日青地で豫審終結し、教材を逆用して兒童赤化を試みたことなどその全貌が判明した。同月二十四日に唐牛、菊池、二十六日に相馬の公判が非公開裡に開廷され同年十一月十一日相馬へ求刑通り懲役三年、唐牛、菊池へは各懲役二年(但五年間執行猶豫)の判決があつた、相馬は控訴し、宮城控訴院

五五九

に於ても原審通りの判決を受け刑を執行されたが、病氣のため停止となり九月四月歸宅を許された。

無電技師オルグ捕はる

七月二十四日青森水上署刑事が聯絡待合から舉動不審の青年を引致したがこの者は小樽市船無電技師クラブ支部長米山大甫(三七)で神戸に於ける待遇改善要求のゼネスト指揮に當るべく赴く途中と判明、市内より關係者を他に三名檢舉したが、種々取調の結果非合法團體に關係なき旨が分つたので八月十三日釋放された。これで神戸のゼネストが未然に防がれたので探知した水上署齊藤刑事は特高課長より金一封を受けた。

凶作地赤化事件檢舉

縣特高課では十一月二十三日午前四時を期して弘前地方から佐藤多三郎(三九)外四名、黒石地方から同町々議加藤清作(三四)外十一名を檢舉したがその後青森地方及弘前高等學校等より續々檢舉をみ總數四十五名、中五名は弘高生であつたが、これは佐藤多三郎等が中央奪還全國會議派を支持して全農多數派の組織に参加し、本縣委員會を組織してメンバー獲得につとめ、コッブ(科學同盟)の再建を圖つてゐる。

強窃盗

たことが發覺したものである、檢舉された者の中、佐藤多三郎、鳴海謙造、島口重次郎、宮崎辰治、渡邊正吉の五名が黨員と判明し、四月五日五名は送檢となつた、尙弘高生二名は二月九日退學處分を受けた。

縣知事暗殺計畫者逮捕

一月十一日夜青森水上署の久保田、齋藤兩刑事が連絡待合に於て刃渡り六寸五分の短刀を所持してゐる男を逮捕、取調の結果この者は元樺太廳元泊林務署森林主事長尾甲郎(三四)で在職中の長官當時大阪府知事縣忍氏を山林拂下に關する私怨から暗殺のため東上する途中と判明し、殺人未遂罪で送檢したが、青森檢事局で盛岡市三浦博士の鑑定によつて精神病者と判り、不起訴となつて二月二十一日現住所札幌市へ護送された、尙久保田、齋藤兩刑事は警察部長より表彰された。

強窃盗

東郡新城村中村常義(四六)は四月二十七日夜新城街道で、乗せて貰つた駄夫青森市三浦勘七郎(三三)の背後より棍棒で減多打ちにし所持金を強奪せんとしたが

前科十二犯の米泥逮捕

八月二十三日午前二時頃青森市長島のごぼ堰で格闘してゐる二人の男があつたが一人は三上部長刑事で一人は白米泥であるが、逮捕されて後、青森署で取調べられ二十餘日沈黙をつゞけて來た末に青森市造道字浪打生れ當時住所不定前科十二犯大澤徳三郎(五三)と自白した。

監房から抜けて遊興

九月六日午前零時半頃五所川原署監房に留置されてゐた窃盜被疑者北郡松島村小野淺吉(三〇)は格子から手を出し棧を離して逃走し、カフエー二軒で飲酒し郷里の自宅へ歸つたところを御用となつてまた監房へ逆戻り。

短刀で脅迫強奪

西郡大戸瀬村工藤連四郎(三三)は餘ヶ澤町で賭博の歸途、勝つた者の後を追つて短刀で脅迫し約八百圓を強奪したことが判明して九月十五日餘ヶ澤署に檢舉され十二月十日弘前支部で懲役二年六月を宣告された。

少年の馬草強盜

北郡梅澤村成田男治(二六)假名は梅田、横濱の間の田圃で馬草を刈つてきた少年を鎌で切りつけ馬草を盗み同村鈴木某(一九)一九に傷を負はせ、また小學生

未成年者の強盜多し

八戸市湊町で老婆を襲つた犯人が八戸署で嚴探の結果同市湊町佐々木正夫(二〇)假名を逮捕した、九年五月から十年にかけて未成年者の犯罪多し、八戸田名部、青森、五所川原、藤崎弘前等に於て強盜、強盜被疑者として未成年者の檢舉せられるもの二十數件に及び、殊に小學校生徒がその大半を占めてゐるのには寒心に堪へぬ。

檢査課長債券を盗む

弘前五十九銀行檢査課長山田太七(四九)氏は三月二十七日突如縣刑事課の手に檢舉されたが、山田檢査課長は九年九月十八日青森五九支店の行務檢査に際し立會行員の目を掠めて五分利附國債千圓券五枚を窃取し、東京及仙臺の株店に送つて現金三千四百圓、債券六百八十圓代に換へたことが判明したものである。

山田課長の犯行は株に手を出し

山田課長の犯行は株に手を出し、負債がかさんだ結果である、尙この檢舉は縣刑事課が十二月以來捜査を續け疾風迅雷に檢舉したもので檢舉以來四日目に窃盜罪とし送檢直ちに起訴となつた。

婿へ窃盜の濡衣

青森市浦町日雇辻武四郎(四七)は同人の婿養子齋藤某(三七)が

自動車内の強盜

十月二十三日午前一時頃東郡野内村善知島前トンネル附近で青森市古川タクシー業奈良喜佐雄(三〇)の運轉してゐる自動車の客栃木縣生れ中山房義(三三)が突

自動車の強盜

然刀渡り六寸五分の短刀で奈良に襲ひかゝり、大格闘をなし奈良は右手に負傷したが同乗の助手がこれを淺虫派出所に急報したので犯人は青森署員に逮捕された、中山は淺虫旅館に無錢投宿し、青森に來つて遊廓で無錢遊興し、奈良タクシーに乗つて弘前まで走らせ、更に引き返して青森を過ぎ淺虫に至る途中でこの犯行となつたもので強盜傷人として青森地方裁判所で懲役四年の判決を受けた。

鷄二百羽を盗む

中郡相馬村山内正彦(二二)は今年四月頃から九年九月までに前後二十二回にわたつて同村及弘前市内より鷄二百餘羽を盗み、殊に藤代村吉崎方よりは一舉に三十四羽窃盜したことが判明し十月二十三日弘前署に檢舉された、尙窃取した鷄は弘前市内で賣却して遊興に費してゐた。

任職の枕探し

一年中の主な出来事 殺傷

上北郡六ヶ所村大字尾駿の寺

松壽庵主佐々木宏道(三三)は十月十八日夜寺に泊つた同村早水市之助の枕の下から九十三圓入りの財布を抜取つたことが發覺された。

青銀住宅へ強盜

十二月十日午前零時頃青森市大町青森銀行住宅に覆面持兇器(一尺程の鐵棒)の強盜押入り主人と押問答の末金四圓餘を強奪して逃走、青森署で嚴探の結果東郡油川町前科四犯三上金太郎(三七)を逮捕し犯人は遂に自白し青森地方で懲役五年を宣告された。

横濱村に強盜

十二月十六日上北郡横濱村高橋方に覆面出刃庖丁持の強盜入り、同家妻女を脅迫の上現金四圓を奪取逃走、犯人未就縛。

弘前署で強盜逮捕

二月十日朝弘前署前で南郡尾崎村前科一犯小山内清見(三三)が弘前署員に逮捕されたが、小山内は弘前市内で強盜未遂、強盜窃盜等を行つてゐたものでこの朝堀越村阿保方に入り、金を出さねば殺すぞと脅迫し、以前には土藏破り常習であつた、弘前支部で審理の結果懲役五年判決。

ヤカーを盗んだと青森署へ訴へ

出たが、これは武四郎が齋藤を家から出したため、武四郎は盗んだものと判明し、武四郎は窃盜罪で送檢。

神様を強奪

北郡鶴田村三浦藤太郎方で祭つてゐる石神様を、四月六日朝同村芹川倉吉(六六)外八名男女が無理に上り込んで強奪したので、九名は五所川原署に檢舉されたが、原因は石神は倉吉の親類たる中畑伊三郎の庭にあつたもので三浦が無断で九年八月に持つてきて神様にしたとて親類一同で押し込んだものである。

殺傷

弘前觀櫻會の殺人

弘前觀櫻會最高潮の五月六日午前三時頃弘前公園四ノ丸カフエー街でコック青森市新町熊坂光雄(二六)が刀渡り八寸の刺身庖丁で只一突きに胸部を刺され即死したが、犯人は弘前市新開地間喜代志(二八)で弘前署に檢舉された原因は一寸した口論から八月三日弘前支部で殺人罪として懲役十五年を求刑されたが、懲役八年の判決を受けた。

尊屬殺人未遂

公判で傷害、東郡原別村農工藤鐵三郎(三三)は實父母を毆打し

て青森署より尊属傷害放火で送検されたが、検事は傷害だけで起訴し、豫審終結は又も尊属殺人未遂となつたが五月十五日の青地での公判に於て殺意否認が認められて検事は單なる傷害罪として懲役一年を求刑、求刑通りの判決があつた。

昭七年七月上北郡有戸から発見された白骨が端緒となつて大正十年夏の殺人事件が暴露し、同郡天間林村農澤田勇吉(五)が被疑者として起訴され、有罪として豫審終結したが、この公判は七月十日青地に開廷、遠藤裁判長一行の實地検査の際証人として訊問され偽證をなした件で起訴された築田重助(五)、千葉軍藏(四)の偽證罪も併合審理した結果、澤田は犯行否認にも拘らず懲役十年を求刑され、築田懲役八月千葉は同六月を求刑され同月二十四日

昭八年七月上旬八戸市の醬油屋殺しとして世間を騒がした八戸市吹揚高橋好藏(四)は八戸支部で強姦致傷、強姦、強盗殺人、死體遺棄罪で死刑の宣告を受け、宮城控訴院の控訴審に於ても同様判決を受けたが、九月十一日大審院に於て死刑確定し宮城刑務所に於て刑を執行する

命女は生命をとり止めた。中郡岩木村集金人工藤淺次郎(三)を殺したの西郡中村芹菴(三)を殺したの(三)と縁ヶ署で決定して弘前支部へ送検となり検事はこれを傷害致死、死體遺棄で起訴したのは九月六月十九日であつたが、豫審も同罪名で終結し、この公判は十月十五日弘前支部に開廷されたが、田中は徹底的に否認、渡邊裁判長は實地検査及被害箇所鑑定十數名にわたる証人喚問等慎重な審理をなし、十一月二十七日の公判に於て米重検事は被告人は有罪なりとして懲役四年を求刑、十二月四日渡邊裁判長は證據不十分なりとして無罪の判決を言渡した、この判決に對して検事控訴もなく、無罪確定したが、淺次郎は誰に殺されたか、或は過失死か依然謎として残されてゐる。

六月二十三日夜青森署古川派出所坂本千代吉巡査は酩酊して同交番前を疾走してきた五所川原町櫻庭運送店のトラックを止め高橋運轉手と新井助手を昏倒するほど殴打したので同巡査は依頼免官となつた。

北郡脇元村運送業山田清太郎(四)は北海道福山で米を賣つた金を懸金を集めたもの一千百圓を携へて歸村し直ちに縁ヶ澤へ行くと稱して七月二日同村を出たきり行衛不明となつたので木造及金木兩署で殺人とみて捜査したが事件の糸口がみつからず、失踪者として約四ヶ月後に捜査を打切つた。

十月十二日夜南郡藤崎町長内料理店に於て朝鮮慶尙北道生れの孫洵特(三)が同家酌婦慶尙南道生れ朴西原(三)に無理心中を迫り用意の刃渡り六寸の匕首をもつて自分の腹部を眞一文字に突き、女の右乳の下を一撃に突きさし幅一寸深さ三寸の傷を與へたので大騒ぎとなり、兩名は絶病院に擔ぎ込まれたが、男は絶

十月二十二日朝弘前市在府町精神病者開坂久太郎(三)が突然暴行を働いたので弘前署紺屋町派出所巡査珍田福四郎氏が組付いて取押へんとしたが、左腕高上膊部を鑿で突き刺されひるまず格闘して遂に取押へた、同

黒石町旅館主工藤恒一郎(四)は六月三十日午後檢徳所よりの検査料配當金が配當されぬのを恨んで同町貸座敷組合長村上平吉(四)に匕首を奮つて切りつけ治療十日の傷を負はせた。

北郡脇元村運送業山田清太郎(四)は北海道福山で米を賣つた金を懸金を集めたもの一千百圓を携へて歸村し直ちに縁ヶ澤へ行くと稱して七月二日同村を出たきり行衛不明となつたので木造及金木兩署で殺人とみて捜査したが事件の糸口がみつからず、失踪者として約四ヶ月後に捜査を打切つた。

十月十二日夜南郡藤崎町長内料理店に於て朝鮮慶尙北道生れの孫洵特(三)が同家酌婦慶尙南道生れ朴西原(三)に無理心中を迫り用意の刃渡り六寸の匕首をもつて自分の腹部を眞一文字に突き、女の右乳の下を一撃に突きさし幅一寸深さ三寸の傷を與へたので大騒ぎとなり、兩名は絶病院に擔ぎ込まれたが、男は絶

十月二十二日朝弘前市在府町精神病者開坂久太郎(三)が突然暴行を働いたので弘前署紺屋町派出所巡査珍田福四郎氏が組付いて取押へんとしたが、左腕高上膊部を鑿で突き刺されひるまず格闘して遂に取押へた、同

七月十八日未明青森市舘貝町山本喜之助(五)は熟睡中何者かに殴打されて頭部に裂傷を負つたが、同家には屢々怪漢が侵入し、今回で四回目の犯行である青森署では關係者を引致して捜査したが同家の財産をめぐるとお家騒動の結果とみられ、犯人は檢舉に至らなかつた。

北郡脇元村運送業山田清太郎(四)は北海道福山で米を賣つた金を懸金を集めたもの一千百圓を携へて歸村し直ちに縁ヶ澤へ行くと稱して七月二日同村を出たきり行衛不明となつたので木造及金木兩署で殺人とみて捜査したが事件の糸口がみつからず、失踪者として約四ヶ月後に捜査を打切つた。

十月十二日夜南郡藤崎町長内料理店に於て朝鮮慶尙北道生れの孫洵特(三)が同家酌婦慶尙南道生れ朴西原(三)に無理心中を迫り用意の刃渡り六寸の匕首をもつて自分の腹部を眞一文字に突き、女の右乳の下を一撃に突きさし幅一寸深さ三寸の傷を與へたので大騒ぎとなり、兩名は絶病院に擔ぎ込まれたが、男は絶

十月二十二日朝弘前市在府町精神病者開坂久太郎(三)が突然暴行を働いたので弘前署紺屋町派出所巡査珍田福四郎氏が組付いて取押へんとしたが、左腕高上膊部を鑿で突き刺されひるまず格闘して遂に取押へた、同

巡査はこのため治療一ヶ月の重傷を負つた。

昭七年七月上北郡有戸から発見された白骨が端緒となつて大正十年夏の殺人事件が暴露し、同郡天間林村農澤田勇吉(五)が被疑者として起訴され、有罪として豫審終結したが、この公判は七月十日青地に開廷、遠藤裁判長一行の實地検査の際証人として訊問され偽證をなした件で起訴された築田重助(五)、千葉軍藏(四)の偽證罪も併合審理した結果、澤田は犯行否認にも拘らず懲役十年を求刑され、築田懲役八月千葉は同六月を求刑され同月二十四日

昭八年七月上旬八戸市の醬油屋殺しとして世間を騒がした八戸市吹揚高橋好藏(四)は八戸支部で強姦致傷、強姦、強盗殺人、死體遺棄罪で死刑の宣告を受け、宮城控訴院の控訴審に於ても同様判決を受けたが、九月十一日大審院に於て死刑確定し宮城刑務所に於て刑を執行する

命女は生命をとり止めた。中郡岩木村集金人工藤淺次郎(三)を殺したの西郡中村芹菴(三)を殺したの(三)と縁ヶ署で決定して弘前支部へ送検となり検事はこれを傷害致死、死體遺棄で起訴したのは九月六月十九日であつたが、豫審も同罪名で終結し、この公判は十月十五日弘前支部に開廷されたが、田中は徹底的に否認、渡邊裁判長は實地検査及被害箇所鑑定十數名にわたる証人喚問等慎重な審理をなし、十一月二十七日の公判に於て米重検事は被告人は有罪なりとして懲役四年を求刑、十二月四日渡邊裁判長は證據不十分なりとして無罪の判決を言渡した、この判決に對して検事控訴もなく、無罪確定したが、淺次郎は誰に殺されたか、或は過失死か依然謎として残されてゐる。

東郡蟹田村小學校増築工事に雇はれてゐた青森市浦町土工齋藤福松(三)は十一月二十八日夜一緒に働いてゐる青森市沖館大工工藤與市と飲酒の末口論し、就寢準備中の工藤の背後より刃渡り六寸五分の薄刃庖丁をもつて斬りつけ後頭部に深き骨膜に達する重傷を負はせた、この公判は二月十四日青地で開廷され懲役一年六月を求刑され、求刑通りの判決があつた。

昭七年七月上北郡有戸から発見された白骨が端緒となつて大正十年夏の殺人事件が暴露し、同郡天間林村農澤田勇吉(五)が被疑者として起訴され、有罪として豫審終結したが、この公判は七月十日青地に開廷、遠藤裁判長一行の實地検査の際証人として訊問され偽證をなした件で起訴された築田重助(五)、千葉軍藏(四)の偽證罪も併合審理した結果、澤田は犯行否認にも拘らず懲役十年を求刑され、築田懲役八月千葉は同六月を求刑され同月二十四日

昭八年七月上旬八戸市の醬油屋殺しとして世間を騒がした八戸市吹揚高橋好藏(四)は八戸支部で強姦致傷、強姦、強盗殺人、死體遺棄罪で死刑の宣告を受け、宮城控訴院の控訴審に於ても同様判決を受けたが、九月十一日大審院に於て死刑確定し宮城刑務所に於て刑を執行する

命女は生命をとり止めた。中郡岩木村集金人工藤淺次郎(三)を殺したの西郡中村芹菴(三)を殺したの(三)と縁ヶ署で決定して弘前支部へ送検となり検事はこれを傷害致死、死體遺棄で起訴したのは九月六月十九日であつたが、豫審も同罪名で終結し、この公判は十月十五日弘前支部に開廷されたが、田中は徹底的に否認、渡邊裁判長は實地検査及被害箇所鑑定十數名にわたる証人喚問等慎重な審理をなし、十一月二十七日の公判に於て米重検事は被告人は有罪なりとして懲役四年を求刑、十二月四日渡邊裁判長は證據不十分なりとして無罪の判決を言渡した、この判決に對して検事控訴もなく、無罪確定したが、淺次郎は誰に殺されたか、或は過失死か依然謎として残されてゐる。

南郡六郷村小野英四郎(五)假名は不良少年であるが、叱つた父親への恨みから一家鑿殺を企て六月中旬に林檎の毒蟲驅除用の砒酸鉛を飯鍋にぶつけかけ、これを食した父親、兄弟等が苦悶し醫師の手當を受けたことを探知した黒石署では十二月五日小野を検挙し、尊属殺人未遂として送検した。

昭七年七月上北郡有戸から発見された白骨が端緒となつて大正十年夏の殺人事件が暴露し、同郡天間林村農澤田勇吉(五)が被疑者として起訴され、有罪として豫審終結したが、この公判は七月十日青地に開廷、遠藤裁判長一行の實地検査の際証人として訊問され偽證をなした件で起訴された築田重助(五)、千葉軍藏(四)の偽證罪も併合審理した結果、澤田は犯行否認にも拘らず懲役十年を求刑され、築田懲役八月千葉は同六月を求刑され同月二十四日

昭八年七月上旬八戸市の醬油屋殺しとして世間を騒がした八戸市吹揚高橋好藏(四)は八戸支部で強姦致傷、強姦、強盗殺人、死體遺棄罪で死刑の宣告を受け、宮城控訴院の控訴審に於ても同様判決を受けたが、九月十一日大審院に於て死刑確定し宮城刑務所に於て刑を執行する

命女は生命をとり止めた。中郡岩木村集金人工藤淺次郎(三)を殺したの西郡中村芹菴(三)を殺したの(三)と縁ヶ署で決定して弘前支部へ送検となり検事はこれを傷害致死、死體遺棄で起訴したのは九月六月十九日であつたが、豫審も同罪名で終結し、この公判は十月十五日弘前支部に開廷されたが、田中は徹底的に否認、渡邊裁判長は實地検査及被害箇所鑑定十數名にわたる証人喚問等慎重な審理をなし、十一月二十七日の公判に於て米重検事は被告人は有罪なりとして懲役四年を求刑、十二月四日渡邊裁判長は證據不十分なりとして無罪の判決を言渡した、この判決に對して検事控訴もなく、無罪確定したが、淺次郎は誰に殺されたか、或は過失死か依然謎として残されてゐる。

十二月十五日深更弘前市東奥義塾應接室に忍び込んだ者ありこれを追跡した同塾小使高山清次郎(三)を裏門で鋭利な刃物をもつて斬りつけ逃走したので弘前署で嚴重捜査したが犯人逮捕

昭七年七月上北郡有戸から発見された白骨が端緒となつて大正十年夏の殺人事件が暴露し、同郡天間林村農澤田勇吉(五)が被疑者として起訴され、有罪として豫審終結したが、この公判は七月十日青地に開廷、遠藤裁判長一行の實地検査の際証人として訊問され偽證をなした件で起訴された築田重助(五)、千葉軍藏(四)の偽證罪も併合審理した結果、澤田は犯行否認にも拘らず懲役十年を求刑され、築田懲役八月千葉は同六月を求刑され同月二十四日

昭八年七月上旬八戸市の醬油屋殺しとして世間を騒がした八戸市吹揚高橋好藏(四)は八戸支部で強姦致傷、強姦、強盗殺人、死體遺棄罪で死刑の宣告を受け、宮城控訴院の控訴審に於ても同様判決を受けたが、九月十一日大審院に於て死刑確定し宮城刑務所に於て刑を執行する

命女は生命をとり止めた。中郡岩木村集金人工藤淺次郎(三)を殺したの西郡中村芹菴(三)を殺したの(三)と縁ヶ署で決定して弘前支部へ送検となり検事はこれを傷害致死、死體遺棄で起訴したのは九月六月十九日であつたが、豫審も同罪名で終結し、この公判は十月十五日弘前支部に開廷されたが、田中は徹底的に否認、渡邊裁判長は實地検査及被害箇所鑑定十數名にわたる証人喚問等慎重な審理をなし、十一月二十七日の公判に於て米重検事は被告人は有罪なりとして懲役四年を求刑、十二月四日渡邊裁判長は證據不十分なりとして無罪の判決を言渡した、この判決に對して検事控訴もなく、無罪確定したが、淺次郎は誰に殺されたか、或は過失死か依然謎として残されてゐる。

東奥義塾小使斬らる

昭七年七月上北郡有戸から発見された白骨が端緒となつて大正十年夏の殺人事件が暴露し、同郡天間林村農澤田勇吉(五)が被疑者として起訴され、有罪として豫審終結したが、この公判は七月十日青地に開廷、遠藤裁判長一行の實地検査の際証人として訊問され偽證をなした件で起訴された築田重助(五)、千葉軍藏(四)の偽證罪も併合審理した結果、澤田は犯行否認にも拘らず懲役十年を求刑され、築田懲役八月千葉は同六月を求刑され同月二十四日

昭八年七月上旬八戸市の醬油屋殺しとして世間を騒がした八戸市吹揚高橋好藏(四)は八戸支部で強姦致傷、強姦、強盗殺人、死體遺棄罪で死刑の宣告を受け、宮城控訴院の控訴審に於ても同様判決を受けたが、九月十一日大審院に於て死刑確定し宮城刑務所に於て刑を執行する

命女は生命をとり止めた。中郡岩木村集金人工藤淺次郎(三)を殺したの西郡中村芹菴(三)を殺したの(三)と縁ヶ署で決定して弘前支部へ送検となり検事はこれを傷害致死、死體遺棄で起訴したのは九月六月十九日であつたが、豫審も同罪名で終結し、この公判は十月十五日弘前支部に開廷されたが、田中は徹底的に否認、渡邊裁判長は實地検査及被害箇所鑑定十數名にわたる証人喚問等慎重な審理をなし、十一月二十七日の公判に於て米重検事は被告人は有罪なりとして懲役四年を求刑、十二月四日渡邊裁判長は證據不十分なりとして無罪の判決を言渡した、この判決に對して検事控訴もなく、無罪確定したが、淺次郎は誰に殺されたか、或は過失死か依然謎として残されてゐる。

一年中の主なる出来事 殺傷

五六三

◆主人親子三人を惨殺

四月二十一日未明本縣と岩手縣々境の久八線岩手縣九戸郡種市村驛前酒類販賣業高橋富藏方へ怪漢が押入り、就寝中の主人富藏(三七)の前額部を斧で斬りつけて即死させ、側の妻まつ(三九)長女たか(四一)も滅多斬りにして逃走せるを午前八時頃発見され、岩手縣久慈署で犯人捜査の結果午後一時過自轉車で陸中八木方面へ逃げてゐる同家雇人岩手縣九戸郡大野村三本木清作(二七)を逮捕、同人は犯行を自白した、原因は清作の姉が清作を學校に入れるため弘前市で女給生活をし多額の借借があるので、これを救ふために主人を惨殺して金を奪はんとしたもので犯行後手金庫から金五十圓を窃取逃走したものである。

詐欺・横領

◆館田油川町長等の不正

縣刑事課では五月二十四日東郡油川町前町長館田鐵太郎、同町議天內重一を檢舉したが、これらは同町舗装工事その他の請負工事に關して請負人天內石太郎市川勘兵衛より館田は昭和八年中に七十圓、五十圓、三十圓、百五十圓と四回に、工事監督員

たる天內は十圓四回、三十圓、一回と五回に收賄したことが判明したもので七月十日の青森區の公判に於て

◆野内村疑獄事件

東郡野内村役場内會計の紊亂振りを一般村民が騒ぎ出したので縣刑事課で内偵を進めてゐたが、六月二十七日突如同村々長澤谷光一(四九)を引致し、更に元收入役秋庭藤吉(五七)、村議川村巖夫(五七)の二名を檢舉したが、澤谷は秋庭川村と共に謀して役場の書類を巧妙に記入して約二萬五千圓の公金を横領したことが判明したもので、七月二十一日秋庭元收入役は業務上横領で起訴され青地の豫審に附された。

◆替玉で保険金詐欺

七戸署で七月十日に上北郡大深内村田島稔(三三)その他を檢舉したがこれは田島が浦野館村保

◆校長が飲食給與金横領

中郡新和村新和小学校長千葉多七は九月二十八日突如辭表を提出したが、これは同校飲食兒童への給食給與金約五十圓を横領費消したことが板柳署の活動によつて暴露されたもので、縣では十月四日懲戒免職とした。

◆新和村収入役の横領

中郡新和村元収入役大高善次郎(五三)は在職中公金五千六十圓餘を横領して娘の結婚仕度金、家人の醫療費等に費消した外、利子をとつて村民に貸つけてゐたことも發覺し板柳署の取調を受けてゐたが十月十七日業務上横領で送檢となり懲役八月の判決があつた。

◆弘前水道課長收賄

弘前市水道課長服部文吉(五〇)は十一月三日夜東京市に於て突如檢舉されたが、弘前市水道工事に材料購入の際に日の出商會主より一千六百圓收賄したことが發覺したもので同月十日濱職罪で起訴され、一月十九日弘前支部に於て懲役八月(但執行猶豫三年)追徴金一千四百五十圓の判決を受けた。

◆巡查寄附金を費消

一年中の主な出来事 詐欺・横領

元縣庶務課長地方課長屋代三津馬(四二)、元庶務課主任屬福士秀藏(四一)は青地で詐欺横領として各懲役八月を宣告されたが、七月十八日宮城控訴院の控訴審に於て無罪の判決を受けたが、これに對して縣刑事課では裏面に偽證事實がひそんでゐるものとして、青森市濱町坂井家主人坂井源八(四四)、同家帳場織田萬五郎(七四)が二十日檢舉され、宮城控訴院に於ける偽證事實を自白し、此處に於ける偽證事實を自白し、控訴院の無罪判決に對して檢事上告をなし、坂井織田は偽證罪として起訴收容した、この公判は一月十六日青森地方裁判所に高瀬裁判長係りで開廷され、檢事は屋代福士に懲役各八月、坂井は織田に同各六月を求刑したが裁判長は證據不十分の故をもつて無罪の判決を與へ、檢事側では直ちに控訴した、尙屋代、福士の詐欺横領事件の上告審は三月有罪と認定して各懲役三月但執行猶豫の判決を與へた。

◆五百町長助役の横領

五戸署では七月十五日五戸町長三浦益三を檢舉したが、三浦町長は昭和七年中養蠶應急資金より五百五十圓を横領し、同年更に八百圓、公益質屋用金庫を種に二百十圓を横領したことが發覺したもので八月十五日八戸區で懲役八月を求刑され、求刑通り三年間の執行猶豫の判決を與へられた、三浦町長の事件が進行中、助役菊池嘉穂の背任罪も暴露し、五戸署に檢舉され請負契約の實際約高と實際額との差額を横領したとの内容であるが、八戸區の公判に於ては證據不十分で無罪、檢事控訴の青地の控訴公判では有罪となり、大審院の上告審でも有罪の判決があつた。

◆縣廳疑獄偽證を生む

元縣庶務課長地方課長屋代三津馬(四二)、元庶務課主任屬福士秀藏(四一)は青地で詐欺横領として各懲役八月を宣告されたが、七月十八日宮城控訴院の控訴審に於て無罪の判決を受けたが、これに對して縣刑事課では裏面に偽證事實がひそんでゐるものとして、青森市濱町坂井家主人坂井源八(四四)、同家帳場織田萬五郎(七四)が二十日檢舉され、宮城控訴院に於ける偽證事實を自白し、此處に於ける偽證事實を自白し、控訴院の無罪判決に對して檢事上告をなし、坂井織田は偽證罪として起訴收容した、この公判は一月十六日青森地方裁判所に高瀬裁判長係りで開廷され、檢事は屋代福士に懲役各八月、坂井は織田に同各六月を求刑したが裁判長は證據不十分の故をもつて無罪の判決を與へ、檢事側では直ちに控訴した、尙屋代、福士の詐欺横領事件の上告審は三月有罪と認定して各懲役三月但執行猶豫の判決を與へた。

◆縣廳疑獄主事補が横領

縣廳主事補東京出張所主任主事補平野郁次郎(三三)は株に手を出したため縣廳の賣上金一萬一千餘圓を横領したことが發覺して東京で八月二十日檢舉された

◆上切田組合長の横領

上北郡三本木町上切田信用組合長中村理藏(四〇)は十一月二十日三本木署に檢舉されたが、組合の金二千圓を昭和三年の縣議立候補の際横領費消し、その他背任横領額は六千四百圓となつてゐることが判明したもので自白したので二十五日送檢となつた。

◆弘前無盡の横領社員

弘前市元寺町弘前無盡會社整理係丹羽信行(三七)は會社の金八百圓を横領したことが發覺して弘前署に逮捕され弘前區で懲役六月を宣告された。

◆今別村長の横領

東郡今別村長中島久吉(三九)、同収入役木澤喜之作(三〇)は十二月七日蟹田署に檢舉されたが、中島村長は一年の三分の二は出張して出張旅費約二千圓をとり、更に二千圓の背任横領が暴露し木澤收入役は出張旅費一千圓に背任横領三千圓をなしてゐたことが判明して送檢。

◆平良崎村の疑獄

東北本線諏訪の平良崎村大字玉掛では、三戸郡平良崎村大字玉掛では、區有財産を處分したり運動費を募集したりして約二萬圓を得た

が、前區長西館福次郎(四)、前村議西館勘之助(四)は前者が約四百五十圓、後者が約九十圓を横領、更に現區長中野重次郎(六)、村議谷坂由太郎(七)、同村工藤賢次郎(八)も約七十圓を横領したことが發覺し十二月十日三戸署で檢擧したが犯行明瞭となつて送檢。

◇五戸の救濟工事不正

三戸郡五戸町の凶作救濟土木工事に當り同町區長奥寺長次郎(五)、副區長福田福太郎(五)、主任書記三浦熊太郎(五)の三名はモッコ一枚十五錢を三十錢と報告し總額七圓五十錢を詐取したことが發覺して一月十日五戸署に檢擧送檢となる。

◇館村の救濟工事不正

三戸郡館村の冷害救濟土木工事で工事監督の村議上橋勘七郎が工事費中より約六百圓を横領せることが判明、一月二十日八戸署に檢擧された。

◇瀧米拂下げ詐欺

上北郡四和村村議榊澤米吉(四)は部落を代表して瀧米三十一俵を一俵七圓五十錢で拂下を受けこれを米穀店に一俵八圓五十錢で賣却して差額を着服してゐたことが發覺し三本木署に檢擧され、二月四日送檢となつた。

◇元巡査部長の騙取

本縣元巡査部長菅原龜雄(四九)は三戸地方一圓にわたり鱈粕を種に手金を騙取し、その他宿屋では無銭飲食をなしてゐたことが判明し三戸署に二月八日檢擧されたが、八戸區で懲役二年の判決を受けた。

◇岩崎の今様お七

三月二十九日正午頃西郡岩崎村漁業吉田兵次郎(二七)方の板倉から發火し小火に終つたが、これは兵次郎の妹チエ(三三)が村の鐵道工事へきてゐる土工と戀仲になりその間を裂かれたのを恨んで發火したものでチエは公判

大火・放火

三名が三月一日金木署に檢擧されたが幽霊人夫と幽霊馬を使つてその代金二百圓を騙取したことが發覺したものである。

◇越水村の大火

五月一日午後一時頃西郡越水村大字丸山工藤福次郎方より發火、折からの西風に煽られて住家二十六棟二十六戸、非住家二棟を焼失して同三時半鎮火した、原因は晝食時の残火不仕末と判明。

◇千代村で十三戸焼失

五月八日午前十時半頃中郡千代村大字大和澤農船水午吉方より發火し十三戸を焼失して同十一時半鎮火したが、原因は火元で家人留守中に爐火が枯柴に燃え移つたものと判明。

◇弘前病院全焼

五月十八日午後三時頃弘前市弘前病院より發火し瞬く間に全焼して同四時十五分鎮火したが原因は炊事籠の煙突の火の粉より判明した。

◇中川村の放火懲役六年

本家なる村長の仕打が辛いといふので恨みの放火をした北郡中川村農秋田長作(五五)は五月二十九日青地で懲役六年を宣告された。

◇小湊署長官舎焼く

四月七日午後七時四十五分頃東郡小湊町小湊警察署長官舎裏手農佐々木マメ(五五)方より發火し、マメの孫アケミ(二二)は焼死、署長官舎も全焼した、原因は炬燵。

◇五所川原の火事

四月一日午前零時頃五所川原町停車場通り野田勇助方より發火し、約二時間燃え續けて六棟十三戸を全焼、一棟一戸の半焼を出して鎮火した。

◇中里で十四戸焼く

北郡中里村大字八幡外崎清次郎方より四月二十三日正午頃發火し、十四戸を焼いて鎮火したが、原因は隣家の手癖悪い小娘の放火と判明した。

◇列車覆未遂事件

八月二十八日五所川原線森田鳴澤間の鐵道線踏切でヨリン軌條の空間にレールの切片を挟めて列車の覆覆をはかつたものあり、未然にして犯人西郡越水村農長谷川長三郎(四四)が檢擧となつたが、原因は娘を疵物にしたのでそれを恨んでなしたものと判明、十月十六日弘前支部で公

◇放火夫婦に懲役

地主から立退きを促され、家を焼いて保険金を得んとし未遂に終つた青森市長島日雇近藤圓吉(三五)、同人妻きよ(三七)は共同正犯として豫審終結し青地で六月六日圓吉は懲役四年、きよは懲役二年の判決を受けた。

◇野内小學校全焼

六月二十五日午前二時十五分東郡野内村野内小學校から出火し、同校體操場と校長住宅を残り十分鎮火し御眞影は無事であつたが原因は同校職員室にある理化學用品棚の黄燐が爆發したものと判明した。

◇嘉瀬の放火に懲役五年

八月二十日北郡嘉瀬村山口隆榮方より發火する火事は同村辰五郎妻太田アネ(五〇)の恨の放火と判明したが、アネは十月十八日青地で求刑通り懲役五年を宣告された。

◇弘前の放火に懲役五年

九月五日正午頃保險金を得んとして自宅裏に放火した弘前市和徳町吉田竹之助(五五)は十一月十五日弘前支部に於て懲役五年の判決を受けた。

◇二年前の放火發覺

南郡竹館村農内山安太郎(五五)は弟の生命保險金を詐取せんと

◇鐵首を恨んで放火

下北郡大湊町元大平製材所事務員大澤芳夫(三三)は鐵首されたのを恨んで同所に放火、十一月二十二日青地で懲役三年の判決を言渡された。

◇五戸町の大火

二月七日午前二時半三戸郡五戸町大字下大町小間物商鈴木眞三郎(四三)方炊事場より發火し折から西強風に煽られて大通りに沿ふて火の手が擴がり停車場通りに抜けて同町横町に至り附近一帯を焼失して午前五時鎮火した原因は同町下大町鈴木イシ(七〇)の失火と判明したが、出火の發見が遅かつたのと水利の便が悪いため大火となつたもので四十三戸焼失この損害は十八萬四千餘圓であつた。

◇淺瀬石の窃盜放火

林檎十八箱を盗んだ上で放火した南郡淺瀬石村大字淺瀬石農北山市太郎(五〇)は弘前支部の公判で犯罪事實を否認したが二月二十日懲役三年を宣告された。

◇名久井の横領放火

一年中の主なる出来事——大火・放火・雜

◇投票誘引事件

八月五日施行された青森市長選舉の市會で、候補者は北山一(當時市長)、加賀秀雄(當時市會議長)、千葉傳藏三氏が鼎立して勢力伯仲して激戦を演じたがその際開票立會人として選ばれた加賀派市會議員青森市大町洋服業柳谷助四郎氏(五三)が加賀候補を有利にするために北山一様のもので棒を引き、無効に歸せしめたといふので即日北山派から告訴され、直ちに青森檢事局の活動となつて柳谷氏は起訴收容され、十月二十九日青地に公判開廷となつた。これと同時に青地豫審に於て柳谷氏を有利にするために偽證をなし、偽證罪にとはれた市議青森市蜷貝町園藝師松森洋三郎(五二)氏も合併審理され、柳谷氏は徹底的に犯行を否認、松森氏は認めて檢事に懲役六月を求刑、これが判決は十一月二十日言渡されたが柳谷市議に懲役十月、松森市議は懲役四月(三年間の執行猶豫)であつた、柳谷氏は直に控訴した。

◇田中館博士墮胎事件

判を開かば懲役二年執行猶豫三年の判決を受けた。

青森市寺町竹浪病院院長醫學博士田中館要橋氏(五〇)は八年十二月上旬墮胎嫌疑で檢舉され、青地豫審部では京大二博士に鑑定を依頼してその結果犯罪嫌疑ありとして豫審終結したが、この公判は十月十八日青地に開廷され田中館氏は犯意を否認して醫學的な立場から當然とるべき處置をとつたまでである

盗犯人五所川原町田澤福太郎(三〇)は硝子窓を破壊して逃げ出したので各署に手配したが、同日午前三時頃五所川原町の自宅に於て五所川原署員に逮捕された、田澤は窃盗罪で懲區で懲役五月を宣告されたものであるが妻子の顔がみたくて脱走したものである

鳥、兩野村、吉田の四名が治三郎氏が明治四十五年に縣へ賣却して代金を受とつてゐた縣師範學校敷地を縣が未だ登記をしてゐなかつたのを知り、千葉縣石川新三郎へ一萬圓で賣却したことが發覺した。これによつて一味は左の如く送檢されたが、石川は情を知らずに買ひとつたことが判明して釋放となつた。私文書偽造行使、公正證書不實記載行使、詐欺及詐欺未遂、英晃、權治、治輔、彌之助、彌之助、治三郎、英晃、權治、彌之助

の紳士が檢舉され、その後連日檢舉が續けられて六月末までに百五十餘名に上つた。被檢舉者中には前縣議、市議、新聞社長等あり、これによつて社會はホツとした明るさに包まれ、各被害者よりの投書、申告は刑事課や各警察署に山をなした。檢舉されたものの中大物は次の如くである

青森市安方町小和田岩吉(三〇)は十月十日頃より青森市浦方東奥家政女學校に『昭和五年日大商學部卒業商學士の稱號を授與され同年六月法制經濟中等學校教員無試験檢定證を授與』とのインキ履歷書をもつて奉職したが、素養がないために居た、まらず十一月三十日に退職したことが發覺して青森水上署の取調を受けた

拾遺
△師範學校敷地二重賣り事件
四月五日上北郡野邊地町前代議士。現民政黨支部長勳三等野村治三郎氏(五〇)が突如縣刑事課に檢舉され、續いて野村家の家産整理委員たりし、東京辯護士川島英晃(四〇)野村權治(五九)野村治輔(四三)吉田彌之助(五九)の四氏に敷地を買つた石川新三郎氏も東京、大阪、千葉縣等より夫々檢舉され取調の結果、昭和五年に野村家の家産整理員たりし川

△千葉林市議檢舉
青森市會議員千葉林吉氏(四三)は四月二十六日造道なる自宅より青森署に檢舉され、取調の結果造道漁業組合長として約十年前より公金横領してゐることが判明し横領罪として送檢され、青森區裁判所で懲役六月の判決を言渡された

△八戸の飛行機
皇國飛行協會八戸支部主催の防空思想宣傳飛行は六月八日、同市鮫町天女ヶ窪で開催されたが、二等飛行士田端勝(三三)の操縦する偵察機が離陸の際、觀衆へ突入し、小中野町附田キクエ(三四)同長女り(三三)、湊町大館猛治(四〇)は死亡、館村昆惣吉(三三)は重傷を負つた

凶作小誌

序言

播種期の四月は氣候も前年に比し左程の差異なく農家は悲觀もせず樂觀もせず、『先づこの分では平年作は大丈夫だらう』と氣にもかけずにはゐたが、五月に入つてからはどうも思はずしくないとそろ／＼心配し始めたがそれでも尙昭和六年より高温なので今後順調に進みさへすればと平年作の豫想を捨てなかつた、然し六月を過ぎ七月に入ると不順なる天候は回復せぬので農家は悲觀し始め縣當局並に縣那農會は警告を發して農家に警戒せしめた、農家はまた昭和六年の大凶作の創痕未だ癒えず、『凶作』の言葉に頗る敏感だつたので縣當局の指示を守り縣那市町村農會の指導に従ひ鋭意被害を最小限度に喰ひ止むべく努力した、八月中旬に至り若干好天氣が續いたのでこの分では一寸愁眉を開いたがこれも亦極喜びに終り、八月下旬再び氣温低下し農民をして全く失望せし

凶作小誌——序言——農事試驗場の作況

本縣内に於ける稲作の基本たる縣立農事試驗場及び五戸同分

農事試驗場の作況
場に於ける昭和九年の作況左の通り

一、苗の生育狀況……播種期當時の四月中・下旬の最高及平均氣温は稍々低温にして不順なりし爲、播種期は稍々遅れたり、五月に入り氣温上昇し苗の發育進捗せるも苗代後期の五月下旬は日照時數極めて少なく低温にして降水量稍々多き爲め苗の伸長稍々劣れり

一部及山間僻地等は更らに遅れたるもの、如し。七、二十日に於ける状況：...

夏作定期作況報告

昭和九年九月一日(九月一日)作況

青森縣立農事試験場

(十は増、一は減を示す)

Table with columns for rice varieties (早稲三種, 中稲三種, 晚稲三種, 總平均) and metrics (草丈, 莖數, 草丈, 莖數) for 昭和九年 and 平年.

大暑以後七月中の天候は従前に引継ぎ低温不順にして八月に入りても通じて例年に比し気温低く日照時数少く曇天冷涼なる氣象状態なり...

五戸分場

Table for 五戸分場 showing rice varieties and metrics (草丈, 莖數) for 本年 and 平年.

夏作定期作況報告

昭和九年九月一日(九月一日)作況

青森縣立農事試験場五戸分場

△印は減

Table for 五戸分場 showing rice varieties (早稲三種, 中稲三種, 晚稲三種, 總平均) and metrics (草丈, 莖數) for 本年 and 平年.

氣象概要

Table showing monthly temperature (最高, 最低) and rainfall (日照時數, 雨量) for 本年 and 例年.

備考 例年とは前十一ヶ年平均を云ふ。...

大暑以後の天候は氣象概要に示せるが如く例年に比し低温寡照にして且つ雨量も多く稲の生育を著しく阻害せる爲め出穂期は例年に比し早稲五日、中晚稲約一週間遅延せり。...

凶作小誌——夏作定期作況報告

日頃迄は概して適順なりしを以て苗の發芽生育共に極めて順調にして近年稀に見る良成績を示すに播種期に及べり然れども一般に播種期並に挿秧期は例年に比し雨量少なり七月下旬迄は例年に比し雨量少なり七月下旬迄は例年に比し雨量少なり七月下旬迄は例年に比し雨量少なり...

昭和九年度と昭和六年度の比較

一、気温

四月に於ける気温は五度六分、五月は五度八分にして殆ど差異を認めざるも五月に入りては昭和九年度は順次昇温率大にして昭和六年度平均十度九分にして昭和六年度を示し尙六月に於ては平均十四度に比し三度四分の高温となり七月に入りては六年度十度四分に比し一度六分の高温を示せり、即ち昭和六年度に於ては稲作期間前半に於て全く低温を繼續せしに反し昭和九年度に於ては此の期間(七月中旬より極端な低温に見舞はる)極めて高温を持續したり。

八月に入りては昭和六年度は気温昇り平年に比して著しく好調となり稲作にも稍々挽回の徴見えしに反し昭和九年度に於ては七月中旬より極端なる低温を續けたる儘八月中を經過せし爲始と分葉中斷の形勢となり従て出穂の如く全く不揃となり悪影響を齎せり。

二、日照

昭和九年度は六年度に比して五月、八月の兩月は稍々寡少なれ共其他は稍々多照にして全期間に於て約五十七時間多し。

三、降水量

兩年共全期間に於ける降水量には大差なく九年度は平年に較べても順調なる經過なるも六月七月は平年に比して四分の一量八月は一倍半量に達するなど七、八兩月は稍々不順なりと云ふべし。

四、風向

風速は由來弱勢なるものなれば兩月の差異極めて少し東寄り風の向に就いて見ると四、五、六、八の四ヶ月は大差なきも七月に就いて見れば九年度は九十回を算へ六年度に比して三十回多く殊に八月に於て六年度の最多風向西南西なるが如きは氣温上昇の原因となるに九年度は主風西北西なり。

五、天気日數

快晴の日數は全期間中昭和九年度の九日に比し六年度は僅かに二日に過ぎず曇天日數は九年度の八十二日に比し六年度九十日即ち十五日多く日照日數は九年度十五日に對し六年度は十三日に對し稍々少し。

平均氣温二十五度以上の日數及最高氣温三十度以上の日數を見るに九年度は各々皆無なるに反し六年度は八月に入りての各々六日宛を算す。

降水日數は九年度は平年並の六十五日なれ共六年度は之れより八日多し。

六、結論

昭和九年度と六年度稲作期間中の氣温を除いた他の氣象要素の相違は七月、中東寄りの風向回数に稍々大差を認め得るに過ぎず(東寄りの風の相違あることは南部、津輕兩地方作柄に大なる影響を齎せらるること認めらるるに付別に吟味すべし)氣温のみは其の降昇の模様全く反對なり、即ち昭和六年度に於ける氣温は稲作前半に於ける氣温極めて低きに反し後半(八月)に於て急昇を見九年度に於ては前半(七月初旬迄)の氣温は頗る高温なりしに後半(七月中旬以後八月中)に於て全く低下を示したるものなり。

兩年の全期間最高氣温の積算値は九年度三千三十八度四分にして六年度は二千九百八度七分にして約百三十度即ち僅かに四十二パーセント寡勢なれば之れに依つて生ずる九、六兩年の收穫差は一に稲作期間前半及後半に於ける氣温の異常に依つて生ずる現象と認められ向後の研究すべき點なりと認む。

遂に凶作

地租免稅十一萬圓

凶作避け難しと見るや市町村長は免租の運動を起し稅務當局また目のあたり凶作を目標として居るのと同様に凶作を目標として仙臺稅務監督局からも夫々係員を派遣し所管稅務署員と共に實地について嚴密なる調査を行つたその結果として田一萬九千七百九十一町九反六畝歩、この免租額十一萬一千五百七十一町九反三畝廿步、畑千五百七十一町九反三畝廿步、この免租額四萬九千九百七十五畝合して二萬一十一萬六千三百四十五圓六十四錢四厘の免租となつた各稅務署別に免租反別と稅額を示せば左の通り。

町名	免租額	免租金額
村名	町反畝	圓錢
森野	九・九一	八三、八八
大森	二・五〇	一九、三三
青森	五・五〇	四一、三三
大川	三〇・二四	一三、三三
高田	四九・六七	三三、元
瀧内	一六三・四六	一、四三三、六四
新田	一〇・〇七	四四八、八九
油川	三三九・〇九	二、三九四、五三
奥内	三三九・〇九	二、二六八、六〇
後田	五七六・二三	三、四八九、八八
蓬田	三六九・四二	一、三四一、四九
蟹田	三六二・二七	四、五八、九二

八戶稅務署管内(田の部)

町名	地積	免租金額
八戶	一〇九・二二	七五七、三四〇
川内	六二・四四	三三、六九二
大館	四四・六五	三三、三三〇
階上	一八四・五三	五五八、〇六八
館長苗代	二八七・五五	二、二八九、四三〇
下長苗代	三三二・六一	二、八五三、七六二
上長苗代	九九・六八	八〇八、二六〇
地引	六九・五三	五五三、〇八三
北川	六八・一三	七〇三、三〇〇
名井	一五・三九	七〇七、七四
田部	一五・三九	三六五、四四六
三戸	一〇・〇二	四四八、四〇〇
留崎	五四・〇六	五〇三、六五二
川崎	三四・七二	二五八、七四三
斗子	二六・六一	九七七、四七四
猿子	一六・〇七	七九五、五六八
上郷	三三・〇九	一、三三〇、五九六
田子	三三・〇九	一、四七三、八六八
向崎	三三・四四	二、三八、一〇八
平崎	三三・四四	二、四四、六〇六
五戸	三三・三〇	二、八六七、四四二
川内	五〇・七一	三、六〇一、六七八
市川	四二・七八	二、九九九、一八八
倉石	三三・三〇	三、四二、四二〇
戸内	二五・八六	一、五〇二、四二〇
野澤	二九・七九	一、三〇九、八六〇
淺田	一三・五〇	七三三、三七六
豐崎	一三・五〇	一、〇六二、六七〇

三戸郡計

全管計 四、八五五、四三三、七五五、〇五八

五所川原稅務署管内(田の部)

町名	地積	免租金額
町村	町反畝	圓錢
五所川原	五・〇	二、五四六
中川	五・〇	三九、三六八
七和	八・〇	四一、九五二

町名	地積	免租金額
一本木	五・七〇	三三一、五八
今別	二一・九九	一、三三三、七〇
三戸	三〇・八〇	一、三〇、六〇
横内	七九・一七	四七三、七九
筒井	二・二九	一〇、一四
濱館	四三・四二	二二六、一七
原別	八二・三九	五八一、一七
東嶽	八四・一六	五八九、九八
野内	五五・五四	三三五、五一
西平	二六四・五〇	一、一五八、〇八
小湊	三七〇・一六	一、五八三、六五
東平	二四〇・八七	九七七、九六
東津輕	三、六三三・二八	一九、五九二、五七
全管計	三、六四三・一九	一九、六七五、七五
上(畑の部)		
免租金額		七六〇
町反畝		圓錢
蟹田	三七・四三	四二、六七
東津輕	三七・四三	四二、六七
全管計	三七・四三	四二、六七
弘前稅務署管内(田の部)		
市町	町反畝	免租金額
村名	町反畝	免租金額
水名	四一・一八	二七、五八八
清徳	五・九	六、三三三
和徳	三〇・九三	一八八、二五三
千木	一〇四・八二	五九一、三九四
岩馬	一四・五〇	四八、一四六
相馬	六・二九	三九、八三四
東目屋	九四・七六	三七八、七〇八
西目屋	四三・三一	三五、八三四
新澤	六・二九	四一、八三八
船野	四三・二八	二四三、二八八
全管計		
上(畑の部)		
免租金額		三三八
町反畝		圓錢
市町	町反畝	免租金額
村名	町反畝	免租金額
岩木	一四・一五	九、九五六
西目屋	一四・三〇	一〇、一八四
中津輕	一四・三〇	一〇、一八四
富木館	三・三四	七、一〇六
大杉	二・五一	二八、五三六
浪岡	一〇・五三	二〇、七八六
山形	三三・一〇	三六、五九四
南津輕	六八・四八	九三、〇三四
全管計	八二・七八	一〇三、〇二八

凶作小誌——遂に凶作

凶作小誌—遂に凶作—要救済戸数入口

Table of relief household counts by region (長橋, 飯詰, 嘉瀬, etc.) and land tax details (野邊地, 町村名, etc.).

Table of land tax and land area (地積, 地租額) for various regions (川内, 町村名, etc.).

要救済戸数人口 (Relief household population) section with a table showing population and relief counts for various municipalities (郡市).

冷害凶作の結果縣當局の調査 (Investigation of cold disaster and crop failure by county authorities).

した處に依れば縣下の要救済戸数は三萬三千七百七十九戸の村別左の通りであつた

Table of relief household counts by region (東八青總, 東戸森, etc.).

Table of relief household counts by region (西, 中, 南) and land tax details (町村名, 地積, etc.).

Table of relief household counts by region (北, 上, 下) and land tax details (町村名, 地積, etc.).

Table of relief household counts by region (四下, 三下, etc.) and land tax details (町村名, 地積, etc.).

要救済戸数人口 (Relief household population) section with a table showing population and relief counts for various municipalities (郡市).

冷害凶作の結果縣當局の調査 (Investigation of cold disaster and crop failure by county authorities).

凶作小誌—御内帑金御下賜—皇后陛下御下賜品—各宮家御下賜金—諭告—勤勞を勤む—

Table with columns for location (e.g., 猿邊, 上郷, 向良崎) and amount of money granted (e.g., 一、三三三, 三、三三八).

御内帑金下賜

天皇、皇后陛下には東北地方の冷害凶作を深く御軫念遊ばされ、御内帑金五十萬圓(内本縣へは八萬二千八百八十圓)下賜の御沙汰あり縣に於ては三月二日嚴肅なる傳達式を舉行した

皇后陛下下賜品

畏くも皇后陛下には凶作地乳幼児御救恤のため白ネル着物、白木綿襦袢付一組三千二百人分を十二月十七日下賜遊ばされ、同日内務省社會局より通報あり

各宮家下賜金

各宮家より御救恤の下賜金二千四百圓を凶作被害の程度甚しき者にして生活困窮者一萬四千八百戸に對し一戸金五拾錢の割合を以て左記の通り配分した。

諭告 勤勞を勤む

畏き邊より恩賜郷倉の建築資金として別項の如く五十萬圓下賜の御沙汰あり更に皇后陛下より乳幼児に對し衣類の下賜があらたので縣は諭告を發し鴻恩の萬一に應へしむべく、十二月廿一日御恩召を奉體し大に感奮興起愈々協心戮力して轉禍反禍の計を樹て一意専心其の生業に精勵し更生の一途に精進すべく苟も一時的救済の同情に狎れて依頼心を醸成し情弱退嬰の風に陥るが如きは嚴に之を戒むべきなりと小林知事から諭告を發した

各地報恩祈願式

小林知事の發意に依り凶作罹災市町村百廿二ヶ所に於て報恩祈願式を舉行し皇室的御仁慈と同胞の同情に感謝報恩を神前に於て誓ひ併せて精神作興及農事改良講演會を開催し自奮自勵正業に勵み以て凶作克服に資せんがため十月十二日縣で祈願式を舉行し次いで各市町村に於て舉行三月七日終了したが何れも市町村も豫想以上の感況を呈した此舉式に依り縣民の自奮著しきものあり或は市町村此の日を以て更生記念日として自省奮に資し或町村は之を記念として一錢貯金を決議實行し又は早起精勵の決議をなして作業の能率を高むる等着々實績を擧げてゐる、祈願式を舉行した市町村

對策講究

縣に於ては九年九月四日早くも凶作對策委員會を設置し、凶作の實體を調査すると共に救済策について具體的計畫を進め、代用食の研究獎勵、副業の奨励に力を注いだ、小林知事は九月中旬主なる被害地を視察し其容易ならざることを確めたので十日縣參事會を召集し凶作調査費二千圓を提案し難局打開農村更生についての運動方法を縣會議員と共に擬議した、これが基礎となつて種々の運動事業が行はれる事になつた、十月廿六

日縣參事會は救済事業費百四十萬六千圓を追加し、また罹災救助基金支出特例を設置した一面農事試験場を督勵して冷害耐久品種の普及を圖るべく研究を進めしめたが、神田八戸市長は凶作の來るは海洋の關係に起因する處大なるを以てその變化を知ることは難て被害を最小限度に喰ひ止め得ざる事になるから、海洋觀測所を設置するのとが最も緊要であるとの理由の下に、八戸地方に海洋觀測所設置の運動を起した、十二月廿七日縣參事會召集冷害救済事業費追加百廿一萬九千四百五圓、中小商工業復興資金五十萬圓融通について豫算の外義務負擔に屬する豫算等を決した、また縣では十二月廿六日振興委員會を組織し縣の振興に資すべく規程を告示した尙これに依り市町村にも該委員會を組織せしめ専らその市町村の振興を圖らしむべく懲進したので市町村はこれに從ひ努力する處があつたなど縣廳は全員を擧げて當面の救済のため努力すると共に恒久的の更生振興のために調査研究を急いだ、また十月廿二日開會された東北六縣内務部長會議の結果に基き十一月二日救済事業徹底のため市町村へ通牒を發した、ま

十一月八日内務省に開催された内務部長會議に於て郷倉普及に依り東北の自給自足を圖ることを決したので縣は直ちに實行方法の調査に着手し、十一月十日生産能力増進と節約強調について農村へ縣から通牒を發したまた十二月六日凶作救済事務取扱規程を公布し適正公平を期するに努め、また十二月七日縣で篤農家十九名を表彰し座談會を開き以て冷害凶作を克服した所以を縣民一般に知らしめ農家を自覺せしむることに努めた、而して救済事業として縣の豫算を通じて既に行はれた事業は二百四十五萬八千九百圓でこの財源左の通り。

- △御下賜金 六五、八〇〇圓
△國庫補助 一、六七〇、一七〇圓
△縣債 六六、〇〇〇圓
△寄附金 二六、六〇〇圓
△一般歳入 一、五九〇圓

縣會議員の活動

縣會に於ては縣當局を側面より鞭撻援助するために縣會議員を以て救済會組織の議を定めたが、縣當局との間に完全に諒解成立するに至らざる先に小泉縣會議長は凶作地選出議員と共に九月十五日東京した、廿六日にはその他の議員も夫々上京し、

市町村長の活動

昭和六年の苦き經驗を有する町村長並に町村農會會長は早くも九月十六日聯合協議會を開いて對策を樹立し、縣當局に要望する處あつたが、十八日には被害の大なる上北、下北兩郡の町村長會議を開き、三戸郡、東津輕郡其他の郡も夫々集合を催して救済策を練つた、十月初旬大舉上京した町村長會代表者は箒の如き箒を示し關係各省政黨本部其他を訪問陳情し、同月廿六日町村長會を青森に開いて負擔輕

諸名士續々視察

凶作の影響深刻なりと認められた政府、政黨其他から見舞ひを兼ねて實狀視察のため來縣する者續々あつたが、昭和九年八月下旬先づ政友會代表松野鶴平、藤生安太郎兩代表士來縣、また米穀界の權威加賀卯之吉氏も同廿八日に來縣、九月に入り石黒前農林次官、富田社會局社會部長三井財團法人小林主事、三浦山林局監理課長小島主事、三浦山め國民同盟代表野中徹也、代議士金子帝國農會副參事の外川西保險部長は内務大臣代理として視察した、十月中旬には山崎農相、内田鐵相、兼田鐵道參事、下甸には軍事參議官渡邊錠太郎大將、民政黨代表工藤鐵男氏の視察あり、また一方國立榮養研究所原徹一博士、黒田同技師は國民保險の見地に立つて實地視察し、また東京帝國大學農學部教授田中眞次郎氏は凶作を

凶作小誌—對策講究—縣會議員の活動—市町村長の活動—諸名士續々視察

凶作小誌—澁米の市町村拂下—種籾の給與

Table of rice distribution data for various municipalities including 田中郷, 山崎郷, 尾崎郷, etc., with columns for location, distribution type, and amount.

Table of rice distribution data for municipalities like 川内, 石川, 野崎, etc., including specific distribution details and amounts.

Table of rice distribution data for municipalities such as 原内, 東平, 野内, etc., with distribution amounts and dates.

Table of rice distribution data for municipalities including 碓氷, 北郡, 嘉長, etc., with columns for location, distribution type, and amount.

Table of rice distribution data for municipalities like 大川, 東大, 大風, etc., including distribution amounts and dates.

Table of rice distribution data for municipalities such as 原内, 東平, 野内, etc., with distribution amounts and dates.

種籾の給與

爲冷害に依る凶作罹災者救助の爲め十二月二十二日青森縣令第八十七號を以て特例を公布し左の通り種籾を給與した。給與數量 戸數

凶作小誌—種籾の給與—

冷害凶作に依りまたこれが間接に影響して縣下各校に給食児童漸次増加したので縣では學校給食設備補助金として一月廿一日一校につき一圓づつを二百四

種籾追加交付の分

Table showing additional rice distribution amounts for various municipalities, categorized by school type and amount.

凶作小誌—種籾の給與—

Table showing rice distribution amounts for various municipalities, categorized by school type and amount.

Table with 13 columns and multiple rows of numerical data representing relief statistics for various locations like 北川, 地守, 鶴井, etc.

幼弱老衰者救護

本縣へ寄附した七萬三千圓を縣では寄附者の趣旨に基き、農作物減收五割以上の被害農家に於ける老衰者、傷病者、幼弱者等に

の生活困難者にして救護法及軍事を受ける事なく、且つ救護に限り市町村長をして配付せしめ、之が救護は一人一日十錢程度、金を給する場合は縣の承認を得る事としたが町配給額の通り。

相馬、西目、船野、裾野、石川、浪岡、大石、六郎、浪岡、大石、六郎、浪岡、大石、六郎...

Main data table with 13 columns and multiple rows of numerical data for locations like 大野澤, 三戸郡, 油川, etc.

救済土木事業費割當

昭和九年度凶作救済事業費割當總額は、百九十三萬九千四百七十七圓で、事業別内訳左の通り。

土木、農林、漁業、工業、商業、交通、衛生、教育、文化、福利、その他

Table with 13 columns and multiple rows of numerical data for locations like 大野澤, 三戸郡, 油川, etc.

Table listing various municipalities (e.g., 飯瀨市, 嘉喜良, 武里) and their corresponding numerical values.

Table listing municipalities (e.g., 高荒, 大油, 小油, 東八, 青森) and their corresponding numerical values.

Table listing municipalities (e.g., 中十, 車館, 稻川, 越鳴, 舞中, 岩大, 赤深, 西東, 野東, 原濱, 筒横, 三今, 一平, 蟹蓬, 後奧, 新瀨) and their corresponding numerical values.

Table listing municipalities (e.g., 長七, 中沿, 金北, 碓藏, 尾竹, 淺山, 田常, 六五, 浪大, 富大, 石南, 裾高, 船新, 西東, 相岩, 駒千, 瀧水) and their corresponding numerical values.

Table listing municipalities (e.g., 風東, 大川, 田下, 六三, 下六, 四藤, 十大, 浦甲, 天横, 百三, 七野, 上小, 脇相, 内中, 武喜, 嘉飯) and their corresponding numerical values.

Table listing municipalities (e.g., 豊淺, 野戸, 倉市, 川平, 向上, 猿斗, 留中, 田名, 島地, 北下, 上館, 階大, 是田, 五三, 三脇, 佐大) and their corresponding numerical values.

Table listing municipalities (e.g., 新瀨, 高荒, 小東, 八戸, 傷藥, の胃, の腸, の鎮, の痛, の藥, の風, の頭, の痛, の火, の傷, の腫, の物, の藥, の虫, の小, の兒, の下, のし, の藥, の給, の與, の數, の給, の與, の數)

常備藥無償配布
縣では冷害凶作罹災者にして...

凶作小誌 縣の救濟開始—常備藥無償配布

赤十字の巡回診療
囚作小誌—各方面の厚意

赤十字の巡回診療
赤十字の巡回診療
赤十字の巡回診療
赤十字の巡回診療

囚作小誌—各方面の厚意
囚作小誌—各方面の厚意
囚作小誌—各方面の厚意
囚作小誌—各方面の厚意

各方面の厚意

郡	赤十字	巡回診療
東相岩駒
車越鳴舞中
岩大赤深
西計
東西野東原濱筒横三今一平蟹蓬後奥
内内内岳別館井内既別木館田田湯内
計

赤十字の巡回診療

郡	赤十字	巡回診療
天横百三七野
小脇相内武嘉長
北計
碓藏尾竹山五浪大石大
計

赤十字の巡回診療

郡	赤十字	巡回診療
島地北下上館階是田五三
脇野
大風大東大川田
計

赤十字の巡回診療

郡	赤十字	巡回診療
車東後平一今
力内湯館木別
男計
女計
計

Table with 2 columns: 町村別 (Municipality/Village) and 戸救數 (Number of Households Relieved). Lists various locations like 川鳴舞中岩大赤深東東西野東原濱筒横三一平蟹蓬後奥新瀧高荒大小油 and their corresponding relief counts.

Table with 2 columns: 町村別 (Municipality/Village) and 戸救數 (Number of Households Relieved). Lists locations like 中沿南碓藏尾竹淺山田六五浪大富大石 and their relief counts.

Table with 2 columns: 町村別 (Municipality/Village) and 戸救數 (Number of Households Relieved). Lists locations like 東大川田上六三下六四藤十大浦甲天横百三七野北小脇相内中武喜嘉飯長七 and their relief counts.

Table with 2 columns: 町村別 (Municipality/Village) and 戸救數 (Number of Households Relieved). Lists locations like 淺野戸倉市川平向上猿斗留中田名島地北下上館階大是田五三脇佐大風大 and their relief counts.

天下の同情
東北凶作の報傳はり放任し得ざる實状にあること廣く知れ渡るや同情各方面より起つたが十月廿五日上野運輸事務所主催第...

義捐金の分配
全國各地よりの救恤義捐金は各官家の御下賜金を合して總額三十三萬三千六百五十圓に上りこのうち救済のために昭和十年四月末日までに支出した額は十八萬餘圓で残額十四萬七千九百餘圓を算したがこれは備荒田設置獎勵費其他緊要なる事業のためめに支出する方針である。

義捐金の分配
全國各地よりの救恤義捐金は各官家の御下賜金を合して總額三十三萬三千六百五十圓に上りこのうち救済のために昭和十年四月末日までに支出した額は十八萬餘圓で残額十四萬七千九百餘圓を算したがこれは備荒田設置獎勵費其他緊要なる事業のためめに支出する方針である。

義捐金の分配
全國各地よりの救恤義捐金は各官家の御下賜金を合して總額三十三萬三千六百五十圓に上りこのうち救済のために昭和十年四月末日までに支出した額は十八萬餘圓で残額十四萬七千九百餘圓を算したがこれは備荒田設置獎勵費其他緊要なる事業のためめに支出する方針である。

義捐金の分配
全國各地よりの救恤義捐金は各官家の御下賜金を合して總額三十三萬三千六百五十圓に上りこのうち救済のために昭和十年四月末日までに支出した額は十八萬餘圓で残額十四萬七千九百餘圓を算したがこれは備荒田設置獎勵費其他緊要なる事業のためめに支出する方針である。

義捐金の分配
全國各地よりの救恤義捐金は各官家の御下賜金を合して總額三十三萬三千六百五十圓に上りこのうち救済のために昭和十年四月末日までに支出した額は十八萬餘圓で残額十四萬七千九百餘圓を算したがこれは備荒田設置獎勵費其他緊要なる事業のためめに支出する方針である。

凶作小誌—恒久施設—郷倉下賜金町村別割當

◇三戸郡計 二七六 六〇〇 八、八八〇 一九、一四〇

尙右の外直接物品を送付し来たものもあるのは等は適當なる方面にまた配給したが四月廿五日現在の配給品別並に數量左の通り

Table listing various commodities and their quantities, such as 蕎麥 (Buckwheat), 豆 (Beans), 粉 (Flour), etc.

恒久施設 郷倉の普及

郷倉の普及充實は將來の對策上最も重要適切なりと認められた結果、御下賜金は郷倉の新設と、既設郷倉の改善充實に向け八萬二千八百八十圓下賜となりこれに國費補助十七萬八千八百八十圓を加へ合計二十六萬九千六百六十八圓を以て既設郷倉六十に對し一ヶ所百六十圓(下賜金國費各八十圓)を交付し、十兩年度の新設郷倉四百五十に對し残り全部を交付する(但五月七日現在では九年度新設郷倉はその半額を交付してある)さて郷倉では本縣は模範であり且北郡七和村の郷倉の如きは殊に有名なので新に郷倉を設立せんとする府縣並に社會事業社會政策を研究せんとする者は七和村の郷倉を視察しこれを範としたので九年十一月頃から十年二月頃迄の間十圓であるが各町村別内譯は左

郷倉下賜金町村別割當

Table showing the distribution of grant money for village warehouses across various districts like 大赤木, 東西野, etc.

凶作小誌—恒久施設—九年度新設郷倉獎勵金交付

九年度新設郷倉獎勵金交付

Table listing the grant money for newly established village warehouses in 1930 across various districts.

凶作小誌—恒久施設—九年度既設郷倉獎勵金交付

九年度既設郷倉獎勵金交付

Table listing the grant money for existing village warehouses in 1930 across various districts.

喜嘉小松長七板三中榮五所川原 藏尾竹大淺金尾山中田畑光常十六五浪大野女 良阿彌島橋和柳好川 館崎館寺石田上形郷館岡寺盤里郷郷岡杉澤澤

Main table showing grant money for existing village warehouses across various districts like 大東大川田, 六三下六四, etc.

凶作小誌—九年度新設郷倉獎勵金交付—九年度既設郷倉獎勵金交付—凶作防止指導田設置

Table showing grant money for newly established village warehouses in 1930 across various districts.

凶作防止指導田設置 農林省は凶作防止の一方法と

共同作業場設置

して本縣に指定試験地を設置し、經營費を全部支出し、また凶作防止試作地、農事實地指導地を...

共同作業場設置

佐井、脇野澤、風間浦、△三戸郡、五戸、田子、是川、大...

Table with columns for region (東, 西, 南, 北, 上, 下) and rows for various municipalities (三井, 三井, etc.) showing counts for '施設利用' and '施設所'.

- 東郡 △油川二 △小湊九 △大野三 △荒川三 △高田三 △瀧内三 △奥内七 △後湯五 △蓬田四 △蟹田七 △平館六 △一本木四 △今別五 △三原四 △横内三 △筒井三 △濱館三 △原別五 △東嶽五 △西平内五 △東平内六 △新城五 △野内三

特定振興農村設置

貧弱なる町村を更生し模範町村とし他の町村をしてこれに倣ひ立派なる町村に仕上げさせよ...

營林局の更生指導

從來農山漁村の經濟更生計畫を指導し、既に製炭關係者の指導...

各種機關新設

各種資材の拂下、副業の指導獎勵各種製品、生活必需品等の販賣購入の斡旋撤出諸設備...

東北復興調査會組織

共通利害のため東北地方復興調査會設置の議は十月初めより進んだが後藤内相、町田商相は積極的に動き出し、山崎農相は内田鐵相の視察結果としていよ／＼その必要を認むることになり政府の間に東北復興調査會組織についての計畫は具體的に進んだ、十二月廿四日閣議に於て東北復興調査會設置確定し各方面を網羅した委員を任命した、陳容成るに及んで具體的活動を起し、その成績極めて顯著なるものあつたがこの機關は恒久性を帯び而もその名の如く東北地方將來の開発振興についての諸懸案を大なる力を以て解決するを以て目的とするので、その前途は大いに期待される。

東北復興調査會總會

東北復興調査會總會は二月廿八日午後一時半首相官邸に開會各委員參拾名參集會長代理として吉田書記官長議長席につき別項の如く第二特別委員長酒井忠正伯、第三特別委員長松岡均平男より夫々答申案を報告し委員長報告通り決定し二時半散會したが政府としては答申案に基き豫算に計上した。

答申案

農村工業發達のため緊急施設を要すると認められる事項に關する件
東北地方に於ける農村漁家の剩餘勞力の活用を適正ならしめて勞力の配分を適正ならしめるため農村漁家の適地に依り農村工業を起し、其地方勞力の綜合的利用の途を講ずると共に其の利益を直接農村に漁家に取得せしめん事を要す左記事項はこれがため一日も忽せにすべからざるものなるを以て特に急務とする事緊要なりと認む。
(一)農業工業の共同組織に専門技術者設置を助成すること
(二)農業工業に關する共同施設を助成すること
(三)農業工業に關する技術の傳習指導するために必要なる縣其他公益團體の施設を助成すること
(四)農村工業製品の販路を圓滑ならしめるため農村工業製品販賣に關する機關及販賣幹旋施設を助成すること
(五)農業工業に關する各種の調査研究及指導を行ふ機關を整備すること
◇答申案
東北地方生活改善に關する方策の急速實施に關する件

六縣知事會議の決議

東北地方住民の日常生活を見るに精神的に物質的の兩方面に亘り陶冶改善を要すと認められるもの少からず、殊にその衣食住の如き舊態依然として時勢の進運に伴はず家庭經濟、保健、衛生、作業、能率等の諸點に就いては甚だ寒心すべき状態にあり、惟ふに東北復興のことも結局は人にあり若し東北住民の生活態様に於て現狀のまま放置せられれば東北復興に關する凡百の施設もその眞價を發揮するに缺ける所あるべく此の故に東北地方に於ける生活態様の徹底的改善を圖り激刺たる活動をなすの人的條件を擴充せしめ仍て以て産業經濟交通其他各方面に於ける伸張計畫の効用を全からしめるは喫緊の要務とす。仍て此際速かに東北地方に於ける新生活運動を提唱し同地方の生活改善に關し思想の普及實行の促進に努めべき適切なる施設を設けるの要ありと認め之に關して日本學術振興會議建議の如き機關を設ける事も急務なりと認めるを以て政府に於いてはその成立を促進せられん事を望む

東北六縣知事は十月二日内務省に參集凶作救済について應答

根本兩方面からの計畫を定め三日政府に實施方を要望し、更に同月廿九日六縣知事は山形縣に集會し對策を練り東北恒久復興策として二十ヶ年五億二千萬圓の東北復興計畫を樹立してその實現方を政府に陳情したが、この會合はその後も行はれたが、後に三月十四日より二日間本縣長官室に六縣知事會合し熱心に檢討を續けた結果差當り十ヶ年を第一期として各縣とも大體一億圓見當の事業費を政府へ要望し、その後必要に應じ第二、第三期計畫を樹立するに決定した。而して一億圓の内約七割は國庫の助成を仰ぎ残る三割は縣並に地方負擔とするに於て、尙鐵道敷設、海洋觀測等は國の事業として政府へ建言するに決したが、六縣知事會議の決定せる東北復興對策項目左の通り

東北復興對策項目

- 第一、精神作興に關する方策。
 - (一)精神作興指導員の設置
 - (二)中堅青年の養成
- 第二、教育の整備
 - (一)義務教育設備の充實
 - (二)實業教育の振興(青年學校を含む)
 - (三)青年學校專任教員設置

第三、生活改善に關する方策

- (一)住宅の改善
- (二)榮養の改善
- (三)飲料水の改善
- (四)醫療施設の普及
- (五)勞働貧困者に對する施設
- (イ)公益質屋の設置
- (ロ)託兒所の設置

第四、災害防止緩和の爲の方策

- (一)研究機關豫報機關の充實
- (二)冷早害防止の爲の生産技術
- (イ)米穀其他作物改良施設
- (ロ)暗渠排水用排水幹線改良

第五、農山漁村の經濟振興策

- (一)農事指導員設置
- (二)農業の合理的經營の獎勵
- (イ)畑地利用増進
- (ロ)自給肥料の増進
- (ハ)桑園整理混作獎勵
- (ニ)産業組合製絲の獎勵
- (ホ)農事實行組合共同耕作地の助成
- (一)有畜農業の獎勵
- (三)産畜獎勵
- (四)未墾地の開發

(イ)開墾(小開墾を含む)の助成

- (ロ)開墾地移住助成
- (五)耕地の改良助成
- (六)林野の開墾
- (イ)縣行造林、公私有林造林の獎勵
- (ロ)林道の開設
- (ハ)木炭改良
- (七)農村工業並に副業の助成
- (イ)指導獎勵機關の設置及充實
- (ロ)共同設備、工場の助成
- (ハ)農村の電化施設助成
- (ニ)販路幹旋機關の充實
- (一)水産増殖の獎勵
- (ロ)遠洋漁業の獎勵
- (ハ)漁港設備助成
- (ニ)機船底曳網轉業獎勵
- (九)中小商業の助成
- (イ)販賣幹旋の助成
- (ロ)商業組合助成
- (一〇)工業の發達助成
- (イ)新工業の助成
- (ロ)固有工業助成
- (ハ)低廉なる電力供給施設助成

の擴充

- (二)産業組合の助成
- (三)交通機關の整備
- (イ)幹線道路の改修
- (ロ)港灣の築造
- (ハ)定期航路の開設
- 要望事項
- △海洋觀測所の設置
- △國立種畜場の設置
- △國有林野の地方利用又は拂下
- △工業指導機關の充實
- △農村工業資金の供給
- △新工業免稅地方稅免除に對する補償
- △産業統制上東北は別箇に考慮すること
- △各種産業團體借入金金の中間据置並に利子補給
- △自作農創設
- △鐵道敷設促進
- △鐵道運賃の輕減
- △地租の輕減
- △財政調整交付
- △國有林野交付金増額
- △國庫補助率増加
- △災害利子補給
- △義務教育費全額國庫負擔
- △過剩人口の調整

東北復興聯盟の組織

東北六縣々會議員町村長其他團體代表を網羅する東北復興聯盟を組織し、不斷の努力を續けることに一決し二月十四日東京

商工獎勵館で發會式を舉行し、凶救並に恒久的振興につき決議し翌日代表者を舉げ政府其他に陳情した。

東北復興同盟活躍

一方東北地方選出の代議士及び東北關係貴族院議員は十月初旬より夫々協議を重ねてみたが同月八日救済具體案を提げて首相を訪問して實行を促したが關係方面有志を網羅し強力なる團體を組織する必要を認め東北關係貴族院議員を以て東北復興同盟を組織し一月三十日第一回會合を催し二十項目に亘る決議を爲し岡田總理大臣に提示し、三月二十日第二回の會合を催して治水、港灣改修、地方鐵道並に軌道の補助増額、豫定線の上速建設、國有鐵道の運輸聯絡を急を要する東北地方新設鐵道並に軌道の買収、東北に農科大學の設置、電氣事業の普及助成を要望したが會合の世話人、常任世話人左の通り

△世話人、猪股謙二郎、林平馬、兼田秀雄、工藤鐵男、内ヶ崎作三郎、助川啓四郎、梅村大、松岡俊三、佐藤啓、清水徳太郎、守屋榮夫、杉本國太郎

△常任世話人、西方利馬、菅原傳、田子一民、菊池良一。

來往錄

自昭和九年五月一日
至昭和十年四月卅日

あ之部

淺田良逸 貴族院議員男爵 九、二、二 議會に於ける東北地方冷害凶作救済の對策準備資料蒐集のため其の後屢々來縣

阿部義宗 青山學院長 九、九、二九及二〇、二六 來弘

赤羽右 逕信省事務官 九、二、二九 弘前局年末首繁忙事務視察の爲め來縣

新居邦八 陸軍省糧秣本廠二等主計正 九、三、二 農村救済縣産米買上のため來青

赤石定藏 臺灣日日前社長(弘前市出身) 九、六、二〇 墓參のため夫人同伴歸弘、なほ酸湯の風景を絶讚

赤澤盛岡市會議長 二〇、三、一 遠藤産業主任外市議六名と共に來青市營バス視察

荒田羽介 理學士(青森市出身) 九、九、九 歐洲より歸青

安積得也 内務省社會局事務官 一〇、一、三 東北地方凶作並に一般農民の生活經濟狀態視察のため、大鰐にて座談會

伊藤敏行 仙遊局規畫課長 九、二、三〇 鐵道時間割變更のため縣内郵便局の事務打合せのため來青

伊能前橋市稅務課長 二〇、三、二六 來青市役所を訪問事務の視察

伊藤喜六大尉 海軍潜水學校及兵學校教官(下北郡田名部町出身) 九、三、二六 墓參の爲歸省

今村定治 仙臺逕信局保險課長 九、二、二五 管内保險事務視察のため來青

一戸いね子 一戸理學士未亡人 亡父菊地九郎翁の建碑式參

井士靈山 列のため七月 來弘
漢詩の大家 九、八、二四 和田湖觀光のため來縣

石黒内務省技師 九、八、二五 自動車にて青森より弘前に行き上水道水源地外全般に亘り視察

石井庄次郎 東京女子高等師範學校教授 九、八、二八 青女師校に開催される國文學と學校遊戲の夏期講習會の講師として

石井孝助 支那稅關官吏(三戸町出身) 休暇にて歸弘

石田馨 内務省神戶局長 九、六、二 東北地方神社視察のため來青

石黒忠篤 舞鶴防備除司令海軍大佐(青森市出身) 二〇、一、二九 大湊要港部

岩崎清七 スキー訓練視察その他要務打合せの爲め來湊

岩松玄十 前農林次官 九、九、九 東北地方の民俗圖繪の資料蒐集のため來弘、八戸地方に於て民俗講演會開催

岩手縣財務協會員 磐城セメント社長 一〇、二、九 磐城セメント湊工業所増設工場完成視察のため來弘

池上鐵道省運轉課技師 九、八、二 札幌市にある東本願寺別院弔靈堂開眼式の途來青

市川薫 大連市協和建物常務(三戸郡是川村出身) 九、八、二九 墓參歸郷

市尾義男 九、二、二 凶作地救済演說のため

う之部

内田信也 鐵道大臣 九、八、三〇 北海道視察の途來青産業會館に於て鐵道從業員のため訓辭

内海清温 淺瀬石川改修顧問 九、七、二八 沖浦堰堤工事、並に發電關係調査のため來青

内記亮也 眞宗大谷派本山本願寺與羽教務所長 九、二、二五

おを之部

上田貞次郎 三戸町玉岑寺の招聘により凶作慰問激勵の講演

上澤謙二 商大教授 九、七、二八 八戸市教育會主催になる、東北地方の人口と題する講演のため

氏家保壽 童話雜誌光の子主筆 九、九、二八 來弘を機とし弘前日本キリスト教會堂に於て兒童問題とお話の仕方と題し講演

宇川春景 大藏省事務官 九、六、二 本縣土木事業に於ける雪害の調査のため來縣

大矢馬太郎 大藏省銀行検査官 九、五、二 青森市内各銀行出納の調査

大谷光暢 盛岡市長 九、八、九 來弘郷土の傷病兵を慰問

大竹浩 東本願寺管長 九、一〇、三 北海道に於ける納骨堂落成供養の途來青

大友壽 仙臺稅務監督局屬 二〇、一、二六 法人及び相續稅査閱の爲め八戸稅務署に出張

大分縣保戸島遠洋甲斐組員一行二〇名 九、六、二八 八戸港の港灣施設を視察

小原正樹 大藏省書記官 九、六、二 八戸漁港施設並に商港施設計畫工事の視察のため來弘

小山潭水 盆景神泉流家元 九、八、七 和田湖清遊のため來青、門下生一同と共に盆景陳列會開催

小山内叶 (弘前市出身) 九、九、四 旅行の途、黒石女子師校に於て自著新式珠算の講演

小川義章 文部省督學官 九、五、二 本縣に於ける一般學事並に思想關係視察のため來青

小田賢郎 農林省技師 九、五、一 鱒ヶ澤築港視察のため來縣

小沼章次 北海道青年辯論聯盟員 九、二、二七 共榮館に於て

小樽木材商組合一行十五名 二〇、四、三〇 來青、本市の製材工場を視察し演說

小樽高商巡回講演部 九、七、二 青森驛前産業會館に於て講演

太田龜太郎 函館稅關長 九、五、二四 八戸港保稅地域設置の實地調査のため來弘

奥田德三郎 陸軍少將 二〇、一、二 青森より弘前へ

奥村鶴吉 日本齒科醫師會理事長 九、七、三 赤十字社青森支部に於て講演會を開催

奥野健一 司法省書記官 九、九、二七 青地及青區の司法事務視察のため來青

奥野健一 代議士 九、九、二八 東北方面の凶作狀況視察のため來青

沖島鎌三 神學博士 九、一〇、三 傳道說教のため來弘

岡野勇 陸軍教育總監部第二課員 陸軍中佐 二〇、三、二八 初年兵教育視察の爲、來青、歩五視察

岡本治郎平 農林省技師 九、六、二八 來青三間日に亘り雪害現場の耕地關係視察のため

岡野勇 大連市助役(青森市出身) 二〇、四、二六 墓參のため歸青

乙丸晃川 三才流盤景家元 九、七、三 渡道の途次、青森に立寄つたが三才流盤景研究會では歡迎展覽會を開催

加藤完治 日本國民高等學校校長 九、八、二 七戸町主催の滿洲問題及農村經濟更生に關して講演のため來青

加藤榮一郎 大藏省日本銀行監理官 九、九、三 北海道の日銀支店業務視察の途來青、青森市内各方面視察

加賀卯之吉 (青森市出身) 二〇、二、二六 米國より歸青

加賀卯之吉 米穀界權威者 九、八、二六 凶作狀況視察のため來青

賀川豊彦 宗敎家 九、八、二五 來青、青森基督敎青年會主催で橋本小學校に於て苦難克服と宗敎生活と題して講演

か之部

五・一五事件を通じて見た非常時日本批判と題し演說

五・一五事件を通じて見た非常時日本批判と題し演說

來 往 錄

川村武三郎 農林省農林屬一〇、二、三 三戸郡田子町に於ける
 冷害対策計畫及び造林施業方針を調査歸京
 川口元市 日本正金銀行天津支店長九、三、二六 歸青
 川島四郎 陸軍省糧秣本廠三等主計正九、八、七 弘前地方産業
 視察のため來弘尙産業に關しての座談會を開催
 川崎一郎 農林省肥料技師九、七、二 肥料配給改善視察の爲
 來縣
 河田春雄 子爵九、七、三 南、中、北各郡の農村生活實情設
 察のため來縣
 河井住友總務部長 九、二、二四 凶作見舞金持參來青
 河村儀一郎 霞ヶ浦航空隊司令海軍少將一〇、一、二四 大湊航空
 隊耐寒飛行設祭の爲來湊
 河井彌八 帝室會計審査局長九、一〇、一 凶作地竝に國有林視
 察のため
 鎌田正信 少將、騎兵第三旅團長九、八、二四 騎八初度巡視の
 ため來弘
 鎌田彦一 日大總務(弘前市出身)一〇、四、三 令兄の計に接し
 歸郷
 兼田秀雄 鐵道省參與官(南郡黒石町出身)九、八、三 渡道の
 内田大臣迎送のため來青 九、二、一 深浦五能線
 開通式臨席のため歸縣一〇、一、五 來弘
 神田五雄 東日經濟部副部長(八戸市出身)一〇、一、九 歸省、
 八戸市内各醸造店を視察
 柿崎洋一 農林省技師、農學博士一〇、一、三 報恩祈願式に
 參列講師として來青
 龜井貫一郎 代議士 九、二、三 東北地方凶作視察のため秋田
 を經て來青
 笠原重造 日蘇通信社記者九、一〇、九 對露問題講演會講師と
 して來青
 片桐貞央 子爵九、七、一 沼崎着、七戸種馬所、縣廳、營林
 局等設祭
 柿本宮城控訴院豫審判事 九、三、二六 來青
 狩野名古屋少年團純心團副團長 一〇、一、三〇 身賣婦女子實情及飲食

神奈川縣參事員一行八名 九、一、三〇 北海道歸途、電氣縣管實現の
 視察
 樺太廳員一行八名 一〇、三、四 本縣藥品及水産施設等視察
 カンテンバイン・アル女史 瑞西新聞記者九、一、二七 渡道の途青
 森の凶作救濟狀況及罐詰工場その他を視察
 木村朝日新聞通信部長 九、二、二〇 同社に寄託された義捐金手交の
 ため來青
 木内曾益 東京區裁判所檢事九、九、三〇 和和田湖遊覽のため
 來青
 菊地良一 代議士(弘前市出身)九、六、三 嚴父菊地九郎翁建
 碑除幕式に參列のため
 菊地新平 白鶴嘉納合名會社技師長九、五、三〇 北海道への途
 青森に於て銘醸地その他について市内酒類販賣
 業者と意見交換
 北村小松 作家(八戸市出身)九、七、二六 豆自動車にて來八
 文學博士九、七、二七 樺太の歸途來八、三戸郡館村
 八幡の先住民族遺蹟を調査
 喜多悦郎 國民同盟前理事一〇、四、七 青森市歌舞伎座に於け
 る時局講演會講師として
 喜久田康雄 大阪市盲人傳道協會牧師九、三、二八 凶作地、盲
 人救濟のため來八
 紀平正美 文學博士九、八、三〇 青森師範學校に於て開催の文
 部省並に本縣主催の思想問題講習會の講師とし
 て來青
 工藤十三雄 代議士(弘前市出身)九、九、五 及一〇、一、二四 歸弘
 工藤徵收係長 仙臺稅務監督局經理部員一〇、三、六 弘前稅務署の
 地租徵收事務設祭のため來弘
 黒田英雄 元大藏次官 九、五、五 興羽銀行同盟定時總會に出
 席のため來青

黒田理 國立榮養研究所技手九、一〇、六 凶作地農民榮養狀
 態視察のため來縣
 楠美省吾 滿洲國奉天省鐵嶺副參事(北郡七和村出身)九、
 七、三 歸省、講演會を開催
 久布白落實 婦人矯風會理事 九、二、七 凶作の東北地方一般
 窮民並に子女救濟、缺食兒童給食の任務を帯び
 來青、女師講堂に於て「凶作對策と女子賣買問
 題」と題し講演
 藏園三四郎 政友會代議士九、五、三〇 和和田湖觀光の爲來縣
 之部
 ケラー・パウル 瑞西法學博士 九、二、七 渡道の途來青、凶作救
 濟狀況及罐詰工場を視察のため
 之部

小倉一郎 仙臺旅客掛長九、六、二 田名部、大間間視察のた
 め來縣
 小泉信三 慶應義塾長九、一〇、一 渡道の爲同塾監局坂村氏帶
 同來青
 小牧仙逸局監督課業務課長 九、二、三 管内郵便事務視察のため來
 縣
 後藤隆吉 仙臺通信局庶務課長 一〇、四、一〇 大湊より來弘、
 弘前局に於て事務打合せをなし歸仙、九、二、三
 青森局に於ける年賀郵便取扱事務視察
 近藤正二 東北帝大教授一〇、一、三 凶作地兒童の健康、衛
 生につき研究のため來青
 近藤義晴 日蘇通信社代表九、一〇、九 對露問題講演會の講師
 として來青
 後藤農林省事務官 一〇、一、九 農村負債整理事業特別指導の爲來青
 今裕 北大醫學部教授(弘前出身)九、五、二〇 墓參の爲め
 並に帝國學士院賞受賞祝賀會に出席のため來弘
 國米英作 神奈川縣相模紡績會社員 九、三、二 同工場内
 に集つた凶作義捐金代表手交
 國分青涯 漢詩の大家九、八、二四 和和田湖觀光のため
 棍塚隆二 一等軍醫陸軍省醫務局衛生課長一〇、一、三 步三
 十一に於ける衛生狀態視察のため來弘
 五來欣造 政治學博士九、九、六 政黨解消聯盟青森支部の招
 聘により北海道の歸途、遊樂座に於て講演
 之部

小林誠 (八戸市出身) 東京兩國教會牧師九、二、九 全
 國キリスト教聯盟の東北地方冷害凶作救濟の本
 部特派員として來縣
 小林芳次郎 東京目黒日出高女校長九、二、七 凶作地小學校慰
 問のため來縣
 小林徳藏 栃木縣人 一〇、三、一〇 軍用ロープ製作獎勵講習の
 ため來縣
 小林三井報恩會 主事九、二、三 更生農村としての西平内村を視察
 大藏省釀造試驗場技手九、八、二六 八稅管内清酒鑑
 定及市内釀造家設祭のため來八
 小濱八彌 農林省農務局長一〇、一、三 報恩祈願式の講師と
 して來青
 小鹽完次 日本國民禁酒同盟委員 一〇、二、一三 凶作地農村の
 生産増殖と自力更生をはかる爲東北六縣下に禁
 酒部落建設運動を計畫してその運動のため來縣
 小池隆一 慶應大學法學部教授九、七、三 青森三田會主催講
 演會の講師として來青
 小室翠雲 帝國美術會員九、八、二四 和和田湖觀光のため來縣

佐藤仁平 所澤飛行學校附航空兵曹長(東郡新城村出身)
 一〇、三、三 凱旋歸郷、經驗談の講演
 佐藤三郎 陸軍航空本部技術部長陸軍少將 一〇、三、二六 大湊
 航空隊視察のため來湊
 佐上信一 北海道廳長官 九、九、七 東京の歸途、和和田湖
 和井内養魚場を視察、二日は萬、酸湯を經て歸道
 司法省大審院檢事九、九、一七 和和田湖遊覽のため
 來

來往錄

澤山義二 仙遊局技師一〇、三、四 電話事務打合せの爲め秋田より來青、青森局を訪問
埼玉縣參事會員一行五名 九、一〇、二 本縣に於ける産業視察のため來青
酒井勝軍 ヌダヤ研究家 九、五、一、四 山浦武夫氏の招聘による講演のため來八

し 之部

清水壯佐久 宮城控訴院長 九、七、八 青森地方裁判所管内視察のため
清水主計正 陸軍省糧秣本廠課員 一〇、一、九 經理局衣糧課員と共に在弘部隊の状況視察のため來弘
島野貞三 内務省土木局技手 九、二、三 北海道の歸途、八戸港の漁業施設を視察
島善隣 北大助教授 一〇、四、二 學術會議に出席の爲め上京、歸途青森縣廳訪問
島津トシ 日本基督教婦人矯風會長 一、二、三〇 身賣防止、狀態視察のため
神頭勝彌 陸軍中將 一〇、二、七 弘前より來青盛岡へ尺八家(弘前市出身) 九、六、三〇 尺八の古曲本典普及のため來縣
神如道 子爵、民俗學研究家 九、九 東北地方の民俗圖繪の資料蒐集の爲來八、尙八戸に於て講演會開催(西郡木造町出身) 少佐 九、六、二 休暇歸省
濫谷武之丞 海軍航空本部長 他海軍中將 一〇、一、三 大湊要港視察の爲來青、耐寒飛行訓練状況その他を視察
鹽澤幸一 少將 元歩兵第五聯隊長 九、六、六 山田野に於ける歩兵學校職員現地戰術見學のため來青
白戸彌七郎 醫學博士(南郡光田寺村大字境出身) 九、六、一 七 歸省
品田俊平 心教々主 九、一〇、一〇 布教及暗示治療術傳道のため來縣

六〇二

省營バス共同調査團一行三十名 九、五、一〇 十和田湖要所を調査のため來縣
シユネーダ・デービー 東北學院々長 九、八、四 五十嵐中學部長、三品同窓會主事同伴渡道の途を來青
島上東京無産者團體交通労働組合員 一〇、三、二 東北六縣凶作地慰問の爲め外五氏と共に來縣

す 之部

鈴木義隆 政友會代議士 九、五、三 十和田湖觀光のため來縣
鈴木豐太郎 仙臺稅務監督局鑑定部長 一〇、一、三 東北各地方の釀造家視察のため來縣
鈴木徹雄 仙臺地方專賣局長 九、一〇、五 縣内煙草販賣獎勵式及煙草小賣人組合役員會に出席
鈴木春視 文部省改正書方手本筆者 九、七、三 北日本書道會主催の書道講習會の講師として來青
鈴木重一 釀造試驗所技手 一〇、一、九 釀造實況視察のため來八
杉山元次郎 代議士 九、一、二 凶作地救済演説のため
杉山壽榮 臺灣原始民族研究者 九、一〇、三 神社に町村に於ける遺跡視察
薄田斬雲 著述家(南郡藤崎町出身) 九、九、二 及 一〇、五、一〇 歸郷
末次信正 海軍大將 橫須賀鎮守府司令長官 一〇、二、五 管内巡視で大湊要港部へ到着
園部潛 安田銀行常務取締役 九、九、三 北海道各地支店視察の歸途、來青、青森支店員一同に訓辭
高橋武美 農林省畜産局長 九、六、三 産馬狀況視察の爲來三
高橋忠雄 橫須賀鎮守府海軍々需部長 九、九、二 黒石町縣立果菜試驗場内を種々視察し同日退黒

た 之部

田邊俊雄 小樽郵便局長 一〇、二、二 郵便事務視察の爲來青、青森郵便局訪問
田淵敬治 農林省會計課長 一〇、一、三 本縣冷害救済事業施行並に時局匡救事業施行狀況視察のため來青
田中農林省産業組合課長 一〇、一、三 報恩祈願式の講師として來青
竹内徳亥 滿洲國民政黨總務部長(東郡新城村出身) 九、一、二 上京の序を以て墓參のため來青
竹内農林省米穀局經理課囑託 九、二、九 本縣森林視察のため來青
竹内山梨縣耕地課長 一〇、三、二 昭和更生部落視察の爲
武井群嗣 内務省河川課長 一〇、一、五 來青農村實情調査
武若時一郎 内務省事務官 九、二、三 匡救土木事業視察のため來縣
立花種忠 逓信參與官子爵 九、七、二 北海道、韓太方面燈臺視察の歸途阪井屬を伴ひ通過

つ 之部

津輕伯母堂 九、五、六 三條公儒末亡人、淺田男爵夫妻同伴來弘、長勝寺、大戸瀬、深浦、十二湖視察
築館熊雄 帝大鹽田外科勤務(南郡藏館村出身) 九、八、三 簡閱點呼並に墓參のため歸郷
對馬百之 滿洲國三江省警務廳長 九、二、七 赴任の途中來青在住の知己と懇談
對馬郁之進 辯護士 九、八、二 過般來歸省、弘前に滞在中であつたが來青、各方面に挨拶
持徳武雄 野間會本部總務部長 九、五、五 弘前に於ける野間會の講師として

ち 之部

高橋嘉一郎 内務省技師 一〇、一、三 三戸地方の冷害狀況及び目下工事中の青岩橋の工事進捗狀況視察
高橋堅 第一高校教授 九、七、七 菊地九郎翁建碑除幕式參のため來弘
高木壽一 慶應大學高等部教授 九、七、三 青森三田會主催講演會の講師として來青
高木喜寛 男爵慈惠院醫科大學々長 九、八、二 北海道の歸途友人等の歡迎宴にのぞむべく赴鶴
高木正得 子爵 九、七、一 沼崎着、七戸種馬所、縣廳、營林局等視察
高垣寅次郎 東京商大教授經濟博士 九、九、四 青森經濟協會例會に於て「變態的貨幣制度及貨幣價值下落に對する保險制度の必要」と題して講演
高須虎方 宇都宮高等農林學校教授 一〇、二、三 文部省視察委員として三本木農學校に來校種々視察
高倉寛 代議士 一〇、三、七 故藤井代議士追悼演説の爲來縣
高桑謙二 仙鐵運轉課長 九、六、四 深浦、大戸瀬附近の沿線及十和田湖省營バスの視察のため來縣
谷儀一 歩兵第三旅團長 九、四、二 少將に進級、青森公會堂に於ける招待宴に出席のため來青
田村剛 林學博士 九、五、二 加藤林學士同行十和田湖國立公園指定調査のため來青
田澤義鋪 大日本聯合青年團理事長 九、二、三 凶作事情及本縣青年團青年訓練所活躍狀況視察の爲來青
田中藏六 前本縣内務部長 九、一〇、三 秋の八甲田見物のため來青
田中愛國婦人會東京本所職紹長 九、一〇、三〇 凶作調査及講演會開催
田中穂積 早大總長 九、六、二 北海道の歸途十和田湖遊覽
田中貞次 東京帝大教授 九、一〇、三 凶作事情調査並に今後對策研究の爲來青
田中第二 農林技師 一〇、一、三 盛岡より來青
田中澤二 立憲養正會總裁 九、六、二 弘前公會堂に於て演説

來往錄

趙 鏗 津浦鐵路事務所運輸課長 九、二、七 青函航送設
備構内視察のため來青
銚子市議一行八名 千葉縣九、九、八 八戸市設魚市場の組織、取引
方法等視察
千崎虎二郎 滿鐵經濟調査會東京出張所員 九、三、三 本縣の
産業視察のため來青

寺田市正 政友會代議士 九、五、二〇 和田湖觀光のため
出淵勝次 特命全權大使 九、九、二六、二七 青森、弘前に於ける
國際事情講演會に講演のため

と

徳川 順 公傳赤十字社副社長 九、六、三〇 札幌赤十字社支部
病院査問の途次青森支部に
鳥居 龍藏 文學博士 九、七、五 子息を伴ひ來八、是川村の先
住民遺跡を調査
豊原 又男 東京府職業紹介所長 九、二、五 來青、凶作状態及
その職業紹介の連絡等につき視察
豊田 多三郎 究城控訴院檢察長 九、二、二四 弘前檢事局事務視
察のため來青 九、二、二五 來八中歸仙
戸塚 道太郎 軍令部第三課長 九、九、一 大湊要港部視察のため
殿林 又一 帝國農會囑託 九、二、二四 農業事情調査
富田 愛次郎 内務省社會局社會部長 九、九、一 郷倉作況視察の
ため
友松 圓諦 大正、慶應大學教授宗教家 一〇、三、三 縣各郵便局
に於ける講演のため來縣
東京市内實業家一 行二十名 九、一〇、二〇 和田湖の見物を兼ね港灣
水産方面を視察のため來八
富山市議會所議員一行十五名 九、六、二六 八戸港の施設産業視察
のため來八

な

中村 良三 海軍大將總政本部長(弘前市出身) 九、八、三〇 大湊
要港部視察のため來湊
中村 義郎 宮城控訴院檢事局思想部檢事 九、七、一八 大野書記
を隨伴新任挨拶と管内視察のため來青
中村 都代子 東京青山レディス洋裁學院長 九、一〇、三 弘前和洋
裁縫女學校主催の第三回洋裁及手藝講習會へ講
師として
中野 隆元 大正大學教授 九、五、二 淨土宗青森教區春季指定
巡教のため
中野 寅吉 代議士 九、八、二九 大湊土木建築會社並に大湊航空
隊を視察のため
中 館久平 醫學博士 九、六、一〇 郷里弘前に墓參のため
永野 修身 海軍大將 九、五、三 皆川海軍大尉を隨へ十和田湖
及三本木軍馬を視察
永松 陽一 農林省經濟更生部總務課長 九、二、三 東北兩郡
を視察し青森營林局に於て講演
長 井眞琴 東京帝大助教授、文學博士 九、七、二六 北海道旅行
の歸途來青、蓮華寺に於て「佛法力について」
と題して講演
長 野 朗 一〇、二、二七 飯米差押禁止の農民運動大會に出席の
爲來青
南部 利克 子爵 九、四、九 明治天皇御聖蹟記念碑除幕式に參
列のため歸入
奈 良一雄 滿洲國實業部大臣補佐役(弘前市出身) 九、三、二
東奧義塾に於て滿洲國講習のため
内 藤 照 會計副檢査官 九、六、九 兒玉、窪兩書記を隨え土
木事業の會計檢査のため來黑

西

西 勝造 西式強健術創始者 九、五、七 青森地方各地に於け
る健康増進治療の講演と指導のため

西田 中佐 海軍々務局員 一〇、一、一六 大湊要港部視察の爲め
山田少佐と共に來湊
新山陸軍豫備少將 九、九、三 來三十三高女校に於て共濟組合設立
の趣旨並に軍事講師として
日本興業銀行理事一行四名 九、五、三 來八、新緑の十和田湖を視察

ぬ

忽滑谷 快天 前曹洞宗大學長文學博士 九、五、二 青森常光寺に
て釋尊降誕二千五百年記念修養講話のため

の

野村 千秋 帝國農會囑託 九、二、二四 農業事情調査のため

は

林 翁之介 陸軍造兵廠付少將 一〇、三、二五 東北地方困窮者援助
の一助とする爲各種軍需品買上決定の爲め來青
原 善久 本山増上寺師 九、二、二 東北凶作冷害地慰問並
に演師として來八
原 常成 陸軍省軍馬補充部本部長 九、一〇、九 軍馬購買狀況
を視察のため來三
服部 文四郎 經濟學博士早大教授 九、七、二 早大校友會青森縣
支部總會並に同支部主催、經濟事情講演會講師
として來弘

春

春名 成章 政友會代議士 九、五、三〇 和田湖觀光のため
花岡 正庸 秋田縣技師 一〇、二、九 釀造實況視察のため來八

ひ

人見 鐸一郎 海軍少佐軍令部員 一〇、一、一六 大湊要港部視察の
ため來湊
比田 井天來 政友會代議士 九、五、三〇 和田湖觀光のため
書道家 九、二、四 蓮心寺に於て還曆記念書會開
催のため來青
平野 利 司法省司法書記官 九、五、二 裁判所事務視察のた
め來青

ま

皮 作 瓊 支那實業部簡任技正 九、五、一七 林剛、林友兩氏同
伴内眞部眺望山を視察
福 田 次吉 仙臺土木出張所長 一〇、三、五 岩木川改修狀況、山
田川との關係及び十川改修を視察
藤 山 雷太 貴族院議員實業家 九、八、二六 北海道事業界視察の
歸途淺虫に泊
藤 生 安太郎 政友代議士 九、九、六 凶作地經濟狀況視察
(元本縣内務部長)現聯合青年團理事 一〇、二、二六
來青
舟 山 正吉 銀行檢査官 九、九、二 來青、青森無盡並青灣組合
の帳簿檢査同一二金木銀行の檢査
二 荒 芳 德 貴族院議員 九、五、六 縣教育會總會に講師として
プリボニージ・ブルノイ中佐 伊太利輕巡洋艦クルト號艦長
九、六、三 艦隊青森入港
二 木 謙 二 東京帝大教授 九、二、二四 食養改善實行公開演説
のため來弘
古 田 良 一 東北帝大教授 九、一〇、一〇 奥羽地方の海運史料蒐
集のため
堀 池 英 一 文部省普通學務局學務課長 九、二、二六 本縣に於
る兒童給食の施設狀況視察の爲來青
星 田 義 量 史蹟研究家 一〇、四、二 長慶天皇御遺蹟並に御陵
參考地實地踏査のため
法政大學自動車巡遊團 九、七、八 休暇を利用、國防産業道及各地の
燃料配給狀況校友歴訪のため來青

來往錄

六〇六

松本彦次郎 利組合視察 文學士(上北郡野邊地町出身)一〇、二六 墓參のため歸省

松田有弘 政黨解消聯盟本部員九、四、六 政黨解消聯盟青森支部の招聘により遊樂座に於て講演

松村金助 時事新報社記事(青森市出身)一〇、四、二七 時局講演會講師として來青

松野鶴平 政友會代議士九、九、六 凶作地經濟狀況視察のため横須賀航空廠長海軍少將一〇、二、二六 大湊航空隊視察の爲來湊

松下元 舞鶴要港部司令官海軍中將一〇、一、一九 管内視察の途次大湊要港部を訪問飛行訓練視察

牧野輝智 經濟學博士早大講師九、七、三 早大校友會青森縣支部總會並に同支部主催經濟事情講演會講師として來弘

馬淵てふ子 女流飛行家九、八、二 青森飛行場の視察をなし、同夜青森市公會堂に於て航空についての講演

丸川久俊 農林省水産試験場技師九、二、二六 冷害豫防對策の海洋調査打合せのため

丸山鶴吉 元警視總監一〇、一、二二 報恩祈願式の講師として來青

眞崎尙忠 仙遊局工務局長一〇、三、六 板柳に於て殉死した工夫の靈を慰め青森郵便局電話分室工事及局内事務視察

毛偶風 滿洲國馬政副局長一〇、四、一七 本縣馬政狀況視察のため來八

マレラ・ボウル 東京駐劄羅馬法皇使節九、八、三 北海道の教勢を視察の途青森を通過

三上憲之助 滿洲國ハルビン警察署長警正(南郡猿賀村出身)九、一〇、五 亡父法要のため歸郷

三井徳實 代議士一〇、二、六 外三氏と共に田名部より來青 東京佛敎女子學院院長九、二、二〇 西本願寺の東北凶作地實情視察並びに慰問のため派遣せられ來青

三重野千々子 仙臺逡信局長一〇、三、三〇 仙臺より來青、都市計畫委員會に臨席

三宅抗一 長岡市會議員九、二、三 秋田を経て來青、凶作地方視察

三宅正一 內務省土木局國道改修主任技手、工學博士九、六、四 青岩橋架替、青森、弘前國道視察の爲

三浦七郎 農林省山林局監理課長(五戸町出身)郷里五戸町を訪問の後九、九、三 來青、凶作狀況視察

三浦一雄 子爵宮中顧問官一〇、五、六 視察のため

宮原武雄 佐藤鐵太郎大將秘書官、一〇、二 東郡西平内村凶作參狀視察のため

南次郎 陸軍大將九、八、三 北海道の歸途、軍馬補充部三本木支部に至り視察

水野常吉 文部省社會教育官九、七、三〇 本縣社會教育一般を視察のため來青

水野常吉 陸軍大學敎官部兵學敎官一〇、二、三十一 歩三十一の事務視察のため來弘

武藤始太郎 農林省山林局長一〇、一、二六 秋田より來縣、碓ヶ關、金木各營林、大鰯官行造林、修練場を視察

村上龍太郎 天理敎會本部役員九、二、二七 青森敎務廳長山本氏同伴信徒よりの義捐金持參來青

村田慶藏 大藏省技手一〇、二、三來八、八戸各酒造店につき視察

森田重次郎 辯護士(上北郡出身)一〇、一、二 上北郡各地方に於て時局講演

森 農林省參與官一〇、一、三 報恩祈願式の講師として來青

み

之部

も

之部

や

之部

よ

之部

森元吉造 醫學博士一〇、一、三 來青、市内に於て懇談

森永太一郎 森永製菓株式會社社長九、八、七 弘前東興義塾に開催の青森縣産業研究會例會に臨席講演した、同夜弘前同業者の歡迎會にも演説

森末治 歩兵少佐(三戸郡淺田村出身)九、八、三 滿洲より歸郷、同村小學校に於て講演

毛内靖胤 津輕伯爵家家令一〇、二、二四 岩木村に於ける伯爵家所有林視察部落民への講話の爲め來弘

守屋榮夫 農林政務次官九、八、二五 來縣し凶作地に於ける其後の農村經濟更生事業その他の視察のため各地を訪問

山岸輝雄 仙臺鐵道局長九、九、三 渡道の内田大臣見送の後恐山靈場視察

山川端夫 貴族院議員法學博士九、八、二六、二七 青森、弘前に於ける國際事情講演會に講演

山本厚三 代議士一〇、一、二五 清寛代議士と共に民政黨青森縣支部總會に出席のため來青

山崎達之輔 農林大臣九、一〇、七 東北地方冷害實狀視察のため來青

八重畑梅畝 九、九、二 原始的治療法敎授のため來青、八戸に於ても實演

山中利一 日米拳闘俱樂部會長九、六、一八 本社主催拳闘大會のため來青

安江好治 仙臺稅務監督局長一〇、三、一五 各官公衙に新任挨拶のため來青

湯河元威 農林省農政課長九、六、九 鮫着、十和田湖、縣廳訪問その經濟更生部落等の視察

遊田宮城控訴院思想檢事九、六、九 青地思想事務視察

吉田大 陸 京都帝國大學學生新聞班九、二、三 三戸地方凶作狀態及食糧狀況視察のため

吉田潤三郎 仙遊局技師一〇、一、二 中野技手と共に宮城縣下で殉職した坂本工手會葬の爲來縣

吉田文一郎 農林技師一〇、一、三 秋田より來青

吉崎俊雄 日本メソヂスト敎會東京支部長九、七、六 弘前市敎會堂に於て開かれる特別講演會の講師

吉松盛吉 元本縣々視學九、五、二四 舊知の人々と會談

吉池岩 國民招魂社建設者九、六、二四 パルチザン慘殺事件並に上海事變民間犠牲者の英靈慰安實物教育參考館の贊助員募集のため來青

米澤恒雄 農林省事務官九、九、二 農村窮乏狀況並に低利資金狀況視察のため來青

吉阪俊藏 國際勞働事務局日本帝國事務所長一〇、三、五 昨年の凶作狀況を聴取後筒井村に於ける報恩祈願式の狀況視察

渡邊全 農學博士農林省林業試驗場技師九、六、三〇 木材規格調査及講演

渡邊達也 仙遊局經理課長逡信事務官一〇、三、五 青森郵便局會計事務青森飛行場視察のため來青

和久井太三郎 團基五段九、七、二四 北海道へ旅行のため本市田村四段を來訪

和田みつ 日本基督教婦人矯風會役員九、二、三〇 身賣防止狀態視察のため

和田保 農林省技師一〇、一、八 耕地整理事業並に凶作對策事業調査のため來縣

和山元大日本報德社社長九、八、二五 三戸郡中澤村の招聘により同村小學校に於て農村問題に關しての講演

ゆ

之部

わ

之部

來往錄

六〇七

異動錄

自昭和九年五月一日
至昭和十年四月卅日

あ之部

阿部忠助 小湊署長
尾上銀行柏木町支店長
九、三、二任警部、命浪岡警察署長
九、〇、五命本店調査部長
一〇、三、二任弘前高等學校校長(二等)
一〇、四、一補陸軍步兵學校教官
九、七、四補八戸中學校校長(五等)
九、〇、五補釧路地方裁判所檢事
兼釧路區裁判所檢事(西郡中村出身)
九、〇、五命柏木町支店長
九、〇、三命青森縣土木技師命内務部土木課勤務
九、〇、二命家事都合で辭職
九、五、三命石營林署長を命ず
九、二、三命青森支店長
九、七、九任營林署技手、蟹田營林署長を命ず
一〇、三、六命青森保線事務所土木掛
九、七、〇命野邊地驛長
九、八、一補野砲兵第八聯隊附
伊藤淳吉 平壤覆審法院院長、
朝鮮總督府判事
九、〇、三補京城覆審法院院長(青森出身)

い之部

伊藤淳吉 平壤覆審法院院長、
朝鮮總督府判事
九、〇、三補京城覆審法院院長(青森出身)

う之部

宇都宮孝平 青森縣書記官
九、二、二命青森縣立圖書館長事務
取扱(一、二、九内閣賞勳局書記官
轉任)
九、五、五命青森縣電氣局技師長、
工務課長
九、八、一補騎兵第八聯隊附
一〇、三、六補第八師團兵器部長
一〇、四、五命青森郵便局長
九、七、〇命庭坂機關庫主任
九、五、三任中里營林署長

え之部

江川恒雄 第八師團經理部長
九、八、一補陸軍造兵廠會計部長
江渡哲哉 醫學博士
九、六、一、九補田病院主任
江口有 軍醫大佐
九、二、五補大湊要港部軍醫長兼
病院長
江口貞吉 臺灣總督府技師
九、六、六任八戸水道技師
江良鐵太郎 郵便局長
九、九、四任三等郵便局長、命館岡
郵便局長

お、を之部

小野寺彦 弘前區裁判所監督
九、五、八補長岡區裁判所監督判事
兼新潟地方裁判所長岡支部長
小原禮藏 近衛步兵第一聯隊
九、八、一日本大學服務を免ず、補
附、歩兵中佐
大塚吉之助 野内驛助役
九、三、五命木ノ下信號場驛長
大鹽文思 野砲兵第八聯隊附
九、八、一補鐵道第一聯隊附
三等軍醫正
異動錄

伊藤聰 青運事業掛
九、五、九任衛生技師、補青森縣衛
生技師
伊藤正一 大湊要港部員、
九、七、〇命大館驛長
伊藤篤吉 古間木驛長
九、二、五任軍醫中佐、補長門軍
醫長兼分隊長
伊藤忠久 豐橋病院附三等藥
九、三、五命青運事業掛勤務
石岡重勝 一〇、三、六補弘前衛戍病院附
一〇、三、二補陸少將
石田保道 地方視學官
九、〇、三命青森縣勤務、命學務
部教育課長
石田直雄 九、八、一任步兵中佐
石畑傳藏 東京控訴院檢事
九、七、六補東京地方次席檢事
石塚泰輔 勸業銀行鳥取支店
九、五、二勸業銀行青森支店長
長
泉五 地方農林技師
九、〇、三、九經濟部產業統制課兼務を
命ず
和泉勘次郎 砲大佐
一〇、三、二任陸少將
岩本政雄 步兵第三十九聯隊
九、五、一補弘前衛戍病院附
磯田泰 野砲第八聯隊附、
一〇、三、二補野砲兵第一聯隊附、
砲少佐
飯野庄三郎 陸軍少將
九、八、一補步兵第四旅團長
飯田廿一 橫須賀警備戰隊機
九、二、二補橫須賀鎮守府附被仰付
關長、機關大佐
板垣金雄 騎兵第二十二聯隊
九、六、六補野砲兵第八聯隊附
附、陸軍三等獸醫
九、二、二補海軍兵學校教官兼監事
板垣昂 青森砲術長、海軍
九、七、七任營林局技師(三等)兼本
營林局在勤を命ず
稻葉廣通 營林署技師、青森
局砲ヶ關署長

大住講義 仙臺地方專賣局事
業課
九、〇、四、八命弘前煙草販賣所長
大江覽治 野風驅逐艦長、海
九、〇、三、三補橫須賀鎮守府工廠造
兵部検査官
大野邦一郎 近川驛長
九、七、〇命浪打驛長
大須賀與五郎 步兵第卅一聯隊
九、八、一北海道廳立名寄中學服務
附步兵少佐
を命ず
太田市太郎 八戸警察署長
九、二、一命巡查教習所長
岡田乙吉 青森縣區司令部
九、八、一任大佐待命被仰付
附、歩兵中佐
一〇、三、九經濟部商工課長を命ず
奥田健兒 弘前病院附、三等
二〇、三、二補衛生材料廠員
奥崎武一 青森局庶務課長
九、九、六任三等郵便局長、命淺蟲
郵便局長
尾崎久光 盛岡保線事務所土
一〇、三、二命野邊地保線區主任
尾崎信二 東奥義塾教諭
一〇、三、三命青森縣
尾田光雄 第一驅逐隊沼風驅
九、二、五補大湊要港部員
緒方勉 逐艦長、海軍中佐
九、〇、三、三補橫須賀鎮守府副官

か之部

河村勝治 青森驛長兼青森操
九、七、〇命仙臺驛長
河村勝治 仙臺驛長、鐵
道局副參事
河島勳 栃木國幣中社二荒
一〇、三、三命青森國幣小社岩木山神
社宮司被仰付
河野善六 青森運事主任、操
二〇、三、二命福島運事主任、操替
替拂出納官吏
河野悦次郎 第八師團參謀、步
九、八、一補關東軍參謀
兵中佐
一〇、三、二命弘前保線區主任
加藤清 一ノ關係保線區主任
六〇九

異動錄

加藤祐三郎 臺灣總督府事務官
加藤祐三郎 特高課長
加藤 菊松 沼崎驛長
加川 大容 大曲區檢事
葛西 彌六 青森縣屬會計課長
葛西 吉造 青森縣警部補
粕谷 留吉 輜重兵少佐
川島 忠一 吳海軍航空分隊長
川邊 清 青森軍車所助役
川口龜次郎 三本木高女校長
鎌田喜三郎 八戶署警部補
金子 精二 青森市帝國興信所
金子 周吉 青森市帝國興信所
兼子 周吉 德島衛戍病院附
掛札 俊雄 縣電氣局總務課長
春日 十郎 宮城縣大河原稅務署
壁島 美明 東京帝國大稻田內科
片山省太郎 東北帝國大服務、步兵大佐
柿崎 力 青森出張所
唐澤 威夫 青森種馬所在勤、技手

九、五、二 青森縣警部特高課長
九、二、二 命茨城縣勤務
九、三、五 命久慈驛長
九、一、二 命青森區檢事
九、六、三 命地方事務官(七等)、命青森縣勤務(二)、二命知事官房主事並總務部人事課長(九、二、三)命青森縣知事官房秘書課長兼務(九、二、二)任青森縣警部、命五戶警署署長
九、八、一 補輜重兵第八大隊附(弘前出身)
九、二、二 大村海軍航空隊附(弘前出身)
九、三、四 命大荒澤驛長(岩手縣)
九、五、五 退職
九、三、三 命小湊警察署長
九、三、三、六 任陸少將
九、五、三 同所長
九、八、一 補第八師團軍醫部部員
九、三、三、八 八戶營業所長
九、七、三 命青森稅務署間稅課長
九、五、三 弘前市津輕病院黑石分院內科擔任
九、三、六 補步兵第廿五聯隊長
九、七、三 任專賣局書記、命山形縣仙臺地方專賣局屬花澤煙草販賣所長
九、二、二 任地方農林技師(七等)補宮城縣農林技師

老之部

工藤 正雄 (保安)屬兼青森縣警部
工藤 福松 船長
久納 誠一 第八師參謀長
倉田 藤吉 地方事務官、庶務課長
倉田 周藏 步兵大佐
倉 學一 弘前衛戍病院長、一等軍醫正
窪田 嘉計 報知新聞青森支局主任
窪田 圓平 營林局造林課長、青森稅務署屬直稅課
黑木榮次郎 青森縣女師校長
黑金 厚美 青森縣女師校長
栗山 和助 尻內保線區主任

九、二、一 免本官專任青森縣警部、命金木警察署長
九、二、三 依願免本職
九、二、二 任陸軍少將、補騎兵學校幹事(二)、三、六 任陸少將
九、六、三 依願免本官(一)、三、八 縣電總務課長兼務を命ず
九、八、一 補步兵三十一聯隊長
九、八、一 待命被仰付(九、八、九 五所川原町北郡醫師會病院長に赴任)
九、六、二 任本社々會部員
九、六、二 命秋田營林局造林課長
九、六、二 命秋田營林局造林課長
九、三、八 五所川原稅務署直稅課長を命ず
九、五、一 青森縣立青森高等女校長
九、三、三、六 命青森保線事務所土木掛勤務(一)、四、七 任鐵道局技師、高等官六等、四、八 依願免本官

乙之部

小林 幹雄 野砲兵第八聯隊附
小林 光政 陸軍一等獸醫
小林 徹理 埼玉縣內務部長
小川 正輔 第一驅逐隊司令、海軍大佐
小川 又雄 騎兵第四團團長、陸軍少將
小川 竹松 大湊海軍航空隊整備長兼分隊長、橫須賀鎮守府部員、機關少佐
小栗山作太郎 遞信書記(青森)

九、六、六 補騎兵第二十二聯隊附
九、八、二 任青森縣知事(二等)
九、二、二 補第六驅逐隊司令
一、〇、三、六 補近衛師團司令部附
一、〇、四、三 兼補大湊要港部々員
一、〇、四、五 命仙臺遞信局船舶部郵便局乘務課主監
九、七、七 村長に決定

乙之部

木村 象一 近衛步兵第二聯隊附兼近衛野砲兵聯隊步兵少佐
木村 亮吉 地方事務官、社寺兵事課長
木村 虎次郎 一等軍醫正
木村 民藏 步兵學校教官兼同校研究部部員、步兵大佐(大野村出身)
木田 徹郎 社會局屬七戶尋常高等小學校校長
北川喜三郎 北島顯太郎 三等獸醫正
北澤武三郎 西郡車力村長
北野 九郎 騎兵少佐
菊地 繁雄 營林署技師(秋田局早口署長)
菊地 武治郎 久慈驛長
吉良 俊一 大湊海軍航空隊司令、海軍中佐
桐野 宏 第八師團兵器部長

九、一、〇 命弘前市產業課長
九、三、〇 免兼職(一)、三、五 補近衛步兵第二聯隊大隊長(弘前市出身)
九、二、一 命學務部社會課長兼務
九、八、一 補弘前衛戍病院長
九、八、一 補戰車第二聯隊長
九、七、四 補青地職紹事務局長
九、三、三 依願免七戶町立實科高等女學校校長同教諭
九、八、一 任二等獸醫正、補陸軍衛生材料廠々員兼陸軍省軍務局課員(弘前市出身)
九、五、五 退職
九、八、一 青森縣三本木農學校服務を命ず
九、七、七 任營林局技師(三等)、青森營林局利用課長を命ず
九、三、五 命古間木驛長
九、二、五 任海軍大佐
一、〇、三、六 待命被仰付

異動錄

佐藤林太郎 東京第二衛戍病院長、一等軍醫正
佐藤一三 北常盤驛長
佐藤正氣 秋田營林局技師
佐藤義房 東北帝大講師、醫學博士
佐藤市郎 五所川原煙草販賣所長
佐々木由路 地方視學官
佐々木新七 元五九扇田支店長
佐々木初太郎 元五九扇田支店長
佐々木謙三 東奧義塾服務、步兵少佐
佐々木謙三 東奧義塾服務、步兵少佐
佐竹彦吉 元小湊警察署長
佐枝義重 步兵第四旅團長、陸軍少將
佐野穀藏 板柳銀行本店支配人
齋藤維一郎 大阪遞信局監督課長
齋藤朝信 本莊保線區主任
齋藤金太郎 第八師團軍醫部員、二等軍醫正
齋藤順作 騎兵第十四聯隊附騎兵大佐
齋藤義次 騎兵大佐
齋藤長吉 五九所川原支店長
齋藤豐太郎 新潟郵便局主事

榊田圭藏 陸軍造兵廠火工廠板橋火藥製造所長
境岩三郎 野砲兵第四聯隊附砲中佐
境岩三郎 野砲兵第四聯隊附砲兵少佐
菅森豐作 青森縣立小荷物掛役
澤隆二 弘前小荷物掛第一師團副官、步兵少佐
櫻庭子郎 兵少佐
坂本寬 駒越校長
西蓮寺元 步兵第五聯隊附、步兵少佐
柴勝男 足柄水雷長兼分隊長、海軍少佐
島田政義 秋田縣立金足農業學校服務砲兵少佐
島田正三郎 弘前市產業課長
島田整一 弘前郵便局長
島崎利雄 海軍航空廠醫務部部長
下山政人 海軍航空廠醫務部部長
志田利邦 野戰重砲兵第三聯隊附、三等軍醫正
城戶孫右衛門 第八師團獸醫部員
東海林壽太郎 步兵第十二聯隊附、步兵少佐
重見伊三雄 戰車二聯隊附、步兵少佐
鹿土源太郎 屬警部

す之部

須藤全治 輜重兵少佐
須藤愛太郎 青森檢車所助役
須藤勝郎 狩場澤驛長
鈴木雅治 步兵第三十二聯隊附、步兵中佐
鈴木要之助 浪打驛長
鈴木利吉 弘前煙草販賣所長
鈴木昌實 電氣局八戶營業所長
鈴木幸治 遞信省燈臺局青森港燈臺事務所主任
鈴木田幸造 川内艦長、海軍大佐
鈴木章夫 步兵少佐
鈴木嘉助 佐世保海軍工廠造兵部長、海軍大佐
鈴木鼎三郎 農林技師(東京米穀事務所勤務)
鈴木琢次 青森縣屬
鈴木健三郎 元五九秋田支店長
鈴木忠五郎 步兵第卅一聯隊附步兵少佐

杉山香也 步兵第五聯隊大隊長、步兵少佐
砂川泰 步兵第五聯隊附
菅野次基 步兵第卅一聯隊附步兵少佐
菅原勇治 地方農林技師
清野正彌 青森局營林局技師
關亥留 板柳驛長
關辰三 營林署技師田名部署長
關川寬平 古川區檢事
瀬戸山安秀 波風驅逐艦長、少佐
相馬留之助 青森縣地方事務官
相馬辰之助 鶴泊驛長
相馬勝美 野砲兵第五聯隊附砲兵中佐
田村浩 青森縣地方事務官
田村米作 五所川原驛長
田中弘吉 農務課長
田中三郎 仙局運轉課列車掛
田中藏六 青森縣內務部長

せ之部

九、三、二〇 任輜重兵中佐(岩木村出身)
九、七、三〇 命近川驛長
九、三、二五 命北常盤驛長
九、三、一〇 命第三十一聯隊附、岩手醫學專門學校服務
九、七、二〇 命青森縣若柳煙草販賣所長
一〇、三、一八 依願免本職
九、六、三三 任平館燈臺看守長
九、七、七〇 命三隈義裝員長(南郡野澤村出身)
九、八、一〇 命步兵第卅一聯隊附
九、二、二五 命佐世保海軍艦船部長(弘前市出身)
九、二、一〇 命青森縣米穀事務所長
九、二、〇〇 命青森縣立圖書館長事務取扱
九、一〇、一五 命五九深浦支店長
九、八、一〇 命待命被仰付

た之部

九、三、二〇 任陸軍少將、造兵廠附被仰付(青森縣出身)
九、八、一〇 命砲兵中佐(弘前市出身)
九、八、一〇 命奉天中學校服務所長(弘前市出身)
九、三、二七 命野內驛長(命)
九、七、三〇 命青森縣小荷物掛主任
九、八、一〇 命步兵第五七聯隊大隊長(弘前市)
九、二、〇六 任新和小學校長
九、八、一〇 命步兵第五聯隊副官
九、一〇、三三 補沼風驅逐艦長
九、八、一〇 命野砲兵第八聯隊副官
九、一〇、一〇 命水道課經理係
九、二、二五 命前橋郵便局長
九、二、二五 命大湊要港部參謀
九、四、二〇 命大湊海軍航空隊軍醫長兼分隊長
九、八、一〇 命青森衛戍病院附
九、六、三三 任宮内省主馬寮獸醫部長
九、八、一〇 命步兵第卅一聯隊附、岩手縣立蠶業學校服務(命)
九、三、二六 命步兵第八師團參謀
九、一〇、一〇 命青森縣社會課長

田邊 助友 少佐 陸軍通信學校附、步中佐(進級)

田川潤一郎 少佐 陸軍通信學校附、步中佐(進級)

田尻 昌二 少佐 滿洲國交通部總務司長

竹内 德亥 少佐 島根縣農林技師

竹内 勝雄 少佐 板柳銀行青森支店書記

竹内 鐵太郎 少佐 五九青森支店長

竹内 宗介 少佐 青森稅務署間稅課長

竹村 鎌吉 少佐 陸軍士官學校教官

竹田 政一 少佐 砲兵中佐

竹ヶ原圭八 少佐 元三戸郡下長苗代村農會技師

竹崎 武雄 少佐 大湊防備隊司令、海軍中佐

高橋 一郎 少佐 仙鐵局工務課電氣掛

高辻 武邦 少佐 靜岡縣地方事務官

高木 義人 少佐 步兵第廿六聯隊長

高間 寛 少佐 大湊要港部參謀、海軍中佐

高尾 一郎 少佐 東京朝日新聞青森支局記者

高儀 秀吉 少佐 野邊地驛長

谷内 竹次 少佐 木ノ下信號場驛長

玉置良之助 少佐 弘前市立新竹中學校服務を命ず(青森市出身)

玉田 政助 少佐 弘前衛戍病院附、地方事務官、岩手縣警部

武山 直藏 少佐 地方農林技師

武田 靖夫 少佐 青森操車場貨物掛主任

多田 安信 少佐 青森縣知事

財部 俊夫 少佐 一等主計正

立川 武義 少佐 青森區檢事

館山 三郎 少佐 青森區中

瀧口 三郎 少佐 神學士

千葉 北海 少佐 地方農林技師

千葉 米治 少佐 大湊警部補派出所

千田 專平 少佐 青地職相事務局長

知久 八萬 少佐 砲中

土田 廉 少佐 宮城縣師範教諭、宮城縣實補教諭

土田 孝正 少佐 公立中學校教諭

中鉢 四郎 少佐 青森警林署長、警林署技師

塚原 園一 少佐 大泊特務艦長、海軍中佐

塚本 庫三 少佐 秋田局、白瀨署長

對馬 百之 少佐 弘前憲兵隊長、憲兵少佐

九、三、九 經濟部產業統制課兼務を命ず

九、四、三 蟹田署長を命ず

九、七、四 補名古屋地職相事務局長

九、三、六 補野砲兵八聯隊附

九、二、三 補青森縣女子師範學校教諭(七等)

九、二、三 補青森縣立木造中學校教諭

九、七、四 任警林局技師(六等)、命青森警林局技師

と之部

出口 游奇 少佐 青森縣立八原中學校長

寺澤 正藏 少佐 基隆重砲兵大隊附、砲兵少佐

手塚庄太郎 少佐 網走郵便局長

富澤 豊 少佐 三本木高女校教諭

友真碩太郎 少佐 德島地方所長

十川 義友 少佐 青森縣警區副官、步兵少佐

戸川 博 少佐 龍飛岬燈臺看守長

東郷 保一 少佐 地方農林技師

外崎 誠治 少佐 野内驛長

飛田恒太郎 少佐 佐沼煙草販賣所長

な之部

中島 第三 少佐 大湊海軍航空隊飛行隊長兼分隊長、海軍少佐

中島 昌夫 少佐 青森運輸事務所長

中島 米温 少佐 鐵道局技師

中山 文雄 少佐 弘前高等學校長

中西 久夫 少佐 愛媛縣屬

中村 義一 少佐 第八師團經理部員

中谷 專三郎 少佐 巡查教習所長

成田 茂一 少佐 峰風驅逐艦長、海軍少佐

奈良長右衛門 少佐 蟹田署長

九、二、一 補館山航空隊飛行隊長

九、六、五 任千葉運輸事務所長

九、三、七 青森操車場助役を命ず

九、四、三 任山口高等學校長(二等)

九、一、二 任地方事務官、命青森縣勤務

九、三、六 補步兵學校附

九、三、一 命八戸署長

九、二、五 補潮驅逐艦長(九、一〇、三)

九、二、五 補澤風驅逐艦長(弘前出身)

九、四、三 任青森縣警部、青森署勤務を命ず

に之部

西澤 宗吉 少佐 步兵第卅一聯隊附

西澤 勇治 少佐 輜重兵大尉

西谷 嘉太郎 少佐 尾上銀行本店支配人兼調查部長

西尾 精力 少佐 鶴岡驛長

西塚 仙三郎 少佐 青森保事事務掛主

二關 進 少佐 任

新村 理市 少佐 輜重兵第八大隊附

錦戸 高一 少佐 輜重兵少佐

野坂 藤造 少佐 仙鐵局計理課青森倉庫主任、同物品會計官吏

野呂 竹四郎 少佐 浪岡署長

信澤 清三郎 少佐 步兵第五聯隊長附

能美 實 少佐 海軍中佐

九、三、五 補步兵第一聯隊附、東京高等學校服務を命ず

九、八、一 任輜重兵少佐、補輜重兵第九大隊附(青森市)

九、二、五 調查部長兼務を免ず

九、七、三 命弘前驛長

九、四、三 高等課長を命ず

九、七、三 命秋田保事事務掛主任

九、八、一 補近衛輜重兵大隊附

九、八、一 補近衛輜重兵大隊附

五所川原驛長を命ず

の之部

原子 英雄 少佐 步兵第十七聯隊附

歩兵少佐

九、八、一 秋田縣立大館中學校服務を免ず(弘前市)

異動錄

富山聯隊區副官、
 步兵大尉
 九八、一任步兵少佐(弘前市出身)

東京營林局技師
 九六、二四命青森營林局造林課長

野砲學校研究部主
 九八、一補野砲兵第八聯隊大隊長

青森署勤務
 一〇、四、二野邊地署長を命ず

營林局技師、青森
 九七七、熊本縣營林局利用課長を命ず

青森縣女子師範學
 九、五、一九 任新潟縣師範學校教諭(主事)

步兵第卅一聯隊長
 九八、一 任少將待命被仰付

海軍水雷學校教官
 九、七、五 補大港要港部副官兼參謀

兼橫須賀海軍航空
 九、八、一 甲府商業學校服務を命ず

隊教官、海軍通信
 九、三、二〇 命兼山梨縣立農林學校服務(弘前市出身)

空學校教官
 九、五、一三 黑石營林署長に任ず

營林局 屬
 九、八、一 甲府商業學校服務を命ず

野砲兵第八聯隊附
 九、三、二〇 命兼山梨縣立農林學校服務(弘前市出身)

砲兵少佐

藤岡 武雄 步兵第四旅團副官
 九八、一 任步兵中佐、補步兵第三聯隊附

藤岡 勇 野砲兵第七聯隊中
 九八、一 任砲兵少佐(弘前市)

福士 尙志 警部保安課長
 一〇、三、二 警察部、刑事課長

福田 貞三郎 步兵少佐
 九八、一 任步兵中佐、補步兵第七聯隊附(五戸町)

福田 富治 古鷹副長、海軍中
 九、二、二 補樺名副長(南郡女鹿澤村出身)

淵田 秋廣 高等課長
 一〇、三、二 保安課長兼高等課長

淵上房太郎 青森地方技師
 九、二、三〇 任地方農林技師(五等)

船木 守衛 警部部長
 九、二、三〇 任地方農林技師(五等) 補奈良縣農林技師

名取砲術長、海軍
 一〇、一、一九 岩手縣書記官補總務部長

少佐
 九、二、一 補第二艦隊司令部附九、二、二 補摩耶砲術長(南郡猿賀村出身)

八、二〇之部

廣安 壽郎 步兵第十七聯隊副
 官、步兵少佐

東野太一郎 山口師範學校教諭

平川 三郎 板柳銀行弘前支店
 長

藤林 哲郎 青森通信區助役

藤澤喜久郎 大阪府事務官

藤懸 廣 第八師團軍醫部長

藤井 滋香 福山市技師囑託
 課長

穗積 立雄 白鷹艦長、海軍中
 佐

星 一雄 男 附 主 事

堀江 守一 青森局、營林局技
 師

本間 德太 青森縣警部補

松岡 益雄 勸業銀行青森支店
 長

松岡 啓正 野砲兵第八聯隊長
 砲兵少佐

松本與三郎 豫備憲兵少佐、陸
 軍省囑託、從五、陸
 勳五

六、二〇之部

松本 秀 黑石煙草販賣所長
 一〇、四、一八 命岩手縣花卷煙草販賣
 所長

松本 正男 岐阜郵便局電話課
 長、通信技師兼遞
 信局技師

松尾 友雄 文部省 屬

松室 重博 青森營林局蟹田署
 長、營林署技師

松浦 康秋 青森縣土木技師

松坂 農三 尻内驛助役

松倉彦一郎 秋田倉庫主任兼秋
 田運事運轉掛、同
 物品會計官吏

前田 精 大湊要港部副官兼
 參謀、海軍少佐

前田 金次郎 富 榮 訓 導

前田 忠一 野 澤 村 長

前澤 長重 步兵第卅一聯隊附
 步兵大尉

増田 清一 第八師團兵器部員
 砲少佐

増子 勝重 青森縣立三本木農
 學校服務、騎兵少
 佐

丸山 禮助 地方技師

榎 武雄 地方技師

榊澤 中縣病醫員

三浦 康司 異動錄

三浦 益三 地方技師、土木課
 長

三上 藤太 五戸町長

三上 清英 陸奥銀行青森支店
 長

三宅 忠強 騎兵第八聯隊長、
 騎兵大佐

三田 藤吾 青森中學校長、
 大湊防備隊副長、
 海軍中佐

宮本 定知 步兵第三十一聯隊
 大隊長、步兵少佐

宮崎 武之 青森縣防疫醫
 官

宮崎 玄恂 青森營林局 屬

宮田菊次郎 野砲第八聯隊附、
 砲兵中佐

宮内 陽輔 砲兵中佐

宮川 清三 野砲兵第五聯隊附
 砲兵中佐

水馬友次郎 騎兵第八聯隊附、
 騎兵中佐

南 兵太郎 步兵第卅一聯隊附
 三等軍醫正

村井權治郎 第八師團副官、步
 兵少佐

村山 英七 仙局工務課庶務掛

武智 章 青森國幣小社岩木
 神社官司

武藤 弘喜 野邊地保線區主任

向山 達郎 岩手蠶校服務、步
 兵少佐

七、二〇之部

九八、一 補步兵第三十一聯隊長

九、七、三 命青森保事々務掛主任

一〇、三、三 德島國幣中社大麻比古
 神社官司被仰付

一〇、三、六 命秋田保線事務所土木
 掛勤務

九八、一 補步兵三十一聯隊附

も之部

森 寬 若竹驅逐艦長、海軍少佐 九、一〇、三 補野風驅逐艦長

森玉 賀四 大湊海軍無電所長 九、二、一 補練習艦隊司令部附兼參謀

百瀬 重作 海軍少佐 九、五、一 八免青森縣立工業學校服務

本林富士郎 大湊海軍航空隊軍醫少佐 九、四、一 上海軍々醫學校選科學生被仰付

や之部

山田 一世 野砲兵八聯隊附砲中佐 二〇、三、六 補近衛野砲兵聯隊附

山田 一兒 仙臺通信局工務課長 九、六、六 命仙臺通信局工務課青森出張所長 九、九、七 仙臺通信局工務課

山田 正義 青森市帝國興信所青森支所長 九、五、五 青松本市同所支所長

山田 博 判事 二〇、一 東京地方より青森地方へ着任

山田 敬助 青森市土木課長 九、三、三 依願免本職

山田 次六 騎兵第八聯隊附、騎兵少佐 九、八、一 待命被仰付

山田 勇助 中津輕要塞司令官、少將 九、一、二 五 補波風驅逐艦長

山口 正照 少將 九、八、一 補第八師團司令官附

山口 長南 橫須賀警備隊司令官、海軍少將 九、一、二 五 補大湊要港部司令官

山土 晋 陸奥横濱驛長 二〇、三、七 板柳驛長を命ず

山本 繁成 五九八戸支店長 九、一〇、六 命五九總ヶ澤支店長

山際源一郎 九州大大學院 九、五、二 青森縣立病院眼科部長

山路 秀男

山路 秀男 步兵中佐 九、八、一 補步兵第五聯隊附

山内倭文夫 青森營林局内眞部署長、營林署技師 九、七、九 任營林局技師(七等)、命東京營林局在勤

安井 章一 長崎縣警察部長 九、八、三 任青森縣書記官、補内務部長一〇、三、九 經濟部產業統制課長事務取扱を免す

安田 吉助 地方事務官 九、三、九 經濟部產業統制課長を命ず、同水産課長兼務如故、同商工課長を免す 二〇、二、九 經濟部

矢吹 正公 青森保線區主任 九、七、三 命仙島局工務課改良掛勤務

よ之部

吉田 辰藏 富山縣立小杉農業公民學校教諭 九、六、三 補青森縣立實業補習學校教員養成所教諭(五等)

吉田 彌三 鹿兒島縣立川邊中學校長 二〇、四、七 補青森中學校長

横山彌太郎 長門副長、海軍中佐 九、二、一 補橫須賀海軍工廠造船部検査官兼總務部員(北郡板柳町)

米澤鐵太郎 警部 二〇、三、二 縣屬總務部人事課長

米内山震作 關東廳事務官 九、三、三 命關東廳内務部長兼學務部長(七月出身)

米重鐵次郎 弘前區檢事 二〇、一、六 補五所川原區檢事

ゆ之部

湯田 廣吉 野邊地稅務署直稅課 九、一〇、一 命福島縣白河稅務署

結城 平三 青森縣服務、歩兵少佐 九、八、一 補歩兵第五聯隊附

わ之部

渡邊精次郎 盛岡運事主任、同盛岡出納官吏、同出納掛勤務 二〇、三、六 命青森運事主任操替拂出納官吏

渡邊 馨 佐賀縣伊萬學商業學校服務、砲兵少佐 九、八、一 補野砲兵第八聯隊附

渡邊喜七郎 山形縣立山形中學校服務、歩中佐 二〇、三、六 補秋田聯隊區部員

渡部藤五郎 橫濱地方裁判所豫審判事 九、五、八 補弘前區裁判所監督判事 兼青森地方裁判所弘前支部長

渡 正監 福島縣警察部長 二〇、一、九 青森縣總務部長

和田 純久 高雄通信長兼分隊長、海軍少佐 九、三、一 補大湊海軍無電所長兼大湊要港部參謀

鷲尾 正雄 歩兵第卅一聯隊副官、歩兵少佐 九、八、一 補歩兵第十七聯隊大隊長

の之部

井波 七郎 八戸區判事 九、六、三 任青地兼青區判事

井上 肇治 大湊要港部司令官 九、二、一 五 補艦政本部第六部長

井出 繼男 釧路運輸事務所長 九、六、三 任青森運輸事務所長

猪方 信 鐵道局副參事 五、三 命仙臺鐵道局勤務掛掛長

山形縣保安課長 二〇、一、二 青森縣勤務、特高課長

哀悼錄

阿部政太郎 縣政友會の元老... 加藤宇兵衛 竹内清明の二氏... 去してより數年、縣政界の生...

拓いて殖林をなし、新田開設... にも重きをなし、當時小泊漁... 築を實現し、小泊村中興の祖...

石川清吉 秋田縣の人、明治... 十五年十二月一日生る。十四... 商店へ見習奉公し、十九歳に...

石井祐齋 大分縣日出町の... 組合専務理事、早くから地方... 民金融の必要を首唱し、鍛冶町...

出身、明治四十年青森縣巡査... 命警察界に入り、大正三年巡査... 部長、同六年警部補、同年警...

人、明治十七年二月八日生る... 明治四十二年二月同村役場に... 昭和大正十二年同村役場に...

當選。同三十五年同村長となり... 大正四年には郡會議員に當選... 翌五年再び六郷村長となり...

にあり。八戸政界では常に政友... 會の闘士として地方政界に認... られてゐた。昭和十年一月十七...

更に現在の慈善館通りに進出し、日の出食館を經營し同市カ...

森市青英會を組織し理事長に擧げられ今日に至つた。大正九年...

年土淵堰水利組合議員、同十五年十月木造町長に再選、就任今...

日死去、行年七十。木村鐵五郎 北郡五所川原町...

空隊偵察術練兵生に採用され、山航空隊一三式艦上攻撃機...

られて青森小學校に於て他の選抜生と合同し、萬國地圖の問答...

及んだ。現に小學校醫の他町指定委員としての囑託せられ、社會教...

爾來二十餘年間斯業を繼續し地方民を潤し今日に至つた、日本基督教會の一信徒である、昭和...

昭和九年八月二十二日病を以て死去、享年三十一。中郡大浦村高屋の人。笹義幹、同村農會長、郡會議員、郡參事、清水村外十ヶ村學校組合議員に擧げられ又多年村會議員として地方自治の爲め盡瘁した。昭和十年二月十七日死去、享年六十三。

亡人である。昭和十年三月十四日死去、享年七十七。東郡大野村細越の人、同村區長、信用組合専務書記等を勤め現に青森製材製紙株式會社工場監督たり。昭和九年九月十一日病を以て青森市浦町原町の自宅で死去、享年五十九。

後同二十四年本縣に轉じ、同十二年警部に任じ、浪岡警察署長其他に歴任し、同四十年退官其後北郡々書記に任ぜられ更に勤務し同四十二年退職後風月を友として静かに老を養つた。昭和十年死去、享年七十九。壯年時代剣道の達人として知られてゐた。

の養子となり、明治十六年同市土手町に角弘農具會社を起し、今角弘鐵店創立當時より社員で同社支配人たる事多年、以て今日同社隆盛の因を作り、明治四十二年同社を退き、同市富田町故齋藤主氏と共に工場を大罫町に建設し、合資組織に依り津輕味噌醬油醸造會社を創立して支配人となり今日に至つた。昭和九年八月九日逝去、享年八十三。

農を業とし町會議員たる五期二十年間に亘る。奥内耕整組合長下北産牛組合代議員、學務委員、日本赤十字社地方分擔區委員、奥内氏子總代等に就任地方の有力者である。昭和九年七月二十四日死去、享年五十九。東郡濱館村大字戸山の人、明治二十五年五月村會議員に當選し、大正十四年五月迄繼續、其間明治廿七年八月日清戰役に出征、戸山區長、學務委員、名譽職助役に選任せられた。四十四年六月東郡所得稅調査委員、大正七年村農會及代議員、同十二年三月村農會惣代人に當選、同八年七月自治功勞者として村長より表彰せられた。昭和十年四月三十日死去、享年七十一。

二日死去、享年六十五。八戸市類家に居住千葉ら、大阪毎日新聞、英文毎日主幹松岡正男氏の令姉、羽仁もと子氏令妹で、八戸市に裁縫教授の家塾を開き、其の校長として多年地方婦女子の教育に盡した教育功勞者である。昭和十年一月二十日死去、享年六十。三戸郡階上村の地代所清藏、三戸郡階上村の素封家、村會議員の要職にあり昭和九年春奔走の結果消防組第四部を設立して現に部長の職に就き、將來同村中堅の人物として嚆矢とされてゐたが、同年十二月五日病を以て死去、享年三十七。

記として歴任、大正十一年一月東奥義塾再興と共に、同塾に入りて書記となり、校務に熱掌現任に及び、同塾の功勞者である基督教信徒、昭和九年十二月四日死去、享年五十九。南郡猿賀村の人、對馬佐吉、南郡猿賀村の人、本縣巡查拜命後果進して警部に陞任し板柳、小湊、金木を経て昭和七年八月餘ヶ澤警察署長に補せられたが、同年十一月一日心臓を病みて死去、享年四十。三戸郡野澤村大字西越の人、同村第一區學務委員の職にあること多年、其他區長、村社三嶽神社子總代等を勤め、現に同村第一區議員である。昭和九年十一月二十八日死去、享年六十一。南郡尾上村大字高木の人、明治二十年海軍志願兵として横須賀に入團、日露戰爭に從軍し、八重山艦隊決死隊に加り武勳を顯し、勳八等旭日章を賜つた。除隊後同三十八年同村助役に就任、辭職後南郡役所に奉職、二十二年勳績村會議員の外方面委員、學務委員、高木區長、納稅組合長等に就職し村治上貢獻する處多。昭和九年十二月四日死去、享年六十五。西郡出身で弘前市の成田耕吾、

鷹匠町に居住。縣立工業學校に入學、同校卒業後大正十二年四月以來同校木工工藝科助手となり、爾來勤續精勵、昭和九年九月教諭に昇進、今日に至つたが同年十一月十五日腸チフスを病みて死去、享年三十六。青森市米町の人、弘前中學を中途退學して上京、一高等を経て東大文科を明治三十五年卒業、成漢實業學校長、成美高等學校首席教授を経て、昭和二年中央大學教授となり、哲學科を擔當した。非常な弟子思ひで、門下生の爲め良く盡し、學界にも貢献する處多かつた。昭和九年五月腦溢血に罹り同年九月十五日逝去した。享年五十七。南郡藏館村の人、中野龜吉、南郡藏館村の人、藏館消防第一部長たること滿十年。藏館青年團創立當時の團長をも勤め、現に藏館區長の外學務委員をも勤めてゐた。昭和九年十一月二日死去、享年五十九。北郡三好村鶴ヶ岡の人、相撲に興味を持ち疊に本社の主催して縣下相撲大會を開催するや第一、第二兩大會北郡豫選會には行司となり、克く審判を公平ならしめ、津輕相撲道の振興に努めた夙に鶴ヶ岡の行

昭和九年七月二十三日死去。成田誠一、弘前の人、明治二十四年八月十一日土地名物の...

長谷川儀三郎、弘前市新町に於て明治二十二年一月十五日生...

福士兵吉、北郡小泊村の人、資性濃厚篤實、一意村治に盡力...

堀利勝、弘前の人、明治三十六年弘前中學校を卒業する...

村自治に貢献し、現に三戸産馬組合長、八戸土木出張所管内請...

柳壇にも旺んに進出して名を知られてゐたが、昭和八年春以來...

三浦直哉、三戸郡市川村の人、萬延元年九月十日生る。村長、助役、村會議員、學務委員、水利...

山内元八、慶應元年三月福島縣北會津郡若松町に生る。青森市浦町高等小學校第四代目の校長に就任、奉職多年市教育に盡...

入り、大正四年同校卒業、同五年二月任海軍主計少尉、爾後累進して主計中佐に昇つた。...

満洲事変・海上事件 青森縣從軍者勲功錄

西師團戰功の歌

奥羽の秋を 後にして 朝寒く 健兒のほまれ
渡満の血汐 紅に 今いかに
初陣を染めし 饒陽河 急つて 無人の旗を

本社特派記者

本西塚多 田塚徳 四哲郎 郎治 合作

緒言

昭和六年九月十八日午後十時三十分を以つて勃發したる滿洲事變及び同七年一月の上海事變も、聖上の御稜威と將兵の忠勇によつて、滿洲全土が鎮定し支那國の請ひにより和を講ずるに及び、東亞の大局は定まつた。殊に我が第八師團は事變直後一月十四日を以て鈴木混成旅團を先發とし、同年四月十三日師團の主力出發し南征北伐大いに其忠勇武勳を輝かした。滿洲の今日あるは第八師團の殊功によるところ極めて多い。本社は去歲第八師團戰功史を發行して師團の功勳を略述し、且つ戰友録を附して本縣出征勇士の姓名を録したことは尙讀者の記憶に新なるところであらう。師團凱旋後上局は戰歴を調査して論功行賞を行つた。本社は茲にこの論功行賞に従ひ郷土の殊勳者二百二十七名について一々其戰功を略記し、其の他の勳功者三千餘名は其の勳記を掲載して永く之を後世に傳へんとするものである。

凡例

一、配列は殊勳者（金鷄勳章）と、勳功者（其他の敘勳者）の二大別とし、これを郡市町村別とした。
一、敘勳の項に「功五級」「旭四等」「瑞七等」とあるは功五級金鷄勳章並に勳四等旭日小綬章、勳七等瑞寶章、又所屬部隊の項に「歩五」「騎八」「野砲八」「輜重八」「工八」「歩三十一」とあるは歩兵第五聯隊、騎兵第八聯隊、野砲兵第八聯隊、輜重兵第八大隊、工兵第八大隊、歩兵三十一聯隊なるも卷帙浩濶に渉るを以て其要略のみを掲ぐ、其他皆此例に倣ふ。
一、此の勳功録に收録した人物は三千有餘名の多數に及んで居るので、其の間經歷其他につき誤記又は脱漏あるやも知れず、又資料蒐集に際しては諸機關を通じて及ぶ限り調査せるも尙記載洩れなきを保し難い。この點御寛恕を請ふ。

殊勳者名簿

青森市

青森市大字鹽町 勳八等功七級
歩五伍長 小笠原 斌
生年月日 明治四十二年二月十日
入營月日 昭和六年十一月十日
渡満月日 昭和六年十一月十日
戰歿月日 昭和八年五月十二日
戰歴 歩兵第五聯隊に入營し、鈴木旅團の嵯峨大隊と共に渡満各地の戰闘並に警備に参加し、鈴木旅團解隊と共に聯隊主力に合し第一機關銃中隊に配屬、熱河作戦に参加し、新開嶺附近の戰闘に於て頭蓋貫通銃創により戰死した。
青森市大字浦町 勳七等功七級
歩五伍長 西 館 壽
昭和八年三月三十日より同四日に至る石門寨附近の戰闘に参加す。
青森市大字浦町 勳八等功七級
歩五上等兵 石戸 谷勇一
生年月日 明治四十二年十一月十四日

殊勳者名簿——青森市

入營月日 昭和六年十一月十日
渡満月日 昭和八年五月十二日
戰歿月日 昭和八年五月十二日
戰歴 現役兵として歩兵第五聯隊に入り嵯峨部隊に従つて渡満各地に轉戦し、新開嶺附近の戰闘に際し、第十中隊第一小隊小銃手として勇戦、五月十一日北支那河北省密雲縣郝家臺地攻撃の際、敵陣地鉄條網前約二十米の地點に於て突撃中、敵弾に中り右胸部肩胛部穿透性貫通銃創に依り戰死した。
青森市大字浦町 勳八等功七級
歩五上等兵 平岡 武司
生年月日 明治四十四年四月七日
入營月日 昭和七年一月十日
渡満月日 昭和七年四月十三日
戰歿月日 昭和七年九月二十九日
戰歴 現役兵として歩兵第五聯隊に入營、谷部隊として渡満各地に轉戦、同年九月二十九日綏中西方の義勇軍撃滅の命令を受け二道嶺に向つて攻撃前進敵を驅逐して歸途陳英溝附近の高地に集める敵を射撃中敵の一弾來り左胸部心臓を貫通し、名譽

の戰死を遂げた、功七級金鷄勳章、勳八等旭日章を賜はる。
青森市大字浦町 勳八等功七級
歩五上等兵 前田 清治
生年月日 明治四十四年十一月二十七日
入營月日 昭和七年一月十日
渡満月日 昭和七年四月十三日
戰歿月日 昭和七年七月廿八日
戰歴 現役兵として歩兵第五聯隊第一中隊（歩兵砲隊）に入營、志願して谷部隊に加はり渡満、龍王厓附近の戰闘及馬占山討伐に参加、各地に轉戦、七月二十七日兩大腿部右上傳に敵の砲彈破片創を受け直ちに錦州第八師團衛生班に收容したが翌二十八日遂に戰死、同日上等兵に進級す、勳功により功七級金鷄勳章、勳八等旭日章を賜はる。
青森市大字新町 勳七等功七級
歩五伍長 具森清三郎
生年月日 明治四十二年三月四日
入營月日 昭和六年十一月十日
渡満月日 昭和六年十一月十日
戰歿月日 昭和七年六月十日
戰歴 現役兵として歩兵第五聯隊機關銃隊に入營、鈴木混成旅團渡満に際し嵯峨少佐指揮下に出征した、七年六月九日興城の戰闘に於て部下分隊を督勵し敵迫撃砲弾を左側腹左大腿右下腿

に受けしも依然剛氣不撓の指揮をつとけ敵の企圖を挫折せしむ、翌十日錦州八師衛生班にて戰死、勳功により伍長に進級、功七級金鷄勳章、勳七等旭日章を賜はる。
青森市大字榮町 勳七等功七級
歩五伍長 安田 徳助
昭和八年五月新開嶺附近の戰闘及び密雲に向ふ追撃戰闘に参加す。
青森市大字長島町 勳八等功七級
歩五伍長 竹 谷 光 雄
昭和八年三月十日より同十九日に至る第三次熱河作戦に際し川原旅團に屬し乘馬小隊員として龍王厓附近に奮戦す。
青森市大字長島町 勳八等功七級
歩五伍長 館 田 健 夫
昭和八年一月二日より同三日に至る山海關戰闘同年五月廿一日より同廿四日に至る懷柔附近の各戰闘に参加重傷を負ふ。
青森市大字安方町 勳七等功七級
騎八伍長 池 野 英 三
五月十日古北口南方地區より敵陣地を攻略して石匣鎮占領迄分隊長として其の功績拔群なるものがあつたが特に斥候として

殊勳者名簿 弘前市

敵中深く進入して敵情を知り之を報告し以て師團の攻撃立案の基礎をなさしめたものである。
青森市大字安方町
歩五伍長 勳七等功七級

生年月日 明治四十二年八月十三日
入營月日 昭和六年一月十日
渡満月日 昭和六年五月十四日
戦歿月日 昭和八年五月十三日
戦歴 現役兵として歩兵第五聯隊に入り、嵯峨大隊と共に渡満各地に轉戦し昭和八年に入りて山海關石門砦及び新開嶺の戦闘に参加、北支那河北省懷柔石廠の戦闘に於て、頭部貫通銃創を受け名譽の戦死を遂げた。
青森市大字安方町九〇
一等水兵 勳七等功七級

を行ひ奮戦中、一彈の来るあり勇壯なる戦死を遂げた。
青森市筒井村
騎八上等兵 勳八等功七級
山田伍長と共に熱河作戦第二次先遣騎兵隊に参加し、古北口進出戦に於て能く分隊長を授け拔群の功をなしたものである。
青森市大字造道字浪打
野砲八伍長 勳七等功七級
柴谷源三郎

生年月日 明治四十二年一月二十五日
入營月日 昭和六年二月十日
渡満月日 昭和七年二月二十日
戦歿月日 昭和七年二月二十七日
戦歴 現役兵として横須賀海兵團に入り軍艦五十餘に部属、上海事件急を告ぐるや、昭和七年二月十日上海に出征し、帝國海軍の精銳たる特別第二陸戦隊に加はり、同月二十九日上海四明公所の戦闘に参加し、頑強なる數倍の敵に向ひ、壯烈なる突撃

りて、聯隊の行動を善導たらしめた。終始聯隊の先遣部隊として特に山海關の戦闘には敵の後方を突いて潰走せしめた。
青森市大字造道字浪打
野砲八伍長 勳七等功七級
久慈甚作

生年月日 明治四十二年三月十一日
入營月日 昭和八年一月廿一日
渡満月日 昭和八年五月廿七日
戦歿月日 昭和八年五月十一日
戦歴 現役兵として歩兵第五聯隊に入營し、第六中隊に部属、

弘前市

生年月日 明治四十二年一月十日
入營月日 昭和六年一月十日
渡満月日 昭和七年四月十三日
戦歿月日 昭和八年一月三日

戦歴 出征以來毎戰第一戦にあり力戰奮闘、一月二日山海關の戦闘に於ては輕機關銃分隊長として参加、同月三日北門附近に何柱國軍と交戦し潰亂中の敵を射撃して戰友を庇ひつゝあつたが敵彈の爲右頭部に砲彈破片創を受け戦死した。軍功により同日附步兵伍長に進級。
弘前市代官町八〇
野砲八少佐 勳四等功五級
廻間雄一

年三月二十九日古谷支隊に編入せられ、羅文谷より行動を起し、承德、平泉を経て數日間數十里に亘り峻峻な山地を踏破し不眠不休強行軍を以て獅子坪附近に到着し支隊の迎支隊救援の目的達成を容易ならしめた。
弘前市東長町
歩三少佐 勳四等功四級
鷺尾正雄

多くの偉功を樹て、昭和八年七月時の武蔵關東軍司令官より感状を授與する。
弘前市大字和徳町
歩五伍長 勳七等功七級
若城武治

八戸市

八戸市湊町
歩五伍長 勳七等功七級
佐々木政美
八戸市大字和徳町
野砲八伍長 勳七等功七級

生年月日 明治四十二年一月十日
入營月日 昭和七年一月十三日
渡満月日 昭和八年一月一日
戦歴 歩兵第五聯隊第七中隊に属し昭和七年十二月三十一日前に衛守備隊として長江河より前進の敵を射撃し之を撃退したが午後九時四十分頃落下炸裂の敵砲の爲め左大腿部砲彈打斷創により本部兵舎内に收容應急手当を受けたが翌年一月一日遂に戦死した。直ちに上等兵に進級。
八戸市大字湊町
歩五上等兵 勳八等功七級
加賀米吉

殊勳者名簿 八戸市

昭和六年十一月十四日鈴木混成旅團と共に出動、昭和九年四月師團の内地歸還と共に凱旋した。此の間山海關南天門羅文谷新開嶺各地の戦闘に参加し武勳赫々たるものがあるが特に昭和八

昭和七年七月飛行第十大隊第一中隊として出征各地に轉戦、殊に熱河、北支の作戦に於ては西部隊所屬となりその勇敢なる操作と確實なる攻撃力に依つて

生年月日 明治四十二年一月十日
入營月日 昭和六年十一月十日
渡満月日 昭和八年四月一日

殊勲者名簿——東津輕郡

戦歴 混成第四旅團砲隊に
屬して渡満、各地に亘り警備、
戦闘に参加、昭和八年四月一日
北支那河北省臨榆縣石門岩附近
戦闘に参加して腹部貫通銃創に
依り戦死した。

八戸市大字湊町
歩五三等看護長
勳八等功七級

生年月日 明治四年十月一日
入營月日 昭和七年一月二十日
渡満月日 昭和八年五月二十三日
戦歴 五月二十三日懷柔附近の
戦闘に参加、石廠附近の戦にて
機關銃隊に死傷續出し、之を見
るに忍びず自ら溝江上等兵の許
に到り敵弾より庇ふが如く位置
し泰然として足部に應急手當を
實施中頭部に貫通銃創を受け溝
江上等兵の體に掩ひ被さる如く
倒れ遂に戦死した。

八戸市大字中居林
歩五伍長 勳七等功七級
關野勇太郎
昭和八年五月七日より同二十
日に至る新開嶺附近の戦闘並に
密雲に向ふ追撃戦闘に参加す。

八戸市大字朔日町
歩五伍長 勳八等功七級
新田信一郎
昭和八年五月十日より同五月

十四日に至る新開嶺附近の戦闘
に参加す。

八戸市大字上組町
歩五伍長 勳七等功七級
苦米地長吉

昭和八年五月新開嶺附近の戦
闘並に密雲に向ふ追撃戦闘に参
加、奮戦中敵弾の爲め重傷を負
ふ。

八戸市大字鉸町字石株
騎八上等兵 勳八等
中村幸一
明治四年十二月二十三日
生年月日 昭和七年一月二十日
入營月日 昭和八年五月二十三日
渡満月日 昭和八年五月二十三日
戦歴 騎兵第八聯隊に入營し渡
満後は連山の警備に當り、十八
日の戦闘に於て連山北兵舎に於
て歩哨立哨中、左前頭部敵手榴
弾に依り負傷戦死し、同時に上
等兵に進級し、後勳八等白色
桐葉章を賜る。

東郡小湊町大字東田澤
歩五伍長 勳七等功七級
福田常作
昭和八年五月七日より同二十
日に至る新開嶺附近の戦闘並に
密雲に向ふ追撃戦闘に参加す。

東郡蟹田村大字大平字山元
騎八軍曹 勳七等功七級
小倉篤之三
十二月内地に歸還したが其の間
全滿各地に足跡を印せざる處な
く、到る處に於て拔群の勳功を樹
てたが殊に三月十日龍王裕口附
近の攻撃に於ては分隊長として
小隊長を補佐し敵前至近距離に
於て能く分隊を指揮し敵弾頻々
と飛來せるも之を意とせず自ら
に進んで敵情を偵察し更に敵望樓
に突入の際には先頭に立つて突入
し手榴弾の破片を身に受けたる
も之を意とせず遂に之を占領し
小隊をして長城一番乗りの功を
奏せしめたものである。

東郡蟹田村大字石濱
歩五伍長 勳七等功七級
五十嵐春夫
昭和八年五月七日輕機關銃分
隊長として新開嶺附近の戦闘及
び密雲に向ふ追撃戦闘に参加す。

東郡蟹田村大字蟹田
歩五上等兵 勳八等功七級
沼田兼作

殊勲者名簿——東津輕郡

歩五伍長 勳七等功七級
木村兼次郎
昭和八年五月七日より同二十
日に至る新開嶺附近の戦闘及び
密雲に向ふ追撃戦闘に参加す。

東郡荒川村大字荒川
歩五特務曹長
勳六等功七級
川村美平
昭和八年三月二十九日より同
四月四日に至る沙河寨及び石門
岩附近の警備同年五月七日より
同二十日に至る新開嶺附近の戦
闘、同年五月二十一日より同二
十四日に至る懷柔附近の戦闘に
参加す。

東郡荒川村大字荒川
歩五上等兵 勳八等功七級
白鳥文雄
昭和八年一月二日より同三日
に至る山海關の戦闘及び同年五
月八日より同二十二日に至る新
開嶺附近の各戦闘に参加す。

東郡荒川村大字上野
歩五上等兵 勳八等功七級
神作次郎
昭和八年五月七日より同二十
日に至る新開嶺附近の戦闘及び
密雲に向ふ追撃戦闘に参加す。

東郡新城村大字石井
航空兵曹長 勳七等功七級
佐藤仁平
東郡新城村大字戸門

歩五上等兵 勳八等功七級
佐藤福三郎
昭和八年五月七日より同月二
十日に至る新開嶺附近の戦闘及
び密雲に向ふ追撃戦闘に擲弾筒
手として参加す。

東郡新城村大字鶴ヶ坂
歩五上等兵 勳八等功七級
今井勇次郎
明治四年二月二十日
生年月日 昭和八年一月二十日
入營月日 昭和八年五月二十三日
渡満月日 昭和八年五月二十三日
戦歴 熱河作戦に當り輕機關銃
手として各地に轉戦偉功を樹て
五月十一日新開嶺附近敵陣地攻
撃に當りては彈丸雨飛の下に克
く敵を猛射し、翌十二日白河澗
北方の高地の戦闘に於て敵軍を
貫して該高地を占領尙攻撃中右
方高地より飛び來りし一彈右側
胸部より左胸部に貫通し壯烈な
戦死を遂げた。

東郡奥内村大字深内
歩五伍長 勳八等功七級
佐々木武雄
昭和八年二月二十三日より同
月二十八日に至る朝陽附近の戦
闘に乗馬傳令として参加す。

東郡後湯村大字小橋
歩五上等兵 勳八等功七級
三上富士夫
大正三年一月二十六日

殊勲者名簿——東津輕郡

歩五上等兵 勳八等功七級
加藤正男
大正六年一月四日
生年月日 昭和六年一月十日
入營月日 昭和八年五月二十三日
渡満月日 昭和八年五月二十三日
戦歴 渡満後歩兵第五大隊第一
中隊に編入せられ直ちに山海關
角山寺等の警備に當り八年三月
二十九日以來石門岩附近の戦
闘に参加し四月二十五日より熱河
作戦に参加し更に五月二十三日
河北省懷柔附近の戦闘に於て右
側腹部貫通銃創を受けて戦死し
た。

東郡原別村
歩五伍長 勳七等功七級
三土幸男
昭和八年五月二十一日より同
二十四日に至る懷柔附近の戦闘
に参加す。

東郡原別村
歩五上等兵 勳八等功七級
澤田桂雄

殊勳者名簿——西津輕郡

生年月日 明治五年六月二十三日 入營月日 昭和八年一月二十日 渡満月日 昭和八年五月十八日 戦歿月日 昭和八年五月十八日 戦歴 歩兵第五聯隊第五中隊に...

騎八伍長 勳八等功七級 鈴木混成旅團と共に山出動、木村伍長と共に各地の戦闘に於て...

西津輕郡 西郡赤石村 寺澤勝光 熱河作戦第三次川原旅團に屬し...

隊第六中隊に入營、渡満後中鎮隊に服す、熱河作戦警備に參劃...

を執行せらるゝに當り、第一線に加はり敵彈雨注の中能く部下を激勵射撃を續行中、敵の一弾は其の頭部を貫通し北支那密雲縣八里梁に戦死した。即日軍曹に任ぜらる。

西郡越水村大字越水 西郡曹長 勳七等功七級 昭和八年一月二日より同三月二十九日より同四月二日に至る...

進し以て行動を秘匿し或は通行困難なる岩石突下たる急斜面を登攀する等實に苦戦の限を嘗め...

西郡清水村大字富田土原 歩兵伍長 勳七等功七級 昭和七年十一月十八日より同二十一日に至る法庫平附近の討伐に乘馬隊として參加す。

殊勳者名簿——中津輕郡

七年四月界嶺口附近の戦闘に於ては惡戦苦闘或る時は匍匐前進...

西郡館岡村大字館岡 西郡出精村大字永田 勳六等功六級 對馬倉右衛門...

中津輕郡 中郡清水村大字富田土原 歩兵伍長 勳七等功七級...

(不明)

北郡小阿彌村大字五幾形 歩五伍長 勳七等功七級 長内謙次郎 昭和七年十一月二十日各得窩保の戦闘に参加及び同八年三月一日より同九日に至る第二次熱河作戦に参加す。

北郡梅澤村大字梅田 歩五伍長 勳七等功七級 齋藤元六 昭和八年五月七日より同二十日に至る新開嶺附近の戦闘及び密雲に向ふ追撃戦闘に参加す。

北郡三好村 騎八伍長 勳七等功七級 木村鐵三郎 昭和六年十一月鈴木混成旅團と共に北支密雲縣家臺地攻撃の目的を以て徹夜攻撃準備に當り、攻撃開始後突撃準備射撃實施中敵弾を受け兩側頸部貫通銃創により八里梁に於て戦死、同日歩兵上等兵に進級す。

北郡長橋村大字松野木 歩五伍長 勳七等功七級 高橋直一 昭和八年五月二十一日より同二十四日に至る懷柔附近の戦闘に参加す。

北郡六郷村大字胡桃館 歩五伍長 勳七等功七級 佐藤順次郎 昭和八年五月七日より同二十日に至る新開嶺附近の戦闘及び密雲に向ふ追撃戦闘に参加す。

北郡三好村 騎八伍長 勳八等功七級 川浪眞吉 八年三月十一日午前九時敵が長城の望樓奪回を企圖せる際、力戦苦闘自ら右胸部の擦過銃創を受くるも屈せず戦闘を繼續し遂に、敵に多大の損害を與へ、其の企圖を挫折せしめた。

北郡長橋村大字松野木 歩五伍長 勳七等功七級 成田竹四郎 昭和八年五月二十二日より同二十四日に至る懷柔附近の戦闘に参加す。

北郡喜良市村 歩五伍長 勳七等功七級 大橋喜代太郎 昭和八年五月二十二日より同二十四日に至る懷柔附近の戦闘に参加す。

北郡喜良市村 歩五伍長 勳八等功七級 今兵八 昭和八年三月十日より同月十二日に至る龍王裕口附近の戦闘及び同年五月の新開嶺附近の戦闘並密雲に向ふ追撃戦闘に参加す。

北郡武田村大字豊岡 歩五上等兵 勳八等功七級 米塚兵之丞 昭和七年四月十三日入營日 昭和七年四月十七日渡満日 昭和七年四月三十日戦死日 志願兵として歩兵第五聯隊第二中隊に入營、渡満後後中隊の背蔭嶺四方臺附近、六股河河谷の匪賊討伐、飲馬河馬蹄溝附近陳英溝附近等の戦闘に参加して勇戦し同年一月三日山海關戦闘に参加、何柱國軍と戦闘中敵弾の爲め下腹部貫銃創をうけ戦死した。

北郡野邊地町 騎八伍長 勳七等功七級 野田頭市三郎 昭和八年六月五日西川中尉の命を受けて明日の戦闘準備の爲め、サイドカーで道路偵察に出で、舊敵陣地を通行中埋没せる地雷の爲め悲壯なる最期を遂げたが最後迄ハンドルの手を握つて居た。

北郡野邊地町 騎八伍長 勳七等功七級 濱中精一郎 八年三月十日龍王裕口附近萬里の長城の攻撃に於て輕機關銃分隊長として能く其の部下を指揮し敵の猛火の中にあつて之を意とせず長城の占領に努め又望樓占領後敵は逆襲に轉じ前進し來れるも沈着にして敵に徹底的な損害を與へ小隊の突撃を容易ならしめたものである。

北郡武田村大字豊岡字若松九 八ノ内五 勳七等功七級 石川長之助 明治四十二年一月十日入營日 昭和五年六月一日渡満日 昭和七年三月二十六日戦死日 獨立守備歩兵第五大隊第一中隊に入營、昭和五年十二月一日歩兵一等卒同六年六月一日歩兵上等兵同年十二月一日奉天附近の戦闘に参加後各地に轉戦し、昭和七年三月二十四日東京城の戦闘に参加して負傷(頭部貫通銃創)し同地に於て治療中同月二十六日戦死した、勳七等功七級授與、

北郡野邊地町 騎八伍長 勳八等功七級 新岡久彌 大正二年九月二十八日入營日 昭和七年四月十八日渡満日 昭和七年十月十二日戦死日 現役志願兵として騎兵第八聯隊第一中隊入隊七年四月六日八聯隊編成命下騎兵第八聯隊第二中隊に編入して渡満、黒龍江省海拉爾の戦闘に参加、又七年十月八日朝陽鎮に至り東邊道の戦闘に参加十一日海龍中陽堡の戦闘に於て右下腹部より左腹部の貫通銃創に依り戦死、後勳八

北郡野邊地町 騎八伍長 勳七等功七級 角鹿精一 昭和八年四月五日より六月三十日に至る迄第八師團綾源兵站

北郡野邊地町 騎八伍長 勳七等功七級 中濱梅吉 明治四年六月十六日入營日 昭和六年二月十四日渡満日 昭和八年六月二日戦死日 現役兵として歩兵第五聯隊第三中隊に入營、鈴木混成旅團第六中隊要員として青森出發、奉天及新民及び綏中警備に服し、興城附近陣營溝附近戦闘に参加、八年一月山海關守備に服務し其後第九裝甲列車、列車

北郡野邊地町 騎八伍長 勳七等功七級 濱中精一郎 八年三月十日龍王裕口附近萬里の長城の攻撃に於て輕機關銃分隊長として能く其の部下を指揮し敵の猛火の中にあつて之を意とせず長城の占領に努め又望樓占領後敵は逆襲に轉じ前進し來れるも沈着にして敵に徹底的な損害を與へ小隊の突撃を容易ならしめたものである。

北郡野邊地町 騎八伍長 勳七等功七級 角鹿精一 昭和八年四月五日より六月三十日に至る迄第八師團綾源兵站

北郡野邊地町 騎八伍長 勳七等功七級 中濱梅吉 明治四年六月十六日入營日 昭和六年二月十四日渡満日 昭和八年六月二日戦死日 現役兵として歩兵第五聯隊第三中隊に入營、鈴木混成旅團第六中隊要員として青森出發、奉天及新民及び綏中警備に服し、興城附近陣營溝附近戦闘に参加、八年一月山海關守備に服務し其後第九裝甲列車、列車

北郡野邊地町 騎八伍長 勳七等功七級 濱中精一郎 八年三月十日龍王裕口附近萬里の長城の攻撃に於て輕機關銃分隊長として能く其の部下を指揮し敵の猛火の中にあつて之を意とせず長城の占領に努め又望樓占領後敵は逆襲に轉じ前進し來れるも沈着にして敵に徹底的な損害を與へ小隊の突撃を容易ならしめたものである。

殊勳者名簿——上北郡

重砲隊に勤務、新開嶺雲に轉戦し同二十三日懷柔附近の戦闘に左側頸部右肩胛下部穿透性貫通銃創に依り重傷後死亡す。上北郡三本木町大字切田 獨立守備隊上等兵 勳八等功七級 氣田豊信

頻せるを以て之を直ちに報告し、且つ友軍と通報の宜しきを得た爲め遂に我が右側背及軍旗を完全ならしめた。上北郡三本木町 騎八伍長 勳七等功七級 中川原正吉

昭和七年十月二十四日より同二十七日に至る札木林子附近の戦闘に参加、同八年三月廿九日より同四月四日に至る石門岩附近の戦闘に参加す。上北郡三本木町大字赤沼 歩五上等兵 勳八等功七級 上坂三太郎

軍艦高雄一等水兵 勳八等功七級 塚尾由太郎 上北郡百石町大字一川目 歩五伍長 勳七等功七級 奥寺忠一

戦闘に参加す。

上北郡浦野館村 騎八伍長 勳七等功七級 町屋誠 熱河作戦第三次川原旅團に屬し輕機銃手として参加、長城の望樓確保に當り、敵の猛射を浴びつゝ遺憾なく我が輕機銃の全力を發揚し一晝夜、一粒の食、一滴の水をも取らず能く勇奮力闘を續け其の任務を全うせり。上北郡浦野館村大字大浦字大浦三〇 騎八上等兵 勳八等功七級 田島金藏

昭和七年十月二十四日より同二十七日に至る札木林子附近の戦闘に参加、同八年三月廿九日より同四月四日に至る石門岩附近の戦闘に参加す。上北郡三本木町大字赤沼 歩五上等兵 勳八等功七級 上坂三太郎

昭和七年十月二十四日より同二十七日に至る札木林子附近の戦闘に参加、同八年三月廿九日より同四月四日に至る石門岩附近の戦闘に参加す。上北郡三本木町大字赤沼 歩五上等兵 勳八等功七級 上坂三太郎

昭和八年三月二十九日より同四月四日に至る沙河寨及石門岩附近の戦闘、同年五月七日より同五月二十日に至る新開嶺附近の戦闘、同年五月二十一日より同二十四日に至る懷柔附近の戦闘に参加す。上北郡下田村 歩五伍長 勳七等功七級 森三郎

殊勳者名簿——上北郡

上北郡三本木町大字赤沼 獨立守備隊上等兵 勳七等功七級 杉山操

昭和八年五月七日より同五月二十日に至る新開嶺附近の戦闘及び密雲に向ふ追撃戦闘に参加す。上北郡下田村 歩五伍長 勳七等功七級 森三郎

昭和八年五月七日より同五月二十日に至る新開嶺附近の戦闘及び密雲に向ふ追撃戦闘に参加す。上北郡下田村 歩五伍長 勳七等功七級 森三郎

昭和八年五月七日より同五月二十日に至る新開嶺附近の戦闘及び密雲に向ふ追撃戦闘に参加す。上北郡下田村 歩五伍長 勳七等功七級 森三郎

殊勳者名簿 下北郡

上北郡六ヶ所村大字平沼 歩五上等兵 旭八等功七級 橋本岩松

昭和七年十一月十八日より同 二十七日に至る法庫康平附近の 討伐に乘馬小隊員として参加、 同八年三月十日より十九日 龍王裕口附近の戦闘に同じく乗 馬小隊員として参加す。

生年月日 明治四十四年二月五日 入營月日 昭和七年四月十日 渡満月日 昭和七年四月十三日 戦歿月日 昭和七年七月二十六日

下北郡

射撃中胸部に貫通銃創を負ひ 乍らも部下を督勵しつゝ遂に名 譽の戦死を遂げた。

各地に轉戦、五月二十三日懷柔 附近の戦闘に於て敵機銃の側 射をうけ、腹部に貫通銃創をう け戦死した。

昭和八年五月六日より同月十 九日に至る新開嶺附近の戦闘並 に密雲に向ふ追撃戦闘に参加す。

昭和八年五月六日より同月十 九日に至る新開嶺附近の戦闘並 に密雲に向ふ追撃戦闘に参加す。

昭和八年五月六日より同月十 九日に至る新開嶺附近の戦闘並 に密雲に向ふ追撃戦闘に参加す。

昭和八年五月六日より同月十 九日に至る新開嶺附近の戦闘並 に密雲に向ふ追撃戦闘に参加す。

六四六

昭和八年五月六日より同月十 九日に至る新開嶺附近の戦闘並 に密雲に向ふ追撃戦闘に参加す。

昭和八年五月六日より同月十 九日に至る新開嶺附近の戦闘並 に密雲に向ふ追撃戦闘に参加す。

昭和八年五月六日より同月十 九日に至る新開嶺附近の戦闘並 に密雲に向ふ追撃戦闘に参加す。

昭和八年五月六日より同月十 九日に至る新開嶺附近の戦闘並 に密雲に向ふ追撃戦闘に参加す。

昭和八年五月六日より同月十 九日に至る新開嶺附近の戦闘並 に密雲に向ふ追撃戦闘に参加す。

昭和八年五月六日より同月十 九日に至る新開嶺附近の戦闘並 に密雲に向ふ追撃戦闘に参加す。

昭和八年五月六日より同月十 九日に至る新開嶺附近の戦闘並 に密雲に向ふ追撃戦闘に参加す。

三戸郡

三戸郡三戸町大字梅内 歩五特務曹長 勳七等功七級 西村芳三郎

昭和八年一月二日より同月三 日に至る山海關の戦闘、同年三月 三十日より同月二日に至る石 門岩附近の戦闘、同年五月七日 より同月二十日に至る新開嶺附近 の各戦闘に参加す。

昭和八年五月八日より同月二十 日に至る新開嶺附近の戦闘及び 密雲に向ふ追撃戦闘に参加す。

三戸郡

色桐葉嶺を賜る。 三戸郡五戸町大字新町 歩五軍曹 勳七等功七級 石渡幸三郎

昭和八年一月二日より同月三 日に至る山海關の戦闘に山砲隊小 員として参加同年五月九日より 同月十四日に至る新開嶺附近の戦 闘及び同年五月二十三日懷柔附 近の戦闘等に参加す。

昭和八年一月二日より同月三 日に至る山海關の戦闘同年五月七 日より同月二十日に至る新開嶺附 近の戦闘並に密雲に向ふ追撃戦 闘等に本部書記或は傳令となり 参加す。

三戸郡館村 勳七等功七級 熱河作戦第二次先遣騎兵隊と

六四七

三戸郡上長苗代村大字尻内 歩五伍長 勳八等功七級 小笠原源太郎

昭和八年五月七日より同月十 九日に至る新開嶺附近の戦闘並 に密雲に向ふ追撃戦闘に参加す。

昭和八年五月七日より同月十 九日に至る新開嶺附近の戦闘並 に密雲に向ふ追撃戦闘に参加す。

昭和八年五月七日より同月十 九日に至る新開嶺附近の戦闘並 に密雲に向ふ追撃戦闘に参加す。

昭和八年五月七日より同月十 九日に至る新開嶺附近の戦闘並 に密雲に向ふ追撃戦闘に参加す。

昭和八年五月七日より同月十 九日に至る新開嶺附近の戦闘並 に密雲に向ふ追撃戦闘に参加す。

昭和八年五月七日より同月十 九日に至る新開嶺附近の戦闘並 に密雲に向ふ追撃戦闘に参加す。

殊勳者名簿——三戸郡

生年月日 明治四年四月二十三日 入營月日 昭和七年一月十日 渡満月日 昭和七年四月十三日 戦歴 歩兵第五聯隊機銃隊に...

勳功者名簿

青森市

入營月日 昭和六年一月十日 渡満月日 昭和七年四月十三日 戦歴 現役兵として歩兵第五聯隊第二中隊に入營...

勳功者名簿——東津輕郡

Table of names and ranks for the right page, including entries like 旭八等, 野砲八, 中居林, 石清水, 柳澤孫太郎, etc.

東津輕郡

勳功者名簿——東津輕郡

Table of names and ranks for the left page, including entries like 旭八等, 飛十一, 航空兵, 荒川, 柳澤孫太郎, etc.

勳功者名簿——東津輕郡

Table of names and ranks for the left page. Includes names like 旭八等, 瑞八等, 野砲八, and ranks such as 一等兵, 上等兵. Locations mentioned include 阿彌陀川, 中澤, 航空兵, etc.

勳功者名簿——東津輕郡

Table of names and ranks for the right page. Includes names like 旭八等, 瑞八等, 新賀兵, and ranks such as 二等機關兵曹, 一等兵. Locations mentioned include 橫須賀海兵, 鶴ヶ坂, etc.

勳功者名簿——西津輕郡

Table of names and ranks for the right page, including entries like 飛十、新地、松井、葛西, with ranks such as 一等兵, 上等兵, 一等曹長, etc.

航空兵一等兵 六六二

Table of names and ranks for the left page, including entries like 瑞八、大戸、岩崎、大間越, with ranks such as 一等兵, 上等兵, 一等曹長, etc.

勳功者名簿——西津輕郡

三等機關兵曹 六六三

勳功者名簿——中津輕郡

Table of names and ranks for the Chu-Tsuru District. Columns include rank (e.g., 勳章, 瑞八等), name (e.g., 大村, 小澤), and position (e.g., 水部隊, 砲兵). Includes a central box for '中津輕郡'.

勳功者名簿——西津輕郡

Table of names and ranks for the Sai-Tsuru District. Columns include rank (e.g., 瑞八等, 瑞七等), name (e.g., 吉田, 下繁), and position (e.g., 歩五, 砲八). Includes a central box for '西津輕郡'.

勳功者名簿——中津輕郡

Table of names and ranks for the right page, including entries like 瑞八等, 特務艦大泊, 藤代, 一等海軍主計, 田村千代司, etc.

Table of names and ranks for the left page, including entries like 旭八等, 獨立守備隊, 野砲八, 南津輕郡, 石部隊, etc.

勳功者名簿——南津輕郡

勳功者名簿——南津輕郡

Table listing names, ranks, and affiliations for the right page. Includes names like 野砲八, 石川, 八幡館, 居土, 岸本, 山崎, 藤田, etc.

Table listing names, ranks, and affiliations for the left page. Includes names like 旭八等, 瑞八等, 同, 騎八, 步八, 獨守備隊, etc.

勳功者名簿——南津輕郡

勳功者名簿——南津輕郡

Table of names and ranks for the right page, including names like 藤田武雄, 田村隆一, 古村次郎, etc., with ranks such as 上等兵, 一等兵, etc.

勳功者名簿——南津輕郡

Table of names and ranks for the left page, including names like 飯田金吾, 山崎西八, 葛野初治, etc., with ranks such as 上等兵, 一等兵, etc.

旭八等 瑞八等 旭八等 瑞八等 旭八等 瑞七等 旭八等 瑞八等 旭八等 瑞八等 旭八等 瑞八等 旭八等 瑞八等 旭八等 瑞八等 旭八等 瑞八等 旭八等 瑞八等 旭八等 瑞八等

騎八 獨立守備隊 驅逐艦神風 橫須賀海兵團 大湊海軍航空隊 海軍 飛十 七五 野邊地 馬門 野邊地

野邊地 野邊地

上等兵 上等兵 上等兵 上等兵 上等兵 上等兵 上等兵 上等兵 上等兵 上等兵 上等兵 上等兵 上等兵 上等兵 上等兵 上等兵 上等兵 上等兵 上等兵 上等兵

上原 杉山 北村 橫濱 北村 前田 荒濱 荒濱 荒濱 荒濱 荒濱 荒濱 荒濱 荒濱 荒濱 荒濱 荒濱 荒濱 荒濱 荒濱 荒濱

旭八等 瑞八等 旭八等 瑞八等 旭八等 瑞八等 旭八等 瑞八等 旭八等 瑞八等 旭八等 瑞八等 旭八等 瑞八等 旭八等 瑞八等 旭八等 瑞八等 旭八等 瑞八等

騎八 騎八 騎八 騎八 騎八 騎八 騎八 騎八 騎八 騎八 騎八 騎八 騎八 騎八 騎八 騎八 騎八 騎八 騎八 騎八

七戸 後川町 七戸 後川町 七戸 後川町 七戸 後川町 七戸 後川町 七戸 後川町 七戸 後川町 七戸 後川町 七戸 後川町 七戸 後川町

一等兵 二等兵 三等兵 一等兵 二等兵 三等兵 一等兵 二等兵 三等兵 一等兵 二等兵 三等兵 一等兵 二等兵 三等兵 一等兵 二等兵 三等兵 一等兵 二等兵

仁田 澤川 中居 荒川 大池 米田 天間 坂倉 田村 小原 櫻田 若津 福島 沼田 高田 奧山 關口 名久 坂井 米田 沼田 二川 小笠 岩崎 川口 相宮 野田 岩田 岩崎 岩崎 岩崎 岩崎

勳功者名簿——上北郡

旭八等 瑞八等 旭八等 瑞八等 旭八等 瑞八等 旭八等 瑞八等 旭八等 瑞八等 旭八等 瑞八等 旭八等 瑞八等 旭八等 瑞八等 旭八等 瑞八等 旭八等 瑞八等

騎八 海軍在郷兵 相五 騎八 獨立守備隊 野砲八 獨立守備隊 小泊 野砲八 野砲八 野砲八 野砲八 野砲八 野砲八 野砲八 野砲八 野砲八 野砲八 野砲八 野砲八 野砲八 野砲八 野砲八

高根 太田 磯元 磯松 磯松 磯松 磯松 磯松 磯松 磯松 磯松 磯松 磯松 磯松 磯松 磯松 磯松 磯松 磯松 磯松

上等兵 上等兵 上等兵 上等兵 上等兵 上等兵 上等兵 上等兵 上等兵 上等兵 上等兵 上等兵 上等兵 上等兵 上等兵 上等兵 上等兵 上等兵 上等兵 上等兵

佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木

旭八等 瑞八等 旭八等 瑞八等 旭八等 瑞八等 旭八等 瑞八等 旭八等 瑞八等 旭八等 瑞八等 旭八等 瑞八等 旭八等 瑞八等 旭八等 瑞八等 旭八等 瑞八等

野邊地 野邊地 野邊地 野邊地 野邊地 野邊地 野邊地 野邊地 野邊地 野邊地 野邊地 野邊地 野邊地 野邊地 野邊地 野邊地 野邊地 野邊地 野邊地 野邊地

野邊地 野邊地 野邊地 野邊地 野邊地 野邊地 野邊地 野邊地 野邊地 野邊地 野邊地 野邊地 野邊地 野邊地 野邊地 野邊地 野邊地 野邊地 野邊地 野邊地

階級 階級 階級 階級 階級 階級 階級 階級 階級 階級 階級 階級 階級 階級 階級 階級 階級 階級 階級 階級

八木 八木 八木 八木 八木 八木 八木 八木 八木 八木 八木 八木 八木 八木 八木 八木 八木 八木 八木 八木

勳功者名簿——上北郡

上北郡

勳功者名簿——三戸郡

Table of names and ranks for the right page, including names like 瑞八等, 旭八等, 海軍在郷兵, 北川, 河原木, 坂本, 繁太, 郎, etc.

勳功者名簿——三戸郡

Table of names and ranks for the left page, including names like 瑞八等, 旭八等, 旭七等, 旭八等, 瑞八等, 旭八等, 旭七等, etc.

勳功者名簿——三戸郡

Table of names and ranks for the left page, including categories like 旭八等, 瑞八等, 市川, 軍艦神威, and various ranks such as 一等水兵, 上等兵, etc.

Table of names and ranks for the right page, including categories like 旭八等, 瑞八等, 市川, 軍艦神威, and various ranks such as 一等水兵, 上等兵, etc.

勳功者名簿——三戸郡

中山胃腸藥

漢方散藥 中山忠直先生創製

本藥は漢方醫學の權威者中山忠直先生が其の診療所に於て患者に與へて居る藥で普通の賣藥とは全く異つたものです。醫者が見離した難病がどしどし治り、醫者自ら服用して偉効に舌を巻き、軍艦の醫局でも採用されてゐます。

胃腸の難病で苦しむ種々の藥や病院や博士の醫藥に絶望し切つてゐる御方も「最後の試み」として、是非とも此藥を騙されたつもりで飲んで見て下さい、必らずや偉効に驚かれ、世には隠れた名藥もある哉と感謝されませう。

主治効能
 胃潰瘍◇腸潰瘍◇胃痛◇急性及慢性胃腸カタル◇胃酸過多症◇胃擴張◇胃腸下垂症◇消化不良◇胃腸醱酵症◇溜飲◇或は飲過ぎ食過の場合

醫者が命が四五日持たぬと宣告した胃潰瘍や胃癌の如き難病が無數に治り南前選信大臣はじめ澤山の名士が心から讚美して居られます。

(試藥及説明書進呈)

二錢切手封入本舖へ御申越の方に限り試藥及説明書進呈す
 定一ヶ月分 三圓五十錢、半月分 二圓、五日分 一圓
 送料内地十錢 其他四十二錢

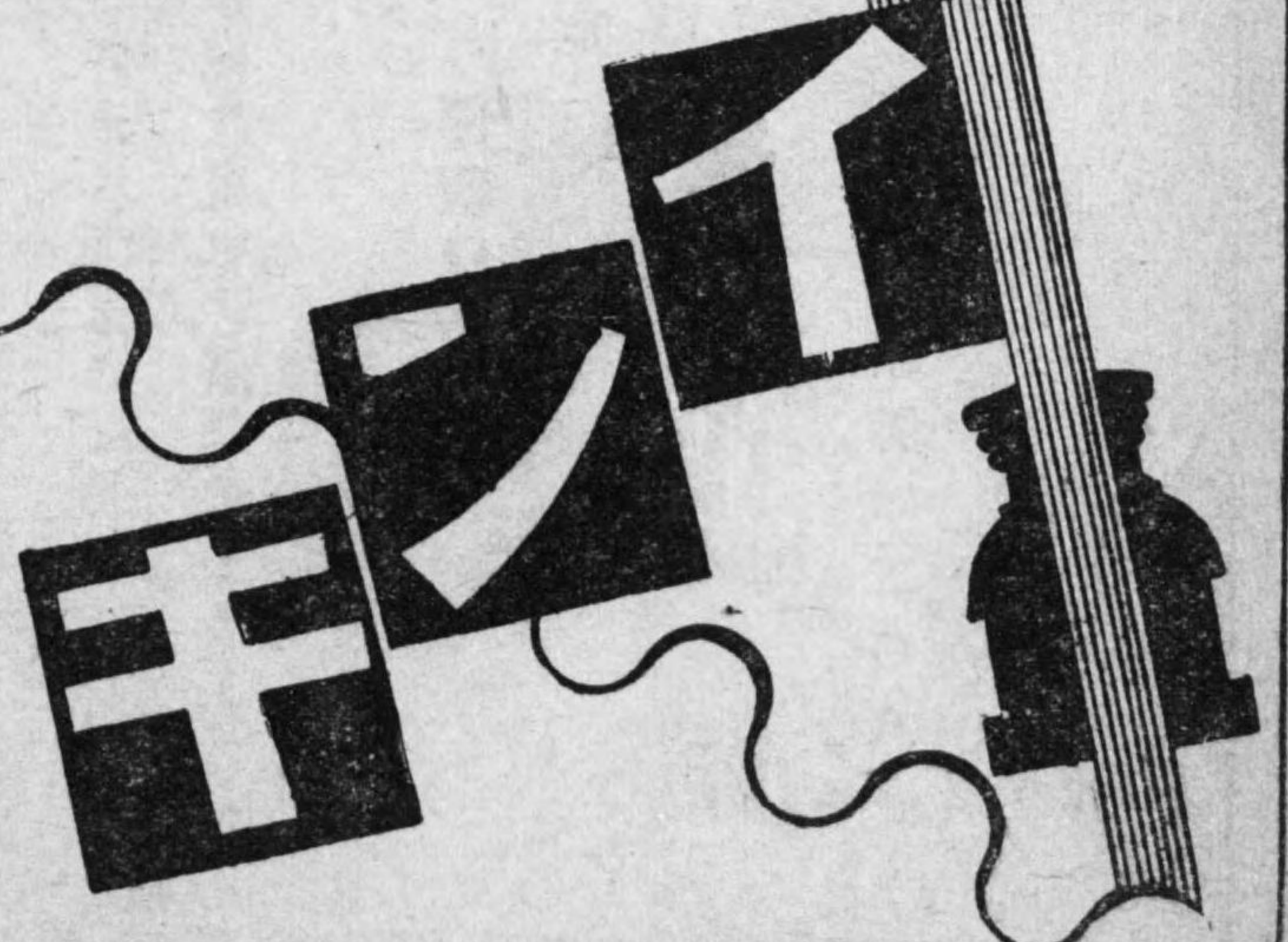
東京市牛込區若松町 中山研究所
 電話牛込(34)五〇番
 振替東京二四三三八番
 醫學漢 弘前市 森町十三
 中山研究所弘前支部
 青森市 岩井武太郎
 青森市 石館喜久造藥房
 青森市 浦野脇二十五商會

ライト

萬年筆は數々
 あれぞ
 インキは唯一つ
 ……ライト!!

大塚小塚各種
 全國の文具店にあり

2オンス入
 30セン



チャムピオンインキ本舖
 藤崎インキ製造株式会社
 本社 東京本所練町



時 計 指 戴 時 表
 計 理 戴 時 表
 計 理 戴 時 表
 計 理 戴 時 表

東 京 銀 座

大 勝 堂

電 話 銀 座 二 〇 八 〇 二
 掛 號 口 東 京 七 八 〇 〇

國 產 レ コ ー ド の 白 眉

ニ ッ ト ー ・ レ コ ー ド



日 東 蓄 音 器 株 式 會 社



日 本 ク リ ス タ ル 蓄 音 器 會 社

ク リ ス タ ル ・ レ コ ー ド

歐 洲 レ コ ー ド の 精 華



世界の動きは『聯合』から全日本へ

◇新聞聯合は全國新聞の共同組合



略稱『聯合』**新聞聯合社**

◇新聞聯合は内外廣告の代理機關

日本の聲は『聯合』から全世界へ

本社 東京市橋區銀座西丁八丁目九番
 電話代表番號銀座(57)二一
 大阪支社 大阪府中之島二丁目江商ルビ
 電話代表番號本局九七五番
 青森支局 青森市米町三丁目三十四番
 電話一三五七〇番

支局所在地
 横濱 上野 北平 天津 奉天 新奉天 哈爾濱 漢口 南京 青島 濟南 廣濟 香港 倫敦 巴里 伯爾尼 紐約 桑坡 晚香 芝罘 汕頭 福州 桐生 足利 前橋 岡谷 高松 濱松 豐城 京都 神戶 廣島 岡山 下關 門司 福岡 長崎 新長崎 仙臺 函館 富山 金澤 福井 井澤 生利 橋本 山谷 松山 松橋 連城 京大

徽 章 賞 牌
 メ ダル マ ー ク
 新 型 楯 優 勝 カ ッ プ
 金 銀 盃 洋 盃
 時 計 鎖 指 輪
 校 旗 團 旗
 ネ ー ム プ レ ー ト



福島徽章製作所地方卸部

東京帝國大學
 早稲田大學
 慶應大學
 陸軍省海軍省
 御用
 時計貴金屬一般

東京市淺草區小島町貳丁目壹番地
 電話淺草(84)二四七一・二七二七・六五八五番
 振替口座東京八四二八〇番
 電信略號(フク)
 取引銀行 任友・昭和・川崎第百銀行

◎特約募集(但一市一郡の事)



東京の御宿は

東京の中央にて交通便利・極静
 而も室内及び衛生設備現代式
 是非御後援の程御願ひ申上ます

御茶代拜辭

本郷區御茶ノ水順天堂隣

旅館 菊水館

太田兼太郎

電話小石川三八六八番
 青森縣出身丸善經營

肩腰のコリを和らげ

痛み疲れを癒します

主治 効能
 肩腰のコリ、リウマチス、うちみ、神経痛
 過勞の痛、乳のコリ、胸咽喉の痛

定價
 二十錢 三十錢
 五十錢 一圓



全國到る處の
 薬店に有ます

網輝邊渡
 一廿町霞區布麻市京東

實効散

感胃熱特効藥

感胃の熱が長引けば
 餘病を起す心配があ
 ります、初期に治す
 が安全です、感胃た
 と思つたら實効散を

定價
 二十錢 三十錢
 五十錢 一圓
 全國有名
 薬店にあり



下神田神京東
 堂然天岡前 鋪本 製二一
 街二七三一京東管振



断然個性美!!

浮ついた明るさや軽薄なエロテイシズムは
 聴取で理智的で清潔な
 過去のものです、今年夏の流行の醫藥です
 スマイル美が今年夏の流行の醫藥です

二五錢 四五錢 一圓
 自動點眼式の
 スマートな容器
 薬店デパートにあり
 東一 京一
 置王 合名 社

薬眼いん新○だん進歩一
ルイマエ

S-7

外 用 常 備 薬



皮膚の

衛生時



効主

田虫、いんきん、水虫、
 しつ、ひぜん、しらくも
 はたけ、吹でもの、た
 れ、糸かせ、濕疹、頭癩
 切傷、火傷、胎毒

恐るべき皮膚病には既に定評
 ある一二三をお備へ下さい。

定價
 二十錢、三十錢
 五十錢、一圓

堂然天岡師舖本散効實
 番二七三一京東替振
 下神明田神京東

髪
 の艶は!

あらが染

君の代で

見ちがへる

全國薬店にあり

あらが君の代
赤毛漆

舖本
 前藏草淺京東
 店商吉山

價	藥
液製	粉製
五十錢	四十錢
	二十錢



於東北六縣清酒品評會
最高名譽賞受領



白藤

清酒

於全國清酒品評會
優等賞受領

優良國產品



藤紋印滋養芳窠葡萄酒



旗印純粹ブランデー



扇印純粹葡萄酒

釀造發賣元 弘前市松森町
藤田久次郎



資本金 四百萬圓
社長 井上源之丞

印刷株式會社

印刷界最高標準

販賣地域

南滿洲	北海道	朝鮮	本州全土
南洋	樓太	中華民國	臺灣

本社下谷工場
東京市下谷區二長町一
電話下谷一九一—一九七
凸版・平版・凹版
印刷 全 般
特許 H B 製版
本所分工場
東京市本所區橋橋一ノ廿七
電話墨田二四四—二四五
三八五六 五二二五
活版印刷一式
活字製造販賣
小石川紙器工場
東京小石川區西江戸川町七
電話小石川三〇八四 三〇八八
二二〇三 七二六一
印刷・紙器・紙工品
製作一式
大阪分工場
大阪市西淀川區大仁西三ノ二
電話福島三一五五—三一五六
三一五八
平版・凹版・凸版印刷
紙器 一 般
滿洲出張所
新京千鳥町一ノ十一



弘前市一番町

宮川吳服店

創立明治十二年

資本金 壹千八拾萬圓

弘前市大字親方町

株式會社 第五十九銀行

支店

青森、巖手、黒石、五所川原、田名部、七戸、八戸、大館、板柳、浪岡、函館、藤崎、三本木、大鰐、油川、湊、土手町、鷹ノ巣、大湊、野邊地、川内、大間、能代、木造、深浦

出張所 和徳町、浦町、新町、鶴田、大畑、佐井、脇ノ澤、鮫



14.4
814

終